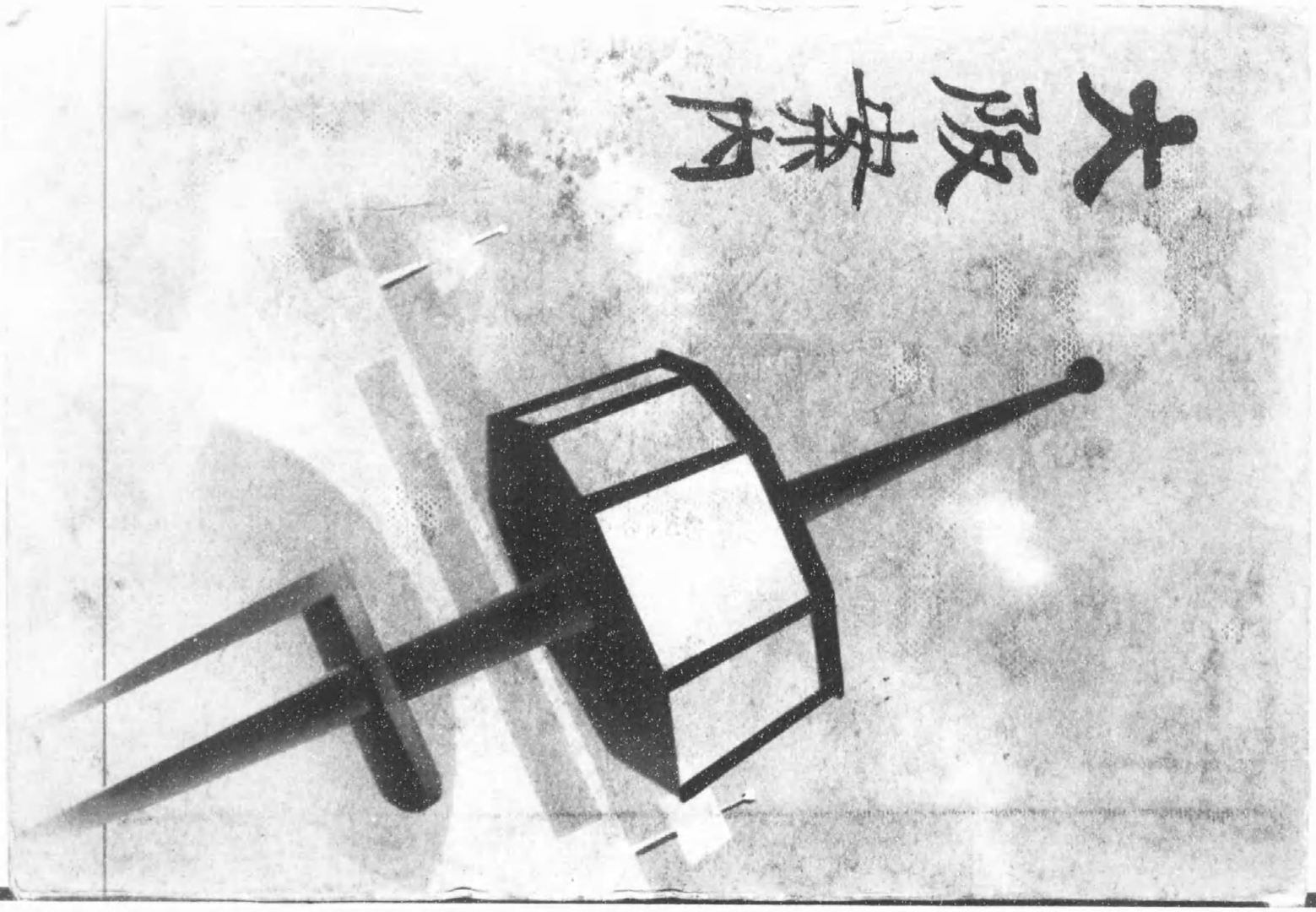
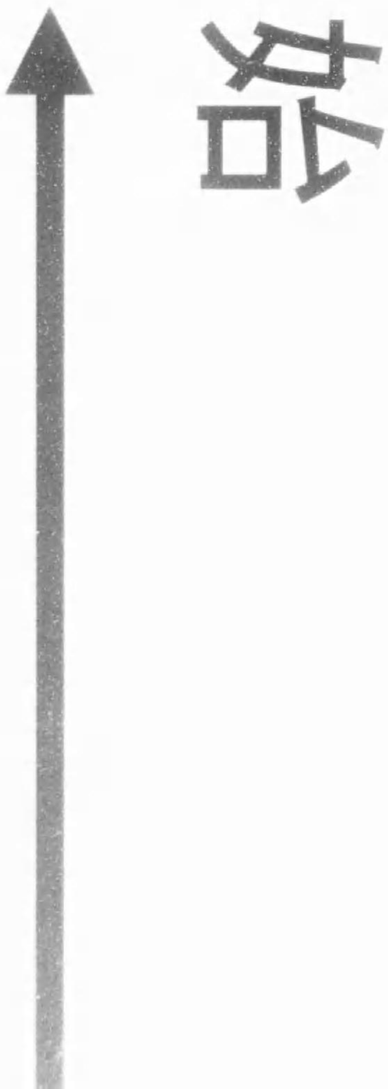

大会株式


部

特217
441

# 大阪案内

昭和六年
帝國圖書館

# 序

大阪は日本産業經濟の心臟である。國内は勿論、東洋へ、更に全世界へと、こゝから脈搏を打つてゐる。されば大阪に觸れることは、現實日本の心音に觸れ、從つて日本の生命に觸れることである。今や、東亞盟首の威力と共に、大大阪として膨脹せるこの商工都は、面貌に、規模に組織に、文化に娯樂に、殊に盛大なる工業と殷賑なる商業とにおいてまさに世界に冠絶するといつて過言でない。況んや、神武東征以來

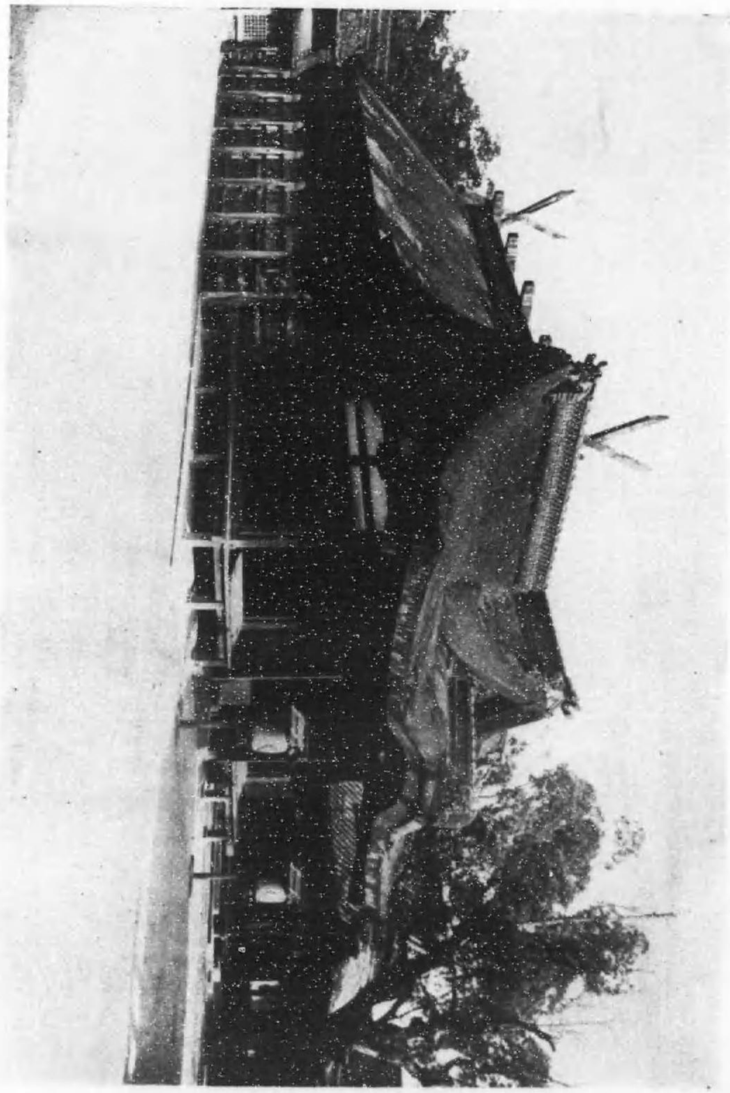
國都として、城市として、帝國の核心をなし來り、史蹟故址に乏しからざる上、近郊に發展せる名勝樂苑に富み且つ交通八達、京へ、神戸へ、奈良へ、和歌山へ、遠く神都、南紀また一瞬にして到り觀覽の都として他に比がない。されば大阪は現代生活の模型であり、その儘に大博覽會場である。少くとも一年に一度はこの現實に接觸觀覽しなくては今日のスピードに遲れるであらう。

斯くの如き大阪の生きた案内記として、また大阪人は自らを他に紹介、宣傳すべく、また全世界人は、大阪を觀覽視察研究すべく、第一の手がかりとしてのガイドブックとして吾人は先年『大阪案内』を刊行し江湖の賞讃を博し得たが、こゝに光輝ある二千六百年を迎ふるに際し、筆を新たにして改訂版『大阪案内』の編纂に着手したのである。着手以來一年余、その間、多數專門大家の指導の下に最新の大阪を、あらゆる角度より其の全貌を詳說細觀せるもの、この一書である。たゞ時局の進運に鑑み、內容に對し幾たびか斧鉞を加へ、また遽かに更改を余儀なくされたる等、當初計畫の遂行に思はざる困難を來したる爲め、資料の不備、調査未了の個所も多々あ

るべく大方諸賢の御叱正を仰ぎ、再版の機會に是正補修を期したい。

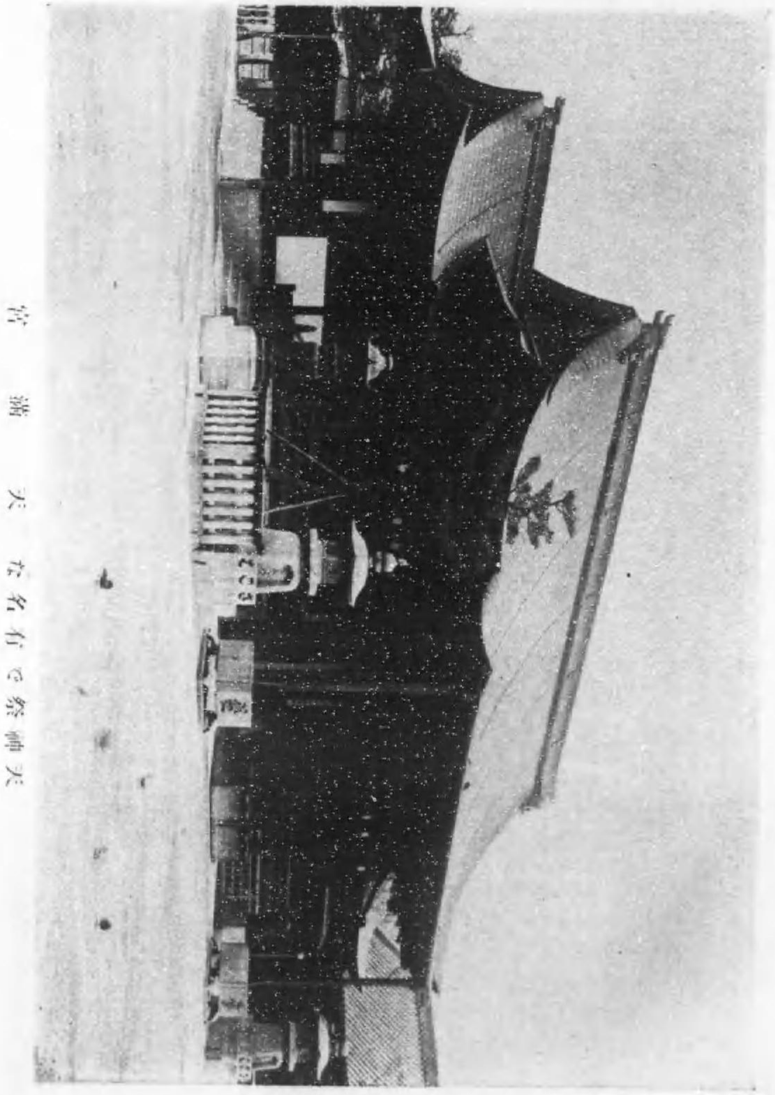
尙ほ、編纂、出版に際し、特に高助を賜りたる諸氏に對し深く感謝の微意を表する次第である。

昭和十五年十二月

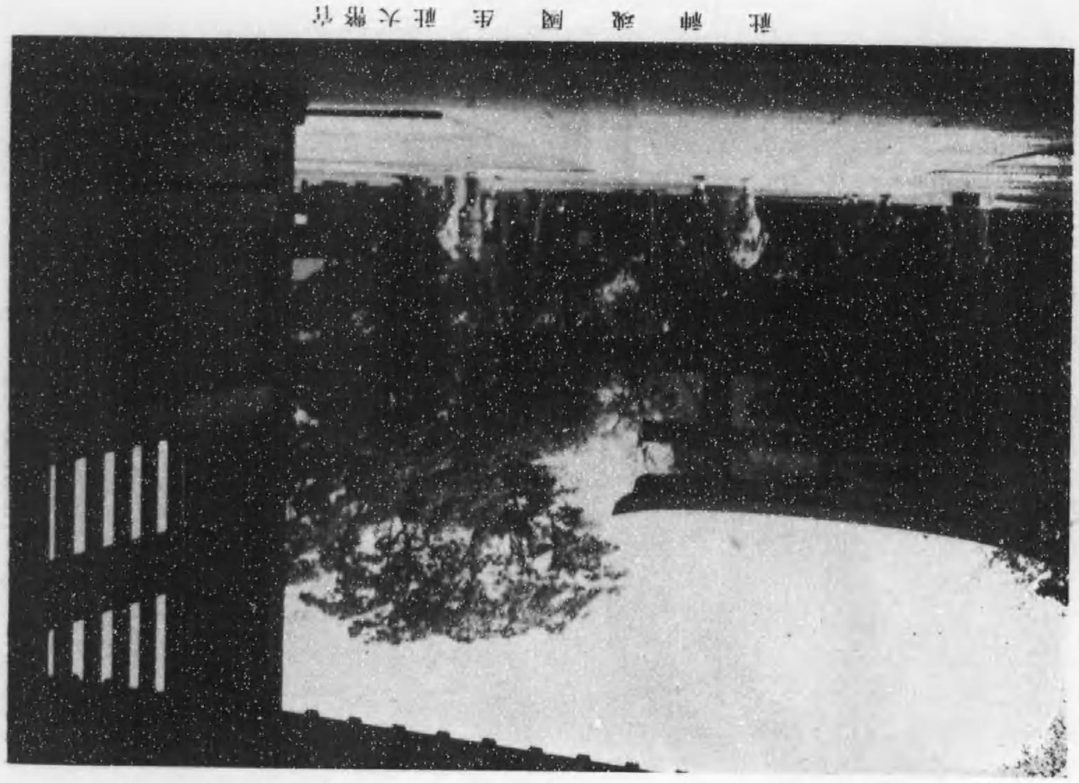


住吉神社　社殿

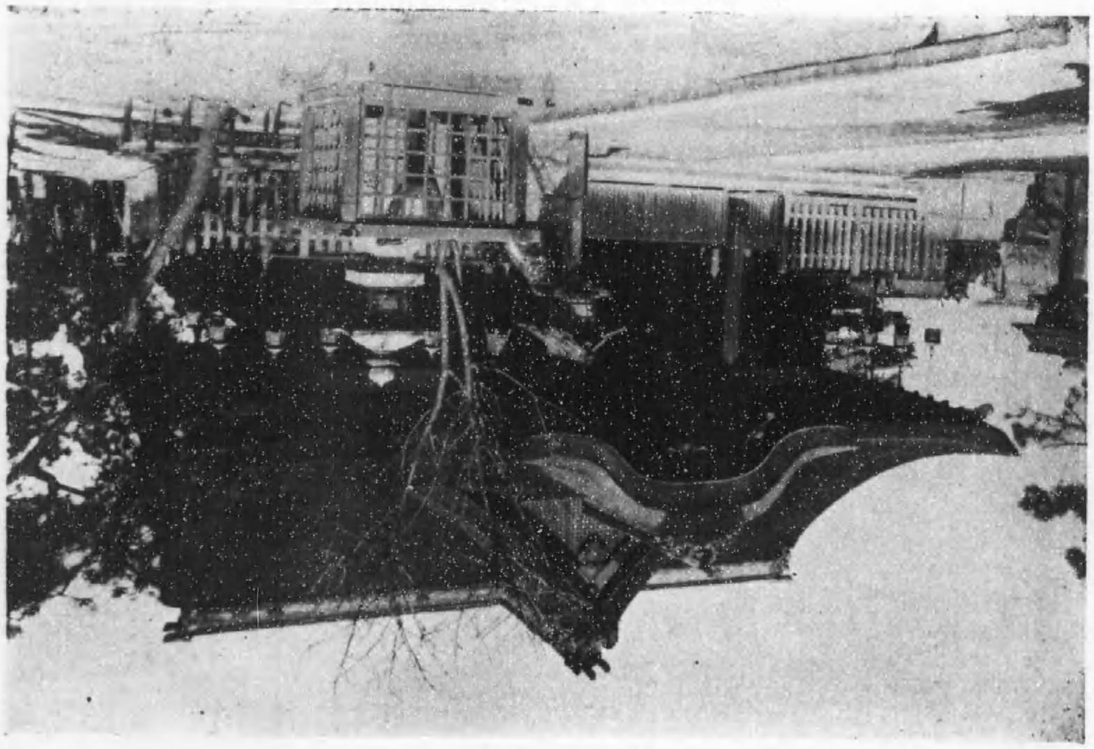
佛法最初の四天王寺



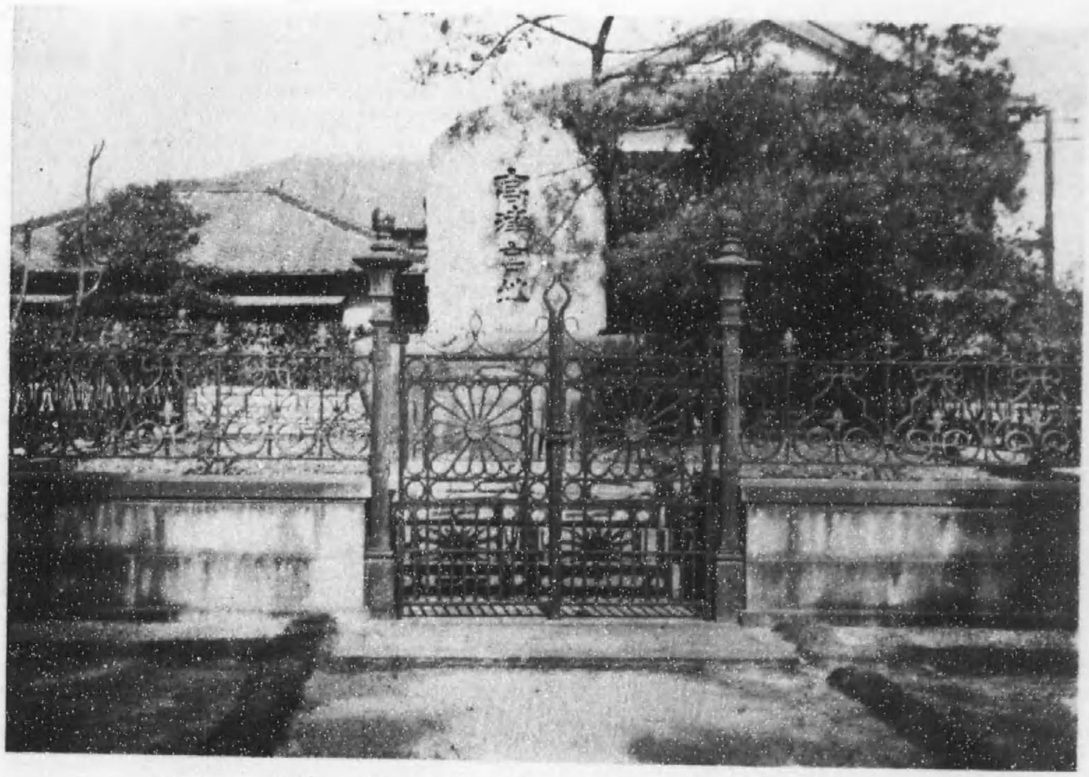
名古屋で祭神天



社神津島公園を昔の津波襲

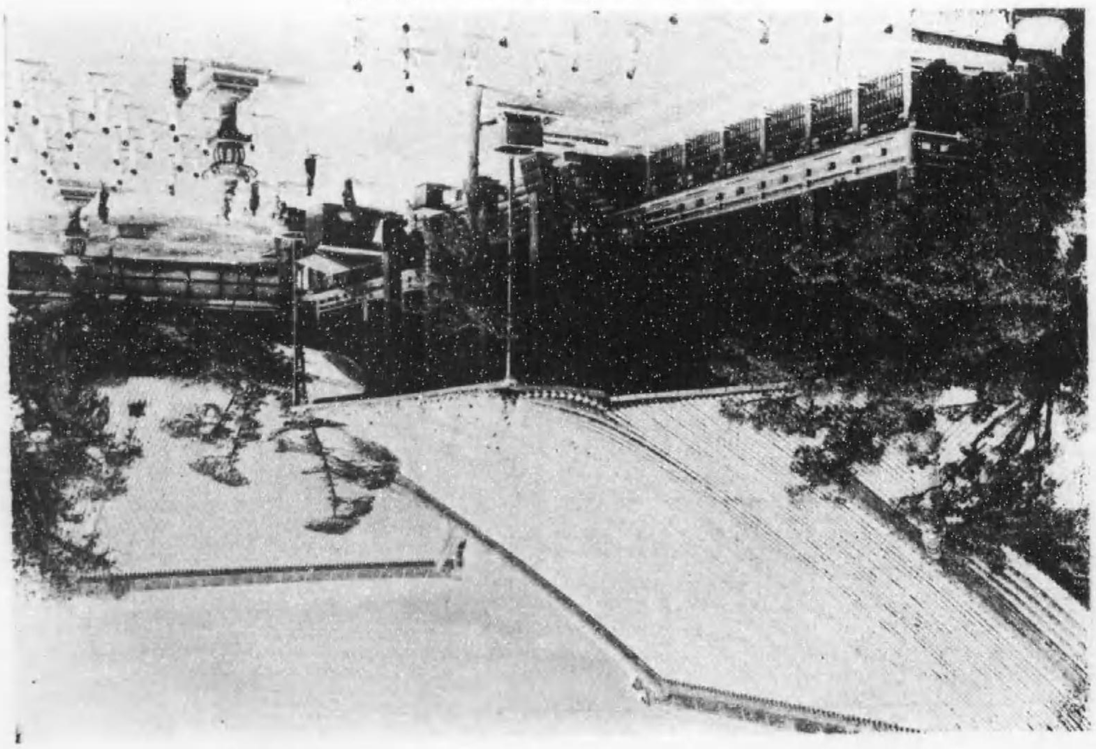


社神魂國生社大幣宮

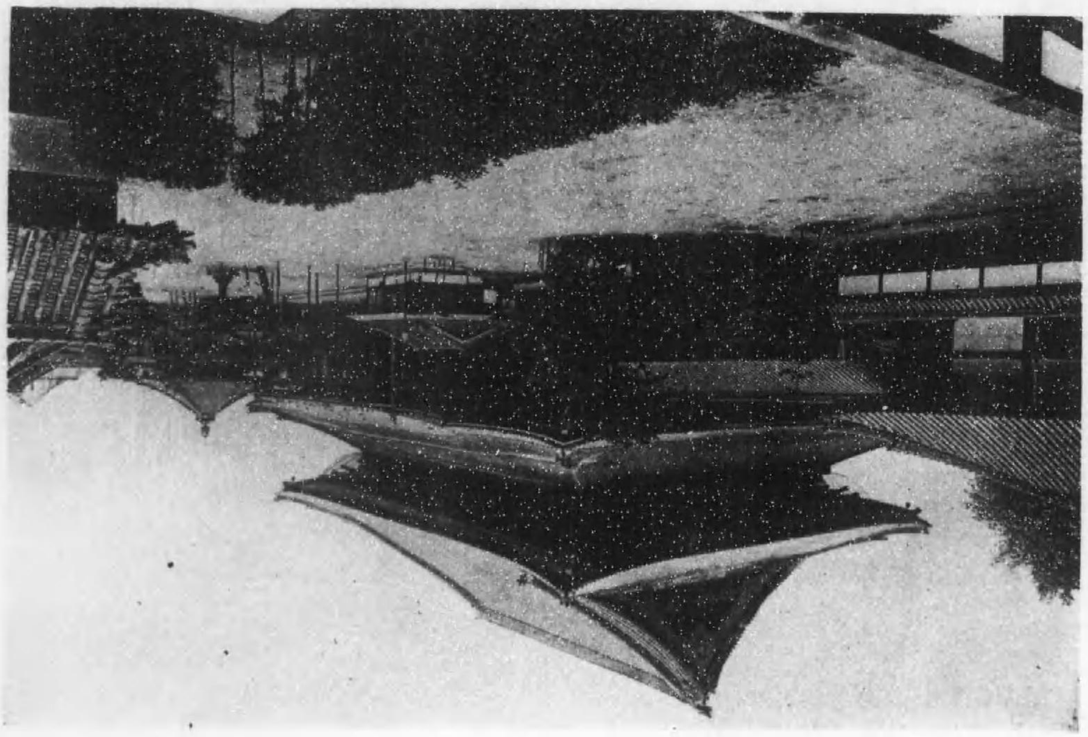



仁德天皇御即位の　高　津　宮　址

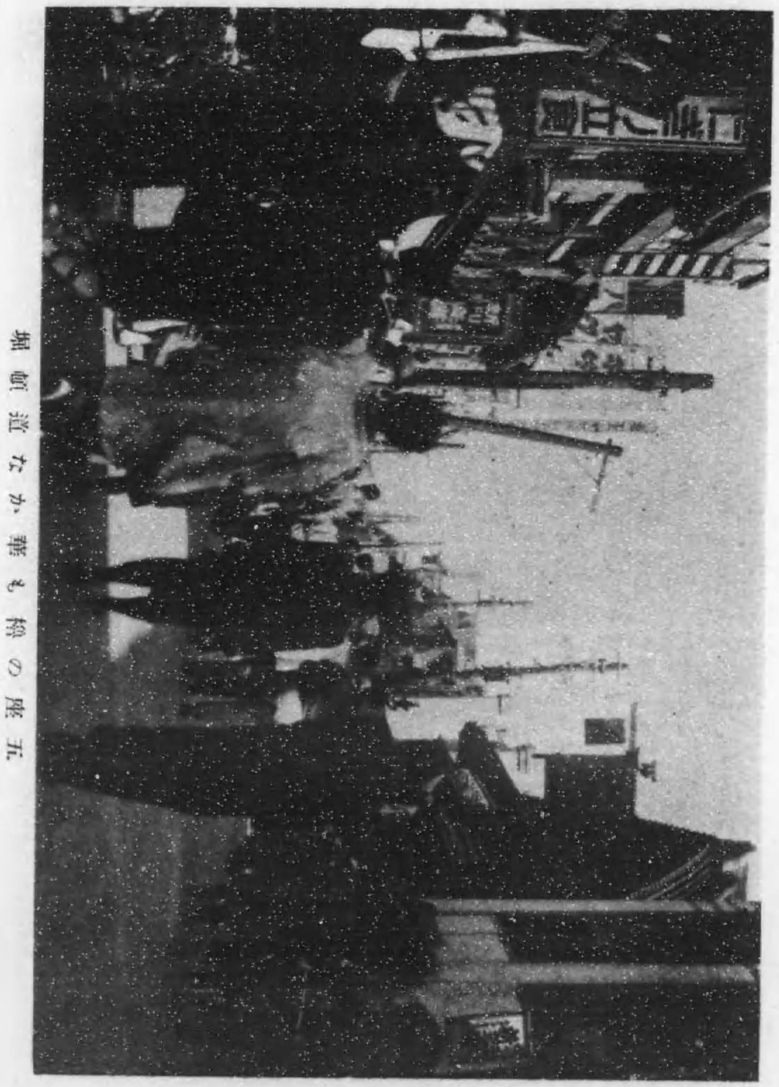
英靈鎭ります　大阪護國神社



鑑御大常御北々隧道



常　御　車　の一隧道特



堀川濱辺の華も榊の座玉

お買物の心齋橋筋

紅葉の名所　箕面の瀧

# 大阪案内

## 目次


沿革と地理……一
先覺者……一九
興亞建設の市民生活……五七

【大阪商工總覽】

總說……七三
商業總覽……七九
貿易總覽……一一七
工業總覽……一三三

【大阪見學案内】

名所・舊蹟……一五三
みやげ品・百貨店・旅館……二七九
味覺案内……二九七
興亞慰安街……三三三
郊外電車沿線……三五五

# 大阪案内（索引）


頁

## 沿革と地理……一

沿革……三
久遠の若さ……三
日本最古の港—神武天皇の御着船港—大阪史、即ち日本商業史
商都難波津の建設……五
三帝の御尊都—仁德天皇の御聖德
文化攝取の大玄關……七
佛教最初の入口—一向宗の興隆
海外貿易の窓に……八
貿易は先づ難波で—外交使節は鴻臚館へ—唐物の輸入地
町人の都……一二
商都の確立—幕府を潰した財力

## 地理……一三

大阪の市街……一三
三角洲上の展開—年々西へ擴がる
大阪の氣象……一五
平均氣溫は高い方—降雨は少い方
大阪の人口と面積……一七
六十年間に十倍の增加—日本第三位の廣さ—工四、商三の割合

## 先覺者……一九

德川時代以後……一九
石山本願寺と蓮如上人—大阪城と豐太閤
德川時代……二三
大阪の生んだ人物—安井道頓—安井道卜—末吉孫左衛門吉康—淀屋个庵—山中新六—天王寺屋五兵衛—薩摩屋仁兵衛—石丸定次—河村瑞軒—木村孔恭—住友吉左衛門友芳—殿村平右衛門—芦屋久兵衛—中井竹山—村井伊兵衛—草間伊助—山片幡桃

明治・大正・昭和時代……三三
五代友厚—日下部平次郎—淺野小右衛門—大三輪長兵衛—平瀨龜之輔—建野郷三—西村捨三—田中市兵衛—藤田傳三郎—松本重太郎—渡邊昇—弘世助三郎—廣瀨宰平—外山脩造—土居道夫—山邊丈夫—小山健三—永田仁助—片岡直輝—池上四郎—中橋德五郎—村山龍平—本山彦一—島田孫市—關一

## 興亞大建設の市民生活……五七
四千町會の活動……五九
町會再認識の氣運—町會結成の目標—町會活動の概況—町會の歩みと其の將來—臣道實踐に邁進


## 【大阪商工總覽】


### 總說……七三
私が經濟の中心……七三
生產と集散の都市—商都繁榮の根底—經濟的首都—ブロック經濟へ—軍需工業の旺盛
工業生產は驚異的發展……七四
日本工業の象徵—生產都市の面目—綿業より重工業へ轉換—長期建設へ
東亞圈貿易の據點……七六

加速度的の伸長—工業の港—市營の築港—地理的な優位—對滿支貿易を中心に發展—大陸建設に重大役割……七九
商業總覽……八一
商都の趨勢……八一
遠く上代に溯る—大阪築城—諸制度の制定—根深い底力—世界的な商工都へ
取引所・市場……八二
取引所—大阪株式取引所—卸小賣市場—大阪市中央卸賣市場—小賣市場
卸小賣店……八六
卸賣商—工場の兼營—輸出貿易の躍進—事變の影響—輸出向へ轉換—小賣商—商業組合の發達—過渡的混亂時代—百貨店—大陸進出へ
集散貨物・倉庫……九〇
四通發達の交通網—飛躍的膨張—倉庫—榮える商都の顔
會社……九二
會社數は全國第二位—資本總額四十七億—經營上の本據は大阪—組織別に見れば—業種別に見れば—中小商工會社が過半數
金融……九三
銀行—未曾有の活況—信託—金錢信託が六割—生命保險—其他の保險—總契約高は十五億—時局に目醒しい活躍—其他の金融機關—郵便貯金—無盡業
問屋街と小賣街……九八
商店街……九八
戎橋—心齋橋筋—平野町—天神橋筋—九條通—千代花通—玉造日の出通—今里商店街—松屋町筋—福島淨正橋筋
問屋街……一一〇
道修町—西横堀—西長堀—南久太郎町—井池筋—南堀江橋通—北部心齋橋筋—御藏跡町—松屋町末吉橋附近—谷町筋—立賣堀通—上福島附近
貿易總覽……一一七
大阪の貿易……一一九
全貿易額の二割五分—累年貿易額—純然たる物資出入港
輸出……一二二
圖域貿易が六割五分—主要相手國は印度南洋—洲別輸出額—工業製品の海外發展
輸入……一二六
全國輸入額の二割九分—北アメリカを筆頭に—洲別貿易額—工業原料品が大部分—輸入統制の强化—主要輸入品—輸出入のリンク制
工業總覽……一三三
工業都の概觀……一三五
我が工業の中心都—生產額は累年增加—時局の影響—事業別に見れば—大阪工業の特質—輕工業は生產減少—外貨獲得に重大役割—第三次世界市場制覇へ期待
新興代用品工業の興隆……一四〇
主要代用品—陶磁器—硝子—セルロイド合成樹脂—合成ゴム—鮫皮—鯨皮—擬革

# 【大阪見學案內】


名所・舊蹟……一五三
梅田から大江橋……一五五
大阪驛界隈……一五五
大阪驛—梅田貨物驛—大阪中央郵便局—阪急電車と百貨店—阪神電車—地下鐵梅田驛—御堂筋
梅田新道界隈……一六三
露の天神—新道交叉點—蜆橋—曾根崎新地—堂ビル—大阪市商工相談所—大阪訟訴院
大江橋界隈……一六五
大阪市廳—日本銀行大阪支店—豐國神社—可動堰—大阪府立圖書館—中央公會堂—中之島公園
北濱から天滿橋……一六九
難波橋界隈……一六九
難波橋—大株取引所—三越—道修町—葭屋橋—高麗橋
天神橋と天滿橋……一七三
天神橋—天滿宮—天神橋筋—天滿市場—松屋町筋—八軒家—天滿橋—造幣局—泉布觀—櫻宮橋—櫻の宮—大長寺
大阪城附近……一七八
大手前界隈……一七八
偕行社—國民會館—大手前高女—大阪府廳—家光仁政の鐘—大阪城
大阪城公園……一八〇
大阪城の浩革—大手門—櫻門—龍虎石—蟠石、松袖石—天臨閣—國防館—大梓—天守閣—蓮如上人衣懸松—貯水池—金明水—山里丸—教育塔







馬場町附近……一八五
JOBK局—越中井戸—ウイルミナ—高女—森の宮—城東練兵場
上町附近……一八八
上本町・玉造……一八八
寺町—圓珠庵—どんどろ大師—近松門左衛門墓所—井原西鶴墓—大軌電車と百貨店—赤十字社病院—桃山病院—高津宮—生國魂神社
夕陽ケ丘……一九三
六万體町—大江神社—青年塾堂—家隆塚—勝鬘院愛染堂—清水寺—安居天神—合邦ケ辻閻魔堂
一心寺……一九七
八窓の茶亭—本田忠朝墓—八代目團十郎の墓—小西來山墓—家康駒繋ぎ松—骨佛
四天王寺……一九八
浩革—石の鳥居—引導石—納骨堂—天王寺高女校—布袋堂—短啓堂—片桐且元井戸屋形—西大門—親鸞上人銅像—茶毘所—義經鎧掛松—廻廊—五重塔—仁王門—金堂—講堂—鐘樓—八鼓樓—龜井水—東大門—本坊—普賢菩薩像—龜の池—石鉢臺—樂舍—六時堂—頌德鐘—寶物陳列館—三面大黑天—太子殿—施藥療病院—超願寺庚申堂—雲水寺
天王寺公園附近……二〇八
阿部野橋界隈……二〇八
大阪の新宿—南海山手線—省線天王寺驛—大鐵電車と百貨店—南海上町線
天王寺公園……二一三
洋式花壇—植物溫室—開かずの門—美術館—茶臼山—慶澤園—市民博物

館—ラヂオ塔—池上四郎氏銅像—音樂堂—市立動物園—新世界—南海上町線

日本橋から木津……三六

日本橋筋界隈……三六

松坂屋—御藏跡町—五會百貨店—市設集合住宅—廣田神社—今宮戎—小西來山の墓

木津界隈……三〇

大國町交叉點—願泉寺—今宮驛—榮町—赤手拭稻荷—大國神社—八阪神社—鐵眼寺

難波から御堂筋……三三

難波驛界隈……三三

專賣局大阪工場—高島屋—南海難波驛—地下鐵難波驛—南の盛り場

御堂筋を北へ……三五

三津寺—八幡筋—大丸—そごう—新橋—心齋橋

四ツ橋界隈……三八

文樂座—四ツ橋—電氣科學館—堀江と新町—阿彌陀池—土佐稻荷—新町橋

船場界隈……三三

難波神社—南北兩御堂—芭蕉終焉の地—坐摩神社—陶器神社と瀬戸物町—船場問屋街—府立貿易館—懷德堂—錦繡堂—大阪美術倶樂部—ガス・ビル—平野町商店街—御靈神社—道修町と神農さん—大阪倶樂部—阪神海軍部—淀屋橋

中ノ島・堂島……四一

堂島川を西へ……四一

大阪のシヴィック・センター—大阪朝日新聞社—朝日ビル—朝日會館—米の堂島—大阪毎日新聞社—新大阪





ホテル—大阪ビル—大阪商船會社—大阪商工會議所—大阪中央電信局—大阪帝國大學—阪大病院—福澤翁誕生地—西中ノ島—夕刊大阪新聞社—堂島大橋

川口から大阪港……二四九

安治川を下る……一四九

川口波止場—中央卸賣市場—安治川と河底隧道—天保山—大阪築港—浪速驛

木津川を上る……二五四

木津川運河—大船橋—大阪第一飛行場—木津川本流—三軒家—大正橋—津浪の碑

市岡から福島……二五九

市岡・九條界隈……二五九

市立運動場—港新地—市岡中學—港川—大阪市電氣局—茨住吉神社—九條新道—天滿宮行宮

本田・川口界隈……二六三

竹林寺—川口居留地跡—大阪府工業奬勵館—雜喉場と靱—昭和橋と船津橋

西野田・北港界隈……二六五

惠美須神社—野田の藤—西成線附近—逆櫓の松—專修寺—島屋町—北港海岸—西野田阪神前—淀川大橋—御幣島

福島・浦江界隈……二六九

福島西通—天滿宮上之社—淨正橋と聖夫通—浦江北大阪線

天六から扇町……二七二

天六・長柄界隈……二七二

天六交叉點—鶴滿寺—長柄寺—柴島水源地—大願寺—崇禪寺—瑞光寺—毛間關門—俳人蕪村の地

扇町・堀川界隈……二七五
扇町公園—堀川戎神社—寺町・太融寺—綱敷天神
みやげ品・百貨店・旅館……二七九
みやげもの……二八一
土産品も新しい姿へ—郷土みやげの数かず—新しい土産品—新體制時代
百貨店……二八三
大阪の百貨店—三越—高島屋—大丸—そごう—松坂屋—阪急—其他の百貨店
ホテルと旅館……二九一
旅館—觀光旅館協會—商人旅館—團體旅館—ホテル
味覺案内……二九七
大阪の味覺……二九七
大阪の食ひ倒れ—時局の影響—生れる新しい名物料理
日本料理……三〇〇
宴席料理—即席料理—茶會席、普茶料理—天ぷら—うなぎ—關東煮—一品料理—にぎり壽し—すき燒—かき船
支那料理……三二四
本格的な支那料理店—いろいろの店
西洋料理と大衆食堂……三二七
宴會場—グリル—大衆食堂—百貨店の食堂
珍しい食べ物……三三二
しるや—湯豆腐—豆飯—紙すき
興亞慰安街……三三三
南の盛り場……三三五
南海ビル附近—道頓堀—千日前—心齋橋筋





新世界……三四五
通天閣—映畫館、劇場—南陽新地—石屋町小路
松島・九條……三四九
松島—千代花通—茨住吉境内とその附近—九條新道
天神橋筋……三五〇
天滿宮附近—天六風景
商店街……三五一
淨正橋筋—平野町筋—其他の盛り場
新興歡樂街……三五二
阪急阪神前附近—阿部野橋界隈—大阪國技館附近
近郊案内……三五五
郊外電車と市民……三五七
京阪沿線……三五八
攝津耶馬溪を探る……三五八
高田町—神峯山寺—能因法師の墓—高槻町—新攝津耶馬溪
櫻井の驛と天王山……三六〇
水無瀬宮—山崎—寶積寺—妙喜庵—天王山
京の西山を尋ねて……三六一
長岡天滿宮—土御門天皇金原陵—揚谷觀音—栗生光明寺—善峯寺—大原西嶺上陵—乙訓郡の竹と笛
嵐山の線に沿つて……三六三
桂離宮—松尾神社—嵐山と嵯峨野—小督の墓—天龍寺—愛宕山
天滿橋から京の町……三六五
香里—枚方町—石淸水八幡宮—淀城址—桃山町—御香宮—雀のお宿—稻荷神社—東福寺—原滿寺
宇治は茶どころ……三六九
法界寺—醍醐寺—上醍醐寺—黃檗山

—萬福寺—三寶寺—宇治橋—平等院
—鳳凰堂—扇の芝
省線片町線……三七二
野崎詣りと四條畷……三七二
情緒を繞る野崎—小楠公の忠節を想ふ四條畷神社—飯盛山
阪神沿線……三七四
灘五郷と六甲附近……三七四
尼崎市—鳴尾—甲子園—阪神パーク—西宮市—芦屋市—灘五郷—六甲山ハイキング—摩耶山
阪急沿線……三七八
十三から豊中市へ……三七八
十三—崇禪寺—瑞光寺—新興豊中市—石橋
箕面から勝尾寺へ……三八〇
箕面公園—瀧安寺—箕面の瀧—勝尾寺—萱野三平の遺跡
池田から能勢妙見……三八一
池田市—吳服神社—多田神社—能勢妙見—花屋敷—山本
中山から寶塚溫泉……三八二
中山寺—清荒神—寶塚—動物園、植物園、新溫泉、舊溫泉—有馬溫泉
十三から神戸へ……三八六
伊丹—曇染寺—西宮球場—廣田神社—甲山神呪寺—六甲山麓を神戸へ—摩耶山—天上寺
大鐵沿線……三九〇
阿部野から道明寺……三九〇
藤井寺—譽田八幡—薄田隼人墓—惠我藻伏山陵
上の太子と其附近……三九二
觀福寺—源家三代墓—二上山のぼり
楠公の遺跡めぐり……三九四





葛城山麓弘川寺コース—遺跡めぐりコース—嶽山汐宮コース—僧空海の墓—金剛山—楠公誕生地
古市から吉野山へ……三九七
當麻寺—石光寺—久米寺—橘寺—岡寺—壺坂寺—吉野神宮—藏王堂—吉水院—如意輪寺—塔尾陵—竹林院—金峯神社
南海沿線……四〇二
本線住吉公園まで……四〇二
萩の茶屋—天下茶屋—阿倍野神社—住吉神社—浪花江の笠松—住吉公園—住ノ江公園—大阪護國神社
堺市内とその内外……四〇四
龍神驛—妙國寺—割腹の碑—開口神社—南宗寺—大安寺—大濱魚市場—大濱潮場
濱寺公園と其附近……四〇七
濱寺公園—石津—助松—葛の葉
岸和田から紀の川……四〇八
岸和田港—岸和田城址—岸津神社—蛸地藏—淡輪—淡輪御陵—深日浦谷川港—谷川の堂坊址—孝子—紀の川
高野線の楠公遺跡……四〇二
北野田—長野—觀心寺—恩賜講堂—楠正成公首塚—延命寺—天野山金剛寺
紀見峠から高野山……四一四
千早口—天見—紀見峠—九度山—高野山—高野の總門—三鈷の松—金堂—奥の院
南海山手線……四一七
天王寺から鳳驛へ……四一七
臨南寺—淺香山—百舌鳥御陵前—上野芝—家原寺—お鈴の宮—大鳥神社
葛葉から牛瀧山へ……四二〇

葛の葉驛―府中驛―久米田驛―牛瀧山
貝塚から砂川遊園……四二〇
貝塚―和泉橋本―水間寺―愛染椿―熊取驛―日根野驛―犬鳴山―長瀧キャンプ場―砂川遊園
山中溪から和歌山……四二三
山中溪―紀伊驛―根來寺―多寶塔―鉦鐘不動―六十谷驛―紀伊中ノ島驛―東和歌山驛
和歌山から和歌浦……四二四
和歌山市―和歌山城址―和歌浦―片男波―東照宮―玉津島神社―妹脊山―新和歌浦
紀三井寺から加太……四二六
紀三井寺―加太の浦―淡島神社
南紀省線巡り……四二七
和歌山鐵道沿線……四二七
日前國懸神宮―竈山神社―伊太都神社
紀勢線で熊野路へ……四二九
有田蜜柑本場―箕島町―道成寺―南部の梅林―龍神温泉―白良濱―湯崎温泉―臨海實驗所―逢瀬―椿温泉
瀧八丁と南紀奇勝……四三二
溺岬―串本町―勝浦港―補蛇洛寺―那智の瀧
大軌沿線……四三六
葡萄の堅下を訪る……四三三
布施若江―久寶寺―八尾―信貴山―堅上堅下
生駒を經て奈良へ……四三四
木村重成墓―瓢箪山―花園―枚岡神社―生駒山ハイキング―石切劍箭神社―寶山寺―あやめ池―藥師寺―唐





招提寺―菅原伏見東陵―西大寺
西の京の史蹟……四三七
秋篠寺―法華寺―奈良公園―春日神社―春日若宮―春日山―嫩草山―東大寺
聖地橿原を伏拜む……四四〇
橿原神宮―神武天皇御陵―神宮外苑
櫻井から香落溪へ……四四二
櫻井町―阿倍文珠堂―淡山神社―長谷寺―室生寺―赤目四十八瀧―香落溪
× × ×
大阪市内年中行事……五六
大阪難讀町名案内……四四八

## 挿入寫眞（美術アート印刷）

住吉神社……一
四天王寺……二
天滿宮……三
生國魂神社……四
高津神社……五
高津宮址……六
護國神社……七
南御堂……八
北御堂……九
道頓堀……一〇
心齋橋……一一
箕面の瀧……一二
住吉公園……商三

# 大阪の沿革と地理

## 金城懐古

長田他山

此地孤城在英雄一去空
崇樓斜照外雉堞晩煙中
鴨鵜游濠底鵲鴉噪樹叢
幾人爲生恨菱閣駐秋紅

# 沿革

久遠の若さ

**日本の最古の港**

高き屋にのぼりて見れば烟立つ民のかまどは賑ひにけり

世界の大大阪！世界の大商港、世界の大産業都市として、今やわが大阪は、啻に東亞の心臓たるのみならず、まさに世界に雄飛しつゝある日本の臺所の中樞である。仁德聖帝の御製はやがてまた今日の大大阪の狀貌を端的に咏じさせ給うたものといつてよろしい。如何に滿天を罩めて盛んなる紫煙の立つことよ！いやが上なる民の竈の賑ひよ！しかもこの殷賑は昨日今日のことではない。大阪こそ、日本における最も古き、また最も永き歴史を有する商都、商港の名譽を持ちつゞけて來たのである。

### 神武天皇の御着船港

蓋し難波の津の草創は、邈遠の神代にあるらしく、「日本書記」に據れば、皇宗神武天皇、御東征の途、舟師を率いてこゝに着き給ふよし見える。凡そ人類の歴史は、土地豊穣な河口に起ること、東西規を一にし、わが帝國も亦、淀川口三角洲の上に商都大阪掛まつて、爾來二千六百年、躍進止むなき帝國の心臓として搏動しつゝあるのだ。尤も上古の大阪は、今の天王寺から大阪城附近へかけて南北に横たはる丘陵地帯が外海の防波堤をなす岬で、その東側の漣しづけき入江の内に難波の碕があつたらしい。そして夙く既にこゝが三韓、漢土との交通要津となり、世界の難波津として、「今を春べと咲くやこの花」のさかえを示したことは語るまでもない。

### 大阪史、即ち日本商業史

かくてのち、こゝが國港として常に如何に盛大且つ重要であつたかは、歴史を通じて知るところで、大阪史即ちわが商業史、經濟史、貿易史、海外發展史であるといつても過言でない。まして、巨都大港も、しば〳〵榮枯盛衰の運あり、ありし日のロ！マ、ゼノア、さては鎌倉、小田原、堺など伺れも悌を異にするが、ひとり、難波――大阪のみは、時に起伏あつたとしても、脈々蕩漾として繁華の一途を躍進し、つひに今日に見る世界の大大阪たる偉觀にまで發展したのである。そして永遠に若々しく、永遠に萠えさかえて、何時までも老ひることを知らない。

嗚呼、熾んなるかな、大大阪！かくて久遠の若さと繁榮こそ、わが大阪の特徴である。われらは先づこれを祝福して、つぎ〳〵にその全貌を眺めるであらう。

## 商都難波の建設

### 三帝の御奠都

現に商工大都市として、世界の經濟機構上、わが心臓部をなす大阪は、國初既に國家の中樞をなし、早く三韓その他の外邦との交通にあたり難波の津こそ常にとつ國の船の集まり來り、またわが遣外使の船出する港であつた。皇紀九百五十一年、應神天皇はこゝの大隅の宮に行幸ありて、韓土の貢を受けたまひ、ついで仁德天皇は高津の宮に都を奠められ、はじめて都市の經營を行ひたまうた。爾來、欽明、推古そのほか歴朝にわたり、こゝより佛教文化をはじめ、東亞大陸の文物百貨の齎らされたことは史乗に徴せられる。聖德太子が四天王寺を造營せられた盛觀は殊に察するだに餘

りあり、のち、孝德天皇が大化の新政を行はせられるにあたつてもまづこゝに御遷都のことあり、その長柄豐崎宮は、新しき大規模による大内裏の御造營に八年を費され、百官諸廳、壯麗輪奐の美、前古無比であつたといふ。更に奈良朝の最盛時にあたり聖武天皇もその天平十六年に、こゝに首都を奠むべく、宏大な皇居を築かれたのである。

### 仁德天皇の御聖德

かくて歷代の聖帝何れも、帝國の中心として大阪を選びたまひ、その度毎に宮殿を營み、港を修め、市街を整へたまうたので、次第に繁榮の基礎を固めたのであるが、中にも仁德天皇の民業振作は、特に記憶さるべきである。即ち天皇は御即位の四年、宮居の高殿から民の炊煙をみそなはし、仁慈の御心もて租稅を免じ、窮乏を賑はせたまうた。その御聖德の餘澤は實に今日に及ぶのである況んや更に天皇は、民福のため水利を起し、土木事業を完成したまひ、蘆邊をさして田鶴なきわたれる入江のほとりの、自然發生的な小市街に過ぎなかつたこの地を、國家的、國際的なる港都として開きたまひ、こゝに多望なる前途を導き出されたのであつた。今、高津の宮に天皇をいつきまつりて、大阪の鎭護と仰ぐことも故ありといつてよい。

## 文化攝取の大玄關

### 佛教最初の入口

かくて、地の利を占める上、更に歷代君民の賜物として、運河を穿ち、橋梁を架け、道路を通じ、また船舶を營んで、諸般の設備いよ〳〵成るとともに、調貢の來港、使節の往復、殊に遣唐使、留學生の發着ます〳〵繁く、つぎ〳〵に時代の新空氣を滿喫して、難波津は、つねに文化の第一線に活躍しつゝけた。

されば難波津を通じて、大陸から移入された百般の影響は、簡單に述べ盡し得ないのであるが、特に顯著なのは欽明天皇六年、佛教の渡來である。その精神文化展開の源泉として寄與した點は多く語るを要しない。且つ渡來當初、その信仰の可否について民心歸着に迷ふにあたり、聖德太子は深く心に決せられるところあり、先づ難波に四天王寺を建立された。これ、當時の文化と思想との最大記念碑として最も意義深いもので、今も尙まのあたり堂塔大伽藍を仰ぐ者、誰れか大阪の淵源遠く、史績著しきを感ぜぬ者があらうか。

## 一向宗の興隆

爾來、海には大船巨舶舳艫をならべ、陸には碧甍朱欄軒をつらね、壯麗豪華を競ふこと年と共に賑はしく、しかるにかく殷賑を極めた難波津も、桓武天皇の延曆年間、河川改修工事の違算から海港たる資格を失ひ、漸次衰亡の道を降ることゝなり、同時に、隣接の堺が貿易港として擡頭し始めた。足利時代に及んではここを大阪（又は小坂）と呼び、帆影まばらな辟村として餘喘を保つに過ぎなかつたが、戰國時代に至り、再び隆昌の機に惠まれた。即ち、親鸞が創めた淨土眞宗（一向宗）の第八世宗主蓮如は、明應五年、生玉の庄内に石山別院を建立し、本願寺を移した。當時、淨土眞宗の勢力は全國に及んだので、石山本願寺成るや宗徒陸續と集り來り、いはゆる門前市をなして、忽ちに昔往の繁華をとり戻したのである。聖德太子以來、佛敎に哺まれたこの土地の、再び佛敎によつて興隆したのは蓋し因緣淺からずといふべきである。

## 海外貿易の窓口

### 貿易は先づ難波で



港として發達せる大阪が、海外貿易と切つても斷れぬ密接な關係にあるのは當然で、難波の歷史はやがて海外貿易の歷史であつた。即ち崇神天皇六十五年（皇紀六二八年、西紀前三三年）任那から朝貢を奉つたのが、正史に見えたる外國と正式に交渉のあつた最初であらう。ついで漢土との通好も行はれ、年を追つてます〳〵盛んになつた。例へば應神天皇の十六年、百濟國から王仁が來朝して器物、吳服などと共に論語、千字文を献じ、同じく四十一年には吳に遣した使者が縫工女を伴つて歸朝するなど、何れも海外新知識のわが文化、產業等の開發に寄與するところ極めて大きかつたことは言ふまでもない。そしてこれらは何れも難波を玄關として入り來つたもので、いはゞこの窓から異國風の新鮮な風がさはやかに吹き込みはじめたのである。

### 外交使節は鴻臚館へ

ついで仁德天皇の御宇には、海港都市としての諸設備成ると共に、交易いよ〳〵頻繁で、難波に居留する外人も少くなかつたことは、土木事業に新羅人を使役した記錄を見ても推察できる。爾來、交通、貿易はます〳〵順調に發展して、尤恭、雄略、繼體、欽明、敏達、推古、孝謙の諸帝に至るまで隆盛を極めた。

即ち記錄に據れば、繼體天皇の六年(皇紀一一七二年)難波の鴻臚館に於て百濟の使者を引見し、その後も外客との接伴には常に鴻臚館の名が見受けられる。これは外客入貢の要地、即ち京都、博多及び難波の三外交要處に設けた接遇客舍の名稱で、難波にあるものは特に難波館とも呼ばれ、外客あればまづこゝに招じて大に歡待し、親睦を交はし、またこゝで貿易をも行つた。けだしこの時代の交易はすべて官府の手によつて行はれ、從つて交易品はその專有であつた。故に當時の貿易は外交的意義を有し、單なる商取引とは區別して考へなければならぬ。これは平安時代を通じてもさうであつた。

### 唐物の輸入地

商取引としての貿易が始つたのは、武家政治の時代に入つて以後で、平清盛、北條時賴の頃宋との交通あり、唐錦、唐綾等の類、什器、筆墨、文房具類、敷物等が貴顯紳士を喜ばせた。ついで弘安の役を契機に、宋の後に興つた元との國交關係惡化し、一時は交易さへ杜絶した。加ふるに南北朝時代以降わが國內亂の爲め、貿易などの騷ぎでなく、僅に倭寇等の變態的海外關係あるのみで商業貿易全く振はなかつた。のち足利氏の末長崎、堺などの諸港の興つた頃には、難波——大阪は一時貿易港としての位置を失ひ、むしろ政治的、或は商業的中心地として甦生しつゝあつた。かくてのち隆々として進展止まず、現在の大阪の盛大なる海外貿易となつた。

## 町人の都

### 商都の確立

天正十一年豐臣秀吉の大阪城建設は、この地をして忽ち城下町としての大飛躍的發展に導いたのち、慶、元兩度の戰禍によつて一時頓挫したとは言へ、やがて復興策よろしきを得、德川幕府の直轄統治となつて以來、更に土木建築工事など積極的に行はれ、商業諸制度も改善され、市民の經濟的勢力は漸次强力堅實なものとなつた。

覇權を握つた德川幕府が、商業都市としての大阪の經營に力を注いだのは、一國消長まつたく經濟力にかゝることを考慮したものである。即ち江戸時代を通じての國策としての商都大阪が嶄然卓立してゐたのである。更にその發展を助長したのは、全國の諸侯各々こゝに藏屋敷をおいて、領內の物產賣買機關としたことで、この結果全國の物資自から集り、株組合、爲替兩替、金銀、米穀相場

等の商業的諸制度も確立し、名實共に物貨集散市場として整つたのである。

### 幕府を潰した財力

思ふに、現に大阪は商人の都會と呼ばれるが、これは既に德川時代に於て「町人の都」であつたのである。この約三百年の間種々の好條件にめぐまれて、大阪の町人はふとるだけふとつた。その蓄積した富は更により以上の富を吸集するスポンヂとなつた。そして遂に強大な大阪商人の勢力の前にはさすがの幕府も低頭しなければならない狀態にまでなつた。かうした新興市民の經濟的勢力の擴張は、反面には幕府勢力の衰退を語るもので、明治維新は即ちこの二勢力の交替にほかならない。こゝにおいて封建制度亡び資本主義社會の繁榮するを見るに及び、その中樞たる町人の大阪が空前の大飛躍に際會したのは、あまりに當然である。

元旦

難波津にさく夜の春や梅の春　梅翁
秋立つや石の舞臺の朝しめり　春浦

# 地理

## 大阪の市街

### 三角洲上の展開

琵琶湖の水が溢れた淀川口の三角洲に蹲り、攝河泉大平野の眞中に光輝燦たる大阪市は、正確に言へば東經百三十五度二十四分より百三十五度三十五分、北緯三十四度三十五分より三十四度四十六分の位置にあつて、東西の最長距離十五粁九八、南北の最長距離が二十粁二九に達し、東は北河内郡、中河内郡に、南は大和川を隔てて堺市及び泉北郡に、西南は大阪灣に面し、北は神崎川を境にして兵庫縣及び豐能、三島兩郡に接してゐる。

河口の三角洲の上に發達した市街の地勢は、もと海中に突出した岬であつた市中央部の丘陵（上本町筋）を除いたほか殆ど平坦で、淀川は市の東北で分れ、一は新淀川、一は大川、堂島川、土佐

堀川、安治川、木津川、尻無川、中津川等となつて市街を貫流してゐる。これを多くの堀割が連結し、市の産業交通に貢献してゐる。かゝる河川や堀割の多くは徳川時代に改修又は開鑿されたもので、安治川、土佐堀、京町堀、道頓堀、薩摩堀など、すべて當時の工事を記念する名稱である。加ふるに、これ等幾十條の堀割に停滯する汚水を清淨する目的で作られた可動堰は新らしい地理的風物である。

### 年々西へ擴がる

埋立工事の結果、土地は年々海を押しのけて西へ擴がつてゐる。築港方面、鶴町、船町方面は最近の埋立で出來た市街で、工事は現在も續けられてゐる。然し計劃的な埋立は徳川時代に干拓の方法によつて既に行はれてゐたもので、津守、春日出、市岡、西島、泉尾等は當時の干拓新田の名稱が現在町名として殘つたもので、史家の研究によれば元祿年間以降西方へ約四粁市街が擴がつたと言はれる。

市街地圖を擴げてみると、市の中心部に碁盤目形の整然とした一劃が眼につく。これは船場島之内一帶で、豊臣秀吉の時代まで大坂の近郊であつたので、秀吉は理想的な商店街を營む目的のもとに正方形の區劃を定めてつけた道路の名殘りがこれである。日々あらたに、古い傳統の滅びてゆく今日、この附近の商家が尙ほ昔風の習慣を維持し、特殊な雰圍氣に生きてゐるのは、長い期間に培はれた根强い氣質によるものである。

## 大阪の氣象

### 平均氣溫は高い方

大阪の平均氣溫は、われ〳〵の肉體に最も快適な十五度である。一年中十五度ならば申分ないが、殘念乍ら平均氣溫に當る時期と言へば四月中旬から一ヶ月、十月中旬から一ヶ月の二ヶ月しかない、それでも、大阪は他の大都市にくらべると、平均氣溫が高い方で、倫敦、伯林よりは約五度、巴里、紐育よりは約四度、東京よりは約一度高い。

最も暑いのは八月で平均二十七度、寒いのは一月で平均四度、その差が大きい。尤も冬はアジヤ大陸から海を越えて來る寒風を、中國山脈が防いでくれるので割合樂だが、夏はかなり暑熱に苦しむ。これは濕度や、家屋の構造や、密度などの關係もあるが、暑い筈の臺灣よりも大阪の方が餘程

凌ぎにくいと言はれる程で、晝夜寒暖の差の少い大阪の夏の夜のむし暑さは餘り嬉しくはない。

### 降雨は少い方

雨量は前記の大都市にくらべると多いが、わが國だけの比較では少い方で、降水日數は年百四十日に足りない。從つて大阪の冬は殆ど雪のない冬で、一般的に言つて快晴の日が多い結果になる。だが一年の中大阪の空が艶やかなコバルト色に晴れてゐる日が幾日あるだらう。雲がなくても、太陽が輝いてゐても、空はどんよりと黒ずんで汚れてゐるのである。これは、四季を通じて西及び北から吹く風が多いところへ、その風上に工場の數知れない煙突が立並んで絶えず煤煙を吐き出してゐる結果である。煤煙は最近設備の改善で幾分緩和されたが、ただ緩和されたと言ふ程度で、市民が煤煙の苦痛から解放される日は尙遠い模樣である。街を歩いてひどく埃つぽい印象を受けるのは、實際埃も多いが、この煤煙の煙幕と、樹木の水々しい茂みの見られないためである。

行く年やとても難波の橋の數　青蘿
千人の日傭そろふや雪の朝　太祇

## 大阪の人口と面積

### 六十年間に十倍の增加

大阪の人口が初めて記錄に載つたのは、二百七十年ばかり前の寛文五年で「玉露叢」に二十六萬八千七百六十人と出てゐる。

明治元年には二十八萬一千三百六人、第一回の國勢調査が行はれた大正九年には、百二十五萬二千九百八十三人、昭和十年十月現在の國勢調査では二百九十八萬九千八百六十六人となつてゐる。明治初頭まではその增加率が極めて緩漫で、明治以降近代產業の興ると共に急激に增加したのは、自然增加以外にそれによつて人口の都市集中が行はれた結果である。

世界で人口の多い都市として大阪は第七位に當る。

### 日本第三位の廣さ

大阪市の面積は、百八十七方粁（十二方里）で東京市の五百五十四方粁、京都市の二百八十九粁のつぎで、わが國では第三位の廣さである。全市を別つて、東、西、南、北、此花、港、大正、天王寺、浪速、東淀川、西淀川、東成、西成、住吉、旭の十五行政區に區分されてゐるが、そのうち

住吉區の三十九方粁を筆頭に東淀川、西淀川、旭、此花など周圍部の新市各區が之に續き、最小は南區の二方粁七三である。そうして人口密度の最も高いのは南區で、全市の平均密度の約三倍に當る。最低は住吉區で、このほか大正、西淀川、東淀川、旭の四區を除いた各區は何れも平均密度をはるかに越えて居り、これによつて見ると、面積と人口密度が中央部と周圍部に於て明らかに反比例してゐることが判る。

### 工四、商三の割合

人口の分布狀態を概括的に言へば、大きな銀行、會社、商店等オフィス街のある中央部と、先年市に編入されて未だ郊外的な風景を多分に殘してゐる外廓部とがまばらで、その中間の部分に稠密な地帶がある。全市有職者數三割八分が工業で東成區に最も多く、以下西淀川、東淀川、此花の各區、三割三分が商業で西區に最も多く、以下南、東、浪速の順序になつてゐる。

契　沖

わが宿の花を何ぞと人問ははまつ梅とこそいふべかりけれ
さ夜ふけて誰すみ吉のきしもせん遠里小野の松虫の聲
我こそは芦の下おれ一ふしのありとて誰か有とみるべき

# 先覺者

我が大阪は、豊公入城以來三百五十餘年、經濟都市として發達を遂げ、今や名實共に我國產業貿易の中樞となるに至つた。

惟ふに大阪の今日ある其の原因は一にして足りないが、なかんづく歷世の商工先覺者が、拮据經營に因るところ最も多きは論を俟たない。吾人は本市發展の現狀を思ふ毎にこれら先覺者の偉業に對し、敬仰の念禁ずる能はざるものがある。

以下年代の順を追ふて、それらの人々の略傳を綴り、その顯著なる偉功を讃へることゝしたい。

## 德川時代以前

### 石山本願寺と蓮如上人

大阪は、鎌倉時代の末期、國をあげ戰亂の巷となつて以降、戰國時代の終る頃まで、さきに沿革の項で述べた鴻臚館當時の殷賑も夢物語としか思はれないほど衰微の極にあつた。この寂しい海畔

の一部落が大阪となつて再興し、今日の繁榮を見る第一礎石をおいたのは、實に第八世の蓮如上人と英傑豊臣秀吉とであつた。

この、戰亂につぐ戰亂の時代に生きる人々が、心の救ひを求める聲、次第に高まるにつれ、宗教は漸次隆盛になつたが、中でも淨土眞宗(一向宗)の勃興目ざましいものであつた。かうした折――應永十二年に生れ、天賦の辯舌と文才とをもつて起ち上つた蓮如上人の力は、あなどり難いものであつた、爲めに叡山の反感を買ひ、徒黨を組んで大谷の廟堂を襲撃されたのであるが、これを機會に蓮如上人は三河、近江を初め各地の巡錫に出で、到る所に道場を開き、文明十二年山科の祖堂を再興し、晩年の明應五年九月、つひに大阪に來つて石山別院を創建して、こゝに本願寺を移した、茲に至つて叡山宗徒の迫害も蓮如上人が民衆の間に植附けた根强い勢力をどうすることも出來なくなつた。

かくて石山本願寺其後の隆盛と共に、全國の信徒は踵を接して大阪に集り、本願寺の權勢は武門を凌ぐ有樣となつた。ために當時勢力を張つた織田信長との關係惡化し、兩者はしば〳〵戰を交へたが、本願寺側は常に勝利を占め、大阪附近を領有するまでになつたので、衰微の極から立ち上つた大阪の地は、急速に街巷を形成し、所謂門前町を形作つて近世大阪再興の機運を釀成した。

四天王寺に因みて詠める八首

此の國の難波の浦の大寺の額の銘こそまことなりけり　慈鎭

ここにして光をまたん極樂に向ふと聞きし門に來にけり　赤染衞門

淺からぬ契の程そ汲まれぬる亀井の水に影うつしつゝ　西行

庭よりも鶯ゐる松のこするにそ雪はつもれる夏の夜の月　西行

代も御法の流たえしとや亀井の水の淸くすむらん　俊成

拜みけるしるしの石のなかりせば誰か昔の跡をみせまし　相模

常ならぬためしは夜半の烟にて消えぬ名殘りを見るぞ嬉しき　座主明雲

阿彌陀佛となふる聲をかちにてやくるしき海をこきはなるらん　源俊頼

## 大阪城と豊太閤

運如上人が大阪再興の礎石をおいたのについで、豊臣秀吉はその上に壯麗な殿堂を築いた人である。織田信長のあとを承けて全國を平定した秀吉は、天正十一年こゝに大阪城を築き、翌年移り住んだ。のち天正十九年全國悉く平穩に歸するや、秀次に官職を讓つて自ら太閤と稱し大阪城にあつて征韓の雄圖を練つた。その間、市街の擴張、運河の開鑿、商業の奬勵等市政上に盡した功績は、極めて多大であつた。中之島公園市廳舍の東に接して豊國神社を祀り、そこに銅像を建ててあるのも、大阪市としては當然のことである。



大阪古戰場　許六

首どもはふたゝび生えず春の草

難波女や何から問はん事はじめ　その女

# 徳川時代

## 大阪の生んだ人物

豊臣時代のあとを承けた徳川時代の大阪は、東の江戸と相對して百花繚爛の觀を呈したが、この時代から既に大阪は商都としての特質を現はし、從つて商工業の先覺者陸續として出で、功を後昆に垂れた。しかし、初期にはむしろ文化方面に發展著しく、特に近松門左衛門、竹本義太夫、井原西鶴の三人あり、また天文學に間五郎兵衛、蘭醫に緒方洪庵あり、學藝の士先づ浪花文化の魁をなした。

### ○安井道頓

安井道頓は豊太閤の大阪築城に際しその工を援け、名は市左衛門、道頓と稱した。慶長十七年從弟治兵衛、九兵衛等と謀り、豊臣家の許可を得、城南の茫々たる蘆州に運河を起さんとし、自費を以て故郷の農民を招き、工事に着手したが、大阪の役に際し道頓は西軍に加はり、元和元年不幸陣中に於て戰死した。九兵衛(道卜)以下道頓の遺志を繼ぎ、遂に元和元年十一月道頓堀を竣工した。後松平忠明城主となるや、道頓の忠死を憫み、その名を記念すべくこの堀を道頓堀と命名したのである。道頓は大正十三年十一月特旨を以て從五位を追贈せられた。

## ○安井道卜

有名な道頓の從弟に當り名は定吉、通稱九兵衛と稱し、入道して道卜と號した。その初め兄治兵衛と共に道頓の開鑿工事に力を協せたが、治兵衛先づ歿し、道頓亦戰死するに及び、その遺志を繼ぎ良く偉業を全うして之を竣工せしめた。その功によつて元和七年兩町奉行より惣年寄に任ぜられたが、尙も島の內一圓特に布袋町、御前町、九郎右衛門町、久左衛門町、立慶町、吉左衛門町、湊町宗右衛門町の川八町の開發に盡力した。道頓堀沿岸今日の繁榮は皆道卜に負ふ所である。依つて大正十三年十一月道卜は道頓と共に從五位を追贈せられた。

## ○末吉孫左衛門吉康

末吉家は代々平野に住し、十五世末吉勘兵衛は天正十四年豊臣秀吉に仕へ、傍ら廻船業を營みて大阪より諸國への海上運送に從事し、秀吉より商業諸々の公事を免除せられ又德川家康よりも全國中の港灣出入の自由を特許せられ國內商業を行つた。勘兵衛の子孫左衛門吉康も幕府の寵遇を受け內地の航海のみならず海外貿易に從事し、慶長九年以降屢々朱印を得て呂宋、安南、暹羅方面に活躍した。元和三年三月四十八歳を以て歿す。大正六年從五位を追贈された。

## ○淀屋个庵

淀屋の本姓は岡本、元祖與三郎常安は北濱十三人町に住して材木の賣買を營み元和偃武の後中之島を開拓して其處に居住した。常安町、常安橋の名は彼の名を採つたものである。長男三郎右衛門玄个庵は大川町の家を繼ぎ、靱の地を開拓し、大阪をして糸割符を得せしめ、又諸侯藏米の販賣を一手に引請けた。大川町の店舗は盛大を極め、店頭には常に米商人群集した。是れ堂島米市場の濫觴である。加之かの靱の乾魚並生魚市場が淀屋个庵の開發せる津村之田畑葭島新地に發展し又天滿青物市場が元和二年京橋一丁目の淀屋个庵屋敷に再興せしことを考ふれば、大阪三大市場の勃興が淀屋个庵に負ふ處尠からざることを知る。寛永二十年歿す。甥个齊、其子重當相次ぎ重當の子三郎右衛門に至り、闕所に處せられて、淀屋は歿落したが、淀屋橋の名は今に存して居る。

## ○山中新六（鴻池初代）

元亀元年十二月山中鹿之助の二男として生れ、幸元と稱した。初め攝州河邊郡鴻池村に住し、後元和元年大阪內久寶寺町四丁目に轉じて淸酒釀造を業とし、淸酒の江戸積出を開始した。鴻池家は二代目以後善右衛門と稱し、三代目以後兩替商となり、十人兩替として金融上に活躍した。新六は

實に鴻池家の基礎を築き上げし人である。慶安三年十二月五日八十一歳を以て歿した。

**○天王寺屋五兵衛**（初代）

大阪兩替屋の鼻祖で、姓は大眉である。五兵衛は夙に理財の思想に富み、慶長年間衆に率先して兩替屋を創始し、又青砥左衛門尉の故智を襲ひて手形の振出を創始した。之が即ち大阪に於てのみ流通せし手形の濫觴である。當時大阪に於ける兩替商は五兵衛唯一人のみで、大阪金融の發達に盡した功績は決して尠くない。

**○薩摩屋仁兵衛**（初代）

豊臣氏の臣比田三左衛門尉則武の養子たる比田宇右衛門尉則正は後町人となり、島津義弘に許されて家號を薩摩屋と唱へた。更に名を仁兵衛と改め、寛永五年阿波座堀川より分流し江ノ子島の中央にて百間堀川に入る運河の開鑿に着手し、七年竣功した。長さ七町四十一間半、幅十四間、當初は阿波座新堀と稱したが、彼の屋號を採つて薩摩堀と呼ばれるに至つた。之より薩摩の商船悉く本川に入り、仁兵衛は鍋屋宗圓と共に其の取締の任に當り、承應三年十月に歿した。其子孫は代々薩摩屋仁兵衛と稱し、七軒問屋、薩州大問屋として商業に從事し、正德三年以後世々惣年寄となつた。

**○石丸定次**

寛文三年より大阪東町奉行の職にある事十七年。その間鋭意市政に盡瘁し特に寛文十年の津波、延寶二年の大火に際しては市民のために大いに活躍した。就中彼が最も意を用ひしは商業に對する行政で、在職中公認されたる株仲間の數は頗る多く、特に薪の賣買法を定めし如き、天滿市場を保護せし如き、絞油商に於ける賣買標準を與へしが如きは特筆すべきものである。又十人兩替を設定して、兩替屋の統制を圖り、同時に金相場所を創設した。延寶七年五月歿す、年七十七。大正八年十一月十五日從四位を追贈さる。

**○河村瑞軒**

伊勢の出身にて、江戸に出でて土木請負師となり、寛文年間幕府の命により、奥羽航路を開設した。延寶八年九月淀川の治河工事を幕府より命ぜられ、貞享元年正月來阪、九條島を開拓して一道の新川を造る可く起工し、長さ千丈幅三十丈、元祿十一年川は安治川と命名された。開鑿のため搬出せし土砂は堆積して航海者の目標となり、之を瑞軒山又は波除山と云ふ。爾後諸國より入津の船舶は安治川より出入することゝなつた。次いで曾根崎川を開堀し、堂島川の河道を正し、其外幾多

の治水工事に着手し、それ等は貞享四年五月に完成した。元祿十一年三月幕府は更に淀川治水工事を起さんとし、再び瑞軒が之に當ることゝなつた。この工事中最も著名なるは堀江、道頓堀川南岸古川、富島及兩川口附近の新田開發で、此等は元祿十二年二月に至りて悉く竣工した。同年六月十六日歿し、年八十三。明治四十四年六月特旨を以て正五位を追贈された。

**○木村孔恭**

蒹葭堂、巽齋と號し、通稱坪井屋吉右衛門、元文元年十一月北堀江に生る、家世々酒造を業とし町年寄を勤む。寛政二年支配人の科によりて奇禍に遇ひ、一時領主增山正賢の慫慂に從つて伊勢長島に寓した。孔恭は身を商賈に起して畢世學藝を友とし、其の本領とせし所は自然科學と其の應用とで、研精雅尙、洽覽博識、一世に冠絕した。享保二年一月二十五日歿し年六十七。蒹葭堂は典籍書畫標本類を收藏すること夥しく歿後官命じて藏儲を上らしめ之を學問所に傳へたと謂ふ。學問上の大功績により大正十三年二月從五位を贈らる。

**○住友吉左衛門友芳**（四代）

三代友信の長子にして寛文十年を以て生る。二代以後の家業たる製銅貿易に從事し、元祿三年新に伊豫別子銅山を發見し、次いで四年巨資を投じて之を開坑し、又元祿年間江戸中橋及淺草に出店を設けた。元祿十五年幕府の諸問に應じ、鑛業政策に就き建議し採擇せらるゝ所多かつた。正德年間江戸、京都及大阪に於て、貨幣改鑄事務を統轄したる功績亦顯著なるものがあつた。享保四年十二月二十六日歿す、年五十二。大正十三年特旨を以て正五位を追贈せられた。

**○殿村平右衛門**（初代）

平右衛門名は茂述。正德五年內淡路町松屋町に於て兩替商を開始して米屋と號し、享保年間江戸爲替を創始した。江戸爲替の創始によりて、大阪より貨物の江戸搬出が增進した。茂述は享保六年三月十四日に歿したが、米屋は十人兩替に列して專らその統制に任じ家業大いに振つた。

**○苫屋久兵衛**（四代）

苫屋久兵衛は代々海運業者飯田家の通稱で、初代久兵衛は寛永年中戎島町に店舗を構へ、德川幕府の允許を受けて海外貿易並に海運業を創始した。その經營する航路網は一時遠く南洋に及び家運頗る隆昌を極めたが、後幕府の鎖國政策のため一時家運の衰頽を見るに至つた。四代直好は家運の挽回に專念し、當時德川幕府の御城米が專ら官船のみにて輸送さるゝは、其の航路の萬全と運用の

圓滑を期し難きに着眼し、民間船舶を隨時利用すべきであると考へ、享保十八年幕府に其の旨を進言し、併せて其の請負方を出願した。遂に幕府の御用達となり次いで寛保二年七月御城米廻船御用達差配を命ぜられ、同人店舗が御廻船御用所に指定せられ、幕府海運の實權を掌握した。又直好は寛保年中淀川の流砂が安治川河口に堆積して船舶の出入を妨ぐる事尠からざるを憂ひ、港灣浚渫の急を幕府に訴へ、巨額の私財を投じて獨力これを浚渫し以て港灣を生命とせる大阪に對して寔に偉大なる貢献をなした。直好は寶暦の初城東猫間川の沿岸一帶の低地が年々豪る洪水による水患を憂ひ、之れを浚渫すると共に水路を南に河堀口に開鑿し、同所より河底池を利用、今宮を經て馳川より木津川に至る運河又玉造より空堀を利用し東横堀川に至る運河の計畫を樹てゝ幕府に献策したが不幸にして幕府の容るゝ處とならず、遂に實現しなかつたことは大いに遺憾とする處である。

明和二年三月二十日齡七十六歳を以て戎島町の本邸に卒す。

**○中　井　竹　山**

享保十五年生れの有名なる儒者にして又大阪經濟學者の一人である。懷德堂創設者の一員中井甃庵の長子である。抑も懷德堂は、當時の漢儒が何れも士人の教育のみに從事し、所謂心學者流の外は市中の商衆を相手にして道を講ずるもの甚だ稀なる時代に於て、特にこの封建的陋習を打破し、勉めて町人の薫陶に從つたため、町人の都大阪に於て殊に意義あり、之が延いて大阪商業の發展に資したことは絮説する迄もない。さればこそ竹山の弟子に山片蟠桃、草間伊助等の町人學者が輩出した所以である。文化元年二月二日歿した。明治四十五年二月正四位を贈ちる。

**○村　井　伊　兵　衛**（三代）

村井家の初代は正德享保年間北海道より昆布を大阪に移入した最初の人で、代々昆布を鬻ぎ、通稱昆布屋伊兵衛と稱した。三代伊兵衛は寶暦五年に生れ、長ずるに及び算數司天の學に長じ、算數の著書多く、大阪に於ける和算の大家として名高く、業務の傍ら後進の誘導啓發に努めた。文化十四年歳六十三にして瓦町の自邸に歿す。兎角利を見るに孜々たる渡世の商家に生れて祖父の業を繼ぎ乍ら、資操高潤にして博識、研學の志厚く、家業の傍ら學業に親しみ、大功績があつた故を以て昭和三年十一月十日從五位を追贈せられた。

**○草　間　伊　助**（初代）

本名は直方、寶暦三年九月京都に生る。十才より鴻池家に仕へ精勤怜悧にして、主人の信用厚く

遂に尼ヶ崎同家の養子となり鴻池と名乗つて一門に列し、今橋二丁目に新宅を構へ日々本家に出勤して店務を處理した。文化六年より獨立して兩替商を開業し南部侯の藏元となりその金銀出納を司りたる外肥後侯以下諸藩の財政處理を之に託せるもの少くなかつた。天保二年二月七十九歳にて歿す。中井竹山に學びて學識高く、其の著「三家圖彙」及び「草間伊助筆記」は町人學者として彼を著名ならしめた。其の他「鴻池新田開發記」「麓の栞」「御買米御用一件之扣」「籠耳集」等の遺著あり。江戸の國學者塙保己一が群書類從開板の資も直方の斡旋大いに與つて力あつたと傳へらる。大正十三年二月十一日從五位を贈らる。

### ○山片幡桃

本姓長谷川氏、名は芳秀、字は子蘭又は子厚通稱升屋小右衛門、蟠桃は其の號である。延享三年播州加古川に生れ、幼にして大阪に來り、尼崎町（東區今橋三丁目）の兩替屋河内屋與兵衛方に丁稚奉公した。然るに天性讀書を好みしため、主家の用事に問に合はず、遂に河内屋を放逐されたが木町（東區北濱五丁目）の同業升屋（山片氏）平右衛門に救はれた。平右衛門は當時仙臺藩を初梶め諸侯の金方を勤めた兩替屋で蟠桃は升屋の家業に出精し、主家をして繁榮せしめた功績により、後には山片氏を名乗ることが許され、同時に升屋と號した。其の兩替業の經營方法は他に優れ、當時大阪の富豪は升屋を模範として經營方法を改めたと言はれる。蟠桃は其の業餘、懷德堂の中井竹山兄弟に師事して儒學を學び、寸暇さへあらば群書を渉獵し、遂に「夢の代」十二卷を著した。「夢の代」は前後實に十九年を費した大著で、各汎に亘りて論及して居る。更に一般物價及び米價のことを論じた「大和辯」をも編述し、文化年間竊に幕府へ獻策し、幕府も其の獻策を容れて政治した由である。文政四年二月、七十四歳を以て歿した。

## 明治大正昭和時代

こゝに述べる人たちは殆ど明治以前の出生であるが、その活躍した時代は主に明治である。

### ○五代友厚

天保六年十二月鹿兒島城ヶ谷に生れ、德助又才助と稱し後友厚と改む。幼にして藩の聖堂に入り文武兩道を修む。安政四年二月藩より選拔せられて長崎に遊學し、和蘭國海軍士官に就き航海、砲術、測量、數學等の教習を受け、同六年藩の密命を受けて上海に航し獨逸汽船を購入して歸國し其

の船長と爲る。文久二年御船奉行副役となり、慶應元年二月藩の留學生十四名を率ゐて歐洲視察の途に上り、白耳義政府と貿易商社の設立を議し、歸朝後勤王の志士と共に王事に奔走し維新の鴻業成るや、明治新政府の參與と爲り尋いで外國官權判事、大阪府權判事、大阪府判事、會計官權判事の諸官に歷任し、從五位に叙せらる。在朝時代は主として大阪に在勤し、外國貿易、條約等一切の事務を督し、又新政府の財政の樞機に參し、大阪造幣寮の設立に盡力し或は通商會社、爲替會社の設立に關與して功あり、明治二年七月桂冠して大阪に居を定め、鋭意商工業の指導開發に努め、大阪の發展興隆と商工業の地位の向上に盡瘁する所尠からず。明治二年十月金銀分析所を西成郡今宮村に開設し、明治六年弘成館を創設して鑛山を各地に開發し、以て新式の採鑛法に依る鑛山經營の範を垂れ、明治九年北區堂島濱通二丁目に朝陽館を設立して製藍事業を興し、明治十一年四月大阪株式取引所、同年八月大阪商法會議所を創立し會議所成立後推されて會頭となり、爾來易簀に至るまで其の職を掌る。明治十四年六月には廣瀨宰平等と共に關西貿易社を創立し、北海道の富源を開發して海外輸出の途を圖らんとし、或は東京馬車鐵道會社、大阪製銅會社、阪堺鐵道會社、神戸棧橋會社、大阪商業講習所等を創設して實業界に寄與せる所尠からず、明治十八年九月勳四等旭日章を賜はり同月二十五日歿す、享年五十一、大正三年十一月十九日正五位を追贈せられた。

### ○日下部平次郎

嘉永五年四月丹波國船井郡園部町に生る。明治元年來阪、道修町の商家に勤むること約二年、明治三年外國貿易に志し、雜貨を携へて英領香港に渡航し、競賣市場に於て之を賣却し好成績を擧げた。爾來毎年春秋二回渡航して雜貨の輸出を計り、歸航には舶來商品を輸入した。實に大阪商人としては居留地貿易に甘んぜず直接海外市場との取引を開始したる先驅者であつた。明治五年香港に店舗を設け、日森洋行の名を以て直輸出入業に從事し、大阪の店舗は日下部商店の名を以て之を高麗橋二丁目に設け、後伏見町五丁目に移つた。當時香港は東洋に於ける國際的大貿易港なりしを以て支那產物の輸入に止まらず、貿易の範圍は次第に擴大し、印度より棉、綿糸、瓜哇・スマトラ・安南より實棉、獨逸より染料藥品、臺灣・マニラ・瓜哇等より砂糖、米、木材、支那四川省より豚毛等を輸入し、日本人としては此等外國品直輸入の鼻祖であつた。而して雜貨の外印度へ絹物、銅、廣東市場へ綿糸布、石笠、石炭、樟腦、精糖等を輸出し殊に香港に於ては硝子工場を起し、我國にては獨逸人と協力して神戸の謙信洋行、ベツカー商會等の設立に關係し、直輸出入の發達に貢献す

るところ蓋し尠少ならず。實に我國外國貿易の開拓者とも言ふべき人である。

明治三十二年十月歿した。

### ○磯野小右衛門

文政八年十月三日長門國阿武郡萩町に生れ、幼名は仁三郎と稱した。明治二年京都府御用達となり苗字帶刀を許さる。此時より磯野氏を冐す。同四年四月大阪北大組大年寄を命ぜられ、又同月武富辰吉と協力して堂島米會所を設立して同所頭取に就任し、又大阪港灣築港事務御用掛、堂島米穀會所頭取等に選任せられた。同十一年五代友厚と謀りて大阪商法會議所の創設に盡力し、十六年大阪株式取引所頭取に當選し、二十四年七月大阪商業會議所初代會頭に當選した。二十六年九月大阪株式取引所理事長に當選し、二十七年帝國商業銀行を創立し三十年北濱銀行の創設に參加して取締役となり、更に三十二年十一月堂島米穀取引所理事長に當選した。大阪株式取引所及堂島米穀取引所の理事長として大阪の實業界に盡せし功績多し。三十六年五月勳五等瑞寶章を賜はる。同年六月十一日歿し、同日從六位に叙せらる。享年七十九。

### ○大三輪長兵衛

天保六年筑前國筥崎に生る。幼にして大阪に上り商業に從ふ。或は商船を北海に回航して商業を試み、常に內外財界の情勢に着眼し又商業航海其他の儀に關し屢々建白書を草して之を當局に致した。明治十一年國立銀行を創立し、又大阪同盟銀行手形交換所の設立に奔走した。衆議院議員を始め府會、市會の各議長大小區會の各議長其他各種の委員評議員等に選ばれたこと一再ならず、明治二十四年朝鮮國王の招聘に應じて渡韓し、前後を通じて滯韓十有餘年國王の信任愈厚く、交換署會辨を始め其他幾多の官職を歷任正二品資憲大夫勳三等大極章を授與せらる。晩年に至り病危篤の旨韓廷に達するや特に勳二等に叙し八卦章を下賜せらる。明治二十七年東學黨の變傳はるや、百方志士を說き國論の是正に努め、又同二十九年より京釜鐵道敷設權の獲得に奔走し、同三十三年全く我が民有に歸せしめ、又韓國特產の人蔘密輸禁止の法を講じ以て平安道海面一帶の漁獲權を獲得するに至つた。明治三十六年東洋の風雲急を告ぐるや、內命を帶びて渡韓し、國王權臣に說き遂に日韓條約の成立を見るに至つた。明治四十年十二月十九日特に勳四等に叙せられ旭日小綬章を授けらる明治四十一年一月七十四歳を以て死去。

### ○平瀨龜之輔

平瀬宗十郎の一子として天保十年九月十九日市外北野下三番に生る。家號を千種屋と稱し世々兩替商を營んだが、明治九年一族を擧げて三十二國立銀行を創立し、自家の營業を之に移して頭取となり、明治二十九年浪速銀行と改稱した。明治十一年大阪株式取引所、二十九年手形交換所の創立に奔走し、其他日本火災、大阪貯蓄等の社長、取締役に就任して大阪財界に貢献せしところ多し。實業家としての外、露香と號して特に美術工藝に造詣深く、大阪博物場長、日本美術協會支會長として大阪文化の興隆に盡したる功績も亦尠くない。明治四十一年一月八日齡七十歳にして歿した。

### ○建野鄕三

天保十二年十二月一日福岡縣京都郡延永村に生る。幕末壯年の際國事に奔走した。明治三年藩命を受けて英國に渡航し、法律學を修め留る事九年歸朝と共に仕官して侍補となり、次で宮內權大書記官に進み、同十三年大阪府知事に任ぜられた。時に三十歳。新進の學識を傾倒して鋭意府政の刷新を圖り、殊に築港の必要を叫び、明治十八年の大洪水に際しては直ちに五大橋を架設し、以て市民を水難より救つた。其他大阪の商工業の發展のために施設する處尠からず殊に大阪商船會社の設立に對する功績は決して尠しとしない。大阪育成の一恩人である。同二十二年には元老院議官に進み、翌二十三年米國駐劄特命全權公使、二十四年墨西哥國駐劄公使兼務を命ぜられて華盛頓に駐在し、條約改正の難局に當つた。談判漸く好轉し成功の曙光を見るの日陸奥外務大臣と意見を異にし遂に桂冠して決然野に下つた。其後故井上侯等の任官を勸むるものもあつたが一切之を退けて再び起たず、明治四十一年一月十六日卒去した。

### ○西村捨三

天保十四年七月滋賀縣彦根町に生る。明治五年舊藩主伊井直安に隨行して歐米に歷遊し、歸朝後十年二月內務省に奉職して內務權少書記官に任ぜられ、其後大書記官となり、十六年沖繩縣令を兼ねた。內務省土木局長を經て大阪府知事に轉じたのは明治二十二年で、其の在任中水道、築港、淀川改修の事業を畫策し、又貿易助成機關設置の緊急なることを痛感し商品陳列所を新設した。大阪を去つて農商務次官となり、從三位勳二等を授けらる。後野に下つて炭鑛鐵道會社の社長となつたが、明治三十年その職を辭して大阪市參事會員となり市政に盡力し、又大阪築港の計畫あるや市民は之を聘して事務所長となし築港事業を一任したが、築港の完成に遺した大功績は大阪市民の永く忘却すべからざる處である。明治四十一年一月十七日歿した、享年六十五。

## ○田中市兵衛

天保九年九月大阪鞍に生る。家祖が近江より出でたる故を以て、代々家號を近江屋と稱し、肥料商を營んだ市兵衛は明治元年より父祖の業を繼ぎ、その誠實と勤勉とにより年と共に問屋の信頼を得、近畿一圓に亘りて肥料を販賣して、家産を作り上げた。明治十年十二月江戸堀南通三丁目に金澤仁兵衛等と共に第四十二國立銀行を設置して、その頭取となり、明治十八年松本重太郎等と阪堺鐵道株式會社を起し、更に山陽、九州、豐州、阪鶴、京都、南海及び阪神各鐵道會社の創立に關係し、大阪商船株式會社々長、大阪米穀取引所監査役としても巨腕を揮ひ、二十七年設立の株式會社大阪肥料取引所の理事長となり、大阪倉庫、浪華紡績、日本棉花、汽車會社等を始め幾多の事業にも關係した。亦公職の方面に於ては舊制の戸長區長に任ぜられし外、二十一年大阪商法會議所の會頭となり、商工業の發達に貢献する處尠くなかつた。又大阪市會議員、大阪府會議員にも選ばれ、更に二十八年衆議院議員に當選して、政界のためにも盡力する處があつた。實業上の功勞により三十六年勳五等に叙し、瑞寶章を授けられ、三十九年四月更に勳四等に叙し旭日章を賜つた。四十三年七月病歿。病革るや、特旨を以て正六位に叙せらる。

## ○藤田傳三郎

天保十二年五月十五日長門國萩町に生る。少時鄕塾に漢學を修め年十六にして分家を再興して酒造業を營む。長藩に尊王の論興るに及び、業を擲ち王事に奔走し、維新後明治六年井上侯の創めし先收會社の頭取となり大阪に於て藤田組を起す。その主なる事歴を列擧せば大阪堂島米商會所、大阪硫酸製造會社、太湖汽船會社、大阪紡績會社、阪堺鐵道會社、山陽鐵道會社、ブールス制による大阪株式取引所、淀川改修株式會社、宇治川電氣株式會社等を發起創立し、大阪築港を獨力にて企劃し大阪商法會議所の設立に參加し、大阪下水道公債並に築港公債募集、日清日露兩戰役に際して國債募集の斡旋に盡力する等枚擧に遑あらず。明治十八年十一月大阪商法會議所の會頭に選擧せられ、二十一年十月退職する迄大阪の商業の發展に盡す處尠くなかつた。藤田組の事業として秋田縣小坂鑛山、兒島灣開墾、秋田縣長木澤製材、臺灣森林開發、南洋護謨栽培、島根縣大森鑛山、臺灣瑞芳鑛山其他多數鑛山の經營を擧ぐることが出來る。三十五年二月勳四等に叙せられ瑞寶章を拜受、三十九年四月更に勳二等に昇叙旭日重光章を賜はり四十四年八月男爵を授けらる。四十五年三月從四位に叙せられ同月三十日歿す。

## ○松本重太郎

丹後國竹野郡間人村の農家に生れ、十歳にして家を出で、京都の商家に丁稚奉公すること三年、更に大阪に赴き商家に仕へ勤務十ヶ年に及ぶ。二十四才にて獨立して舶來商品の販賣を始め、神戸横濱、長崎に於て外人と取引をなし、數年にして巨利を博す。明治十一年九月第百三十國立銀行を東區高麗橋三丁目に創立して頭取兼支配人となつた。十五年大阪紡績會社、十八年日本に於ける私設鐵道の嚆矢である阪堺鐵道會社を起した。二十三年特旨を以て從七位に叙し、黄綬褒章を授けらる。尋いで山陽鐵道社長となり、又九州北部の炭坑諸鐵道敷設に大いに盡力し當時鐵道王の稱きへあつた。其他事業會社に關係すること一時四十に達した。即ち大阪共立銀行、日本貯蓄銀行、大阪アルカリ製造會社を設立し、更に我國最初の毛斯綸工業たる大阪毛斯綸紡績會社を創立し、尚ほ日本紡績、大阪織布、帝國ブラシュ、大阪麥酒、日本製糖、明治炭鑛、日本火災の諸會社を始め、浪速、南海の鐵道會社等にも關係した。二十五年大阪より選ばれて衆議員となり田中市兵衛と共に關西實業界を牛耳つた。明治三十六年實業上の功勞に依り勳五等を授けられた。大正二年六月二十日歿す享年七十。

## ○渡邊　昇

天保九年四月長崎縣大村藩士渡邊巖の二子として出生す。幕末國政に參與し、土州坂本龍馬と共に薩長の間を往來して兩藩の調停に努めた。維新の際には王事に勤め、明治元年諸郡取調掛を初め諸種の官職を歴任して明治四年大阪府大參事として來阪し、同四年大阪府權知事、同十年大阪府知事に昇進した。大阪在任中大いに治績を擧げたが最も功勞ありしは築港計畫である。即ち築港事業の發端となりたる築港義社は全く彼の發案する處で、築港計畫の進捗に鋭意努力したものである。今日大阪の外國貿易の發展は實に目覺ましく、それは一に大阪築港完成の賜である。大阪築港に對する彼の功績は大阪市民の永く忘却すべからざる處である。大阪府知事より元老院議官、參事院議官を經て會計檢査院長となつた。會計檢査院長に在職すること實に十五年、其の間諸制度は大いに整備したと言はれてゐる。明治二十年子爵を授けられ、三十一年以降閑地に就き、大正二年十一月九日薨じた。

## ○弘世助三郎

弘化元年正月滋賀縣彦根町川添家に生れ、間もなく叔父弘世助市の養子となる。十四歳の頃より

養父に從ひ諸國に行商し、常に勤儉を守つて家業を墜さず、早くより教育の普及に着眼して學校の建設を圖り、ついで三十四國立銀行の創設、大阪鐵道の建設、宇治川電氣會社の設立、特に日本生命保險株式會社の創設に盡力を惜まなかつた。殊に人の最も尊崇するところは其の事業を起すに當つては自ら責に任じ艱苦を避けず萬金をも投じて惜まず、事一度成れば之を他に讓つて自ら功としない點にある。大正二年十一月十四日歿した。

### ○廣瀨宰平

文政十一年五月五日江州野世郡八夫村北脇家に生れ、十一歳より住友家に仕ふ。後廣瀨家を嗣ぐ慶應元年別子銅山の總支配人となり、維新後は住友家の事務を總理す。明治二十七年六十七歳にして退職す。住友家にあること五十七年、住友家の今日あるを致さしめたる功勞者である。住友家の事業以外に明治二年安治川下流を改修し船舶出入の便を圖らんがため、築港義社を組織し、八年八弘社を創設して墓地整理を行ひ、十一年大阪商法會議所、大阪株式取引所、十七年大阪商船會社を創立したるが如きは其著しき功績である。大正三年一月八十七歳にて逝く。明治二十一年六月從六位に叙せられ二十五年七月勳四等を賜はり瑞寶章を授けられた。

### ○外山脩造

天保十三年新潟縣古志郡椽尾鄕小貫村に生る。幕末江戸に出でて勉學し、明治五年秋田縣に職を奉じ、六年大藏省に入り累進して權大屬となり、專ら銀行課に從事した。明治十二年第三十二國立銀行總監査役となり十五年日本銀行理事兼大阪支店長となつた。二十年には商工業視察のため歐米に遊び、二十一年歸朝、二十三年横濱正金銀行取締役となり、同年大阪貯蓄銀行を創立して副頭取となつた。次で衆議院議員(二十五年)、商業興信所々長(同年)、大阪銀行集會所委員長(三十年)、等に擧げられ、三十一年大阪舍密工業株式會社を起して國家の需要に應じ、三十二年阪神電鐵會社を創立して其の社長となつた。其他大阪麥酒會社、京都電氣鐵道株式會社、川崎造船所、浪速銀行の外數種の會社銀行の社長、頭取又は重役の任に就き、大阪財界發展の上に演じた大役割は一々枚擧するに遑がない。大阪市政に對しても市參事會員として盡力を惜まなかつた。明治三十九年勳四等瑞寶章を賜はる。大正五年一月十三日歿し、從六位に叙せられた。

### ○土居通夫

天保八年四月伊豫宇和島に生る。明治五年六月改名して土居通夫と改む。維新に際し脫藩して大

阪に出で、志士と共に國事に奔走し、維新後司法の要職に歷任し明治十七年官を退きて實業界に入つた。當時大阪に起りたる新事業にして同氏の企劃助成を藉らざるもの尠く、其功績顯著なるものがある。即ち明治二十年大阪電燈會社の創立に參加し二十一年以來同社々長となつた。二十六年二月日本生命保險會社取締役に選擧せられ、大正元年十月京阪電氣鐵道株式會社々長に就任した。又公務にあつては二十七年推されて衆議院議員に當選、三十三年官命により歐米各國の商業會議所及び取引所の調査並に巴里萬國博覽會視察のため渡歐した。又二十六年三月大阪商業會議所議員に當選し、二十八年會頭に擧げられ、爾來其職にあること正に二十二年の長年月であつた。大正四年十一月勳三等に叙し旭日中綬章を賜はる。大正六年九月九日八十一歳にして逝く。この日特に正五位に叙せらる。

### ○山邊丈夫

嘉永四年十二月石見國鹿足郡津和野清水家に生る。四歳にして山邊家の養子となり、十六歳にして藩兵となり、四年間京阪の間を往復して國事に從ひ、後上京して福羽美靜、西周、福澤諭吉の諸氏に就て學ぶ。明治十年舊藩主亀井伯爵に隨ひて英國に遊學し、倫敦大學にありて經濟學を修業中澁澤榮一の勸奬によりて紡績術を研究し十三年歸朝した。明治十五年澁澤榮一、藤田傳三郎、松本重太郎等と謀り、大阪三軒家に大阪紡績會社を設立した、爾來三十有七年幾多の困難に遭遇せしも曾て志を他に移さず、營々として紡績業に從事し、大阪紡績會社々長、東洋紡績會社々長、大日本紡績聯合會委員長として一意斯界の振興に貢献し、以て大阪市をして綿業の中心地たらしめた。明治三十五年綠綬褒章を賜はり更に大正三年綠綬褒章飾版を拜領し同四年從五位に叙せらる。五年業界を隱退し、九年五月十四日病歿した。享年七十。

### ○小山健三

安政五年六月十三日埼玉縣埼玉郡忍城廓内に生る。明治十六年には長崎縣三等屬に任ぜられて學務課長となつたのを振出に、長崎縣立師範學校長(同年)、東京工業學校長代理(二十五年)、文部大臣祕書官兼文部書記官(同年)、高等商業學校長兼文部省參事官(二十八年)、農商務省參事官(二十九年)、文部省實業教育局長(三十一年)を經て三十一年文部次官に就任した。斯くて官界に活躍すること前後十四年以上に及んだが、同年退官し、爾來專ら民間にあつて金融界に活動した。即ち其の外貌を列記すれば、三十四銀行頭取(三十二年)、大阪銀行集會所委員長、大阪市教育會長(三十

四年）、大阪手形交換所委員長（三十七年及び四十一年より大正十一年まで）、大阪銀行集會所理事、東洋拓殖株式社社設立委員（四十一年）、韓國銀行設立委員、大阪市參事會員（四十二年）、南滿洲鐵道株式會社監事、米價調節調査委員（大正四年）、株式會社中華滙業銀行監事（七年）等がその主なるものである。明治三十九年勳四等を賜はり、大正九年には貴族院議員に勅選せられた。以上の如く同氏は其の前半を官界に後半生を金融界に投じ、殊に大阪金融界に貢献すること甚大なるものがあつた。大正十二年十二月十九日其の逝去するに及び正四位に叙せられた。

### ○永田仁助

文久三年三月二十二日大阪市南區高津町四番丁米穀商永田仁助の長子として生れ、十五歳にして祖名を襲名して第三代仁助となつた。明治二十二年市町村制の發布と同時に最初の大阪市會議員に當選し、爾來同三十年迄、又府會議員として同三十六年迄毎期當選し、市政のために盡す處少くなかつた。明治銀行を創立、後浪速銀行と合併し、更に十五銀行と合併して常務取締役及頭取となり以て財界に盡し、又各種の事業を引受け之を整理した等は世間周知のことである。殊に公益事業に最も心血を注ぎ明治四十三年大阪軌道會社の創立に當り其の營業不振を救ひしを始め阪堺電氣鐵道會社及合併後の南海鐵道會社、新京阪電鐵會社の取締役として常に難局に當り、其の他大阪市の大阪電燈會社買收に盡力した等により「仲裁翁」の名を擧げた。朝鮮棉花、日本染料各會社の取締役滿鐵會社の監事等の重職を帶び、大正八年大正水力電氣株式會社を創立し、同十五年日本放送協會顧問に當選する等、氏の我國經濟の發展、殊に大阪財界の進展に貢献したことは甚だ大であつたが大正十四年十二月には貴族院議員に勅選せられた。昭和二年三月六日歿し從五位勳三等に叙せらる

### ○片岡直輝

安政三年七月三日高知縣高岡郡下半山村に生る。明治十一年甫めて海軍主計に任官し、命を帶びて海外に差遣せらるゝこと二回に及んだ。歸朝後内務、文部各大臣祕書官に歴任し又大阪府書記官に在職すること三年、水道事業に最も功績を擧げた。辭任後官界を去り實業に就きて、日本銀行大阪支店長となり、次で大阪瓦斯株式會社々長に就任し、施設擴張其の面目を一新し、兼ねて堺、廣島兩瓦斯會社を統理し、我國瓦斯事業の開發に對して偉大なる足跡を印したるのみならず、我國醫藥染料國策樹立に當りては日本染料製造株式會社の創立委員及其相談役として大なる貢献を爲した又阪堺電氣軌道株式會社を創立し、同社を始め南海鐵道株式會社の社長又は取締役として、或は大

阪電氣軌道株式會社の相談役として、大阪交通事業に寄與することも少くなかつた。其他諸事業會社の重役、電氣協會々長、財經調査會委員等に就くなど普く大阪財界の進展のために誠意斡旋の勞を執つたため、晩年貴族院議員に列せられた。昭和二年四月十三日歿し、正五位に叙せられた。

### ○池上四郎

安政四年四月十八日舊會津藩士の家に生れ、長じて警吏となり各地に歴任して累進、遂に大阪府警察部長となつた。其の在官實に四十年の久しきに及び、到る處治績大いに擧つた。大正二年大阪市會は氏の人格と手腕とを景仰し、市會多數の要望に依りて大阪市長に推選するや、挺身その重任に膺り、大阪市百年の大計の樹立に努めた。其の就任當時は財界沈倫して、市政運用上最も難局に當りたる時なるも、その豪放なる氣宇に、加ふるに周到なる思念を以て至誠一貫、頻りに諸般の施設を促進した。就中産業方面に盡したる功績としては電燈市營の斷行、都市計畫の樹立、築港事業の整備、社會施設の創始並充實等であつた。其の結果としてその德望は遂に異例の市長三選となり大正十二年に至るまで在職實に十年に迨んだ。昭和二年政府氏の異材を拔擢し、擧げて朝鮮總督府政務總監に任じたる處、老齡をも顧みず、大いに統治の改善に努力したるも、昭和四年四月四日その在職中急疾を獲て易簀した。その死天聽に達するや正四位に陞叙し、旭日重光章を賜ひ、以てその偉勳が表彰せられた。

### ○中橋德五郎

元治元年九月舊金澤藩士齋藤宗一の五男として生れ後中橋家を嗣いだ。而して東京法科大學卒業後農商務參事官(明治二十二年)、法制局參事官(同年)、衆議院書記官(二十三年)、遞信省會計局長(二十四年)を經て三十年同省監理局長に轉じ、翌三十一年三月更に轉じて同省鐵道局長に任ぜられたが、同年七月之を辭してこゝに全く官界を去つたのである。

官界を退いた氏は直ちに三十一年七月大阪商船會社々長に就任し、實業家としての第一歩を踏み出した。爾後在任十七年間渾身の精力を傾倒して同社の頽勢の挽回に努め、諸般の内部的改良を遂行すると同時に外には着々新航路を開拓して社運の伸張を策し、以て同社今日の盛運を致すの基礎を築いた。かく氏は大阪商船會社々長として其の事業の進展に努むる傍ら其餘力を割いて、多方面に驥力を伸べ、以て大阪實業界に重きをなした。即ち宇治川電氣會社(明治三十九年)、滿鐵會社監事、日本窯素肥料會社取締役會長(四十二年)等に在任した外大阪市會議長(明治四十三年)にも擧げ

られた。實業界に確乎たる地位を築いた氏は、大正三年末に至り一切の關係事業の經營を後進に讓り、全く實業界から袂別して政界に投じた。大正三年より昭和九年まで政治家としての生活も亦多彩であつた。即ち數回の總選擧に當選した外、原内閣の文部大臣(大正七年)、高橋内閣の文相(十年)、田中内閣の商相(昭和二年)、犬養内閣の内相(昭和六年)となると共に、我立憲政治に盡したことは少くなかつた。昭和九年三月二十五日卒した。

### ○村山龍平

嘉永三年四月三重縣松坂市に生る。明治四年大阪に出でて一時身を實業に委ねしも、同十二年大阪朝日新聞創業の議あるや力を斯業に盡さんとして之に與り推されて社主となり、同十四年に至り上野理一氏と共同し親しく其の經營に任じ苦心慘憺努力功を積みて社業の基礎初めて堅く、同二十一年東京めざまし新聞を買收し東京朝日新聞と改題し、東西相呼應して言論界に重きをなすに至れり同二十四年大阪府選出衆議院議員となり當選すること二回に及べり。然れども政界の實情は高潔なる君の志と違ふ所多く則ち斷然意を政界に斷ち專ら力を東西兩新聞に注ぎ、一般の文化を進め、廣く大衆の指導に努めたり。爾來駸々たる國運の發展と共に社運益々隆昌を加へ大阪毎日新聞と共に我國代表的大新聞たるに至らしむ。蓋しその功績は啻に操觚界に止まらず我が國粋美術工藝の宣揚航空事業の發達、科學進歩の奬勵、社會事業の施設等に寄與する所多きは勿論大阪市民の福祉を念ひて終始渝らず大阪市今日の盛大をなすに與つて力があつた。

昭和五年貴族院議員に勅選せられ、同八年十一月二十四日した。享年八十四歳、逝去の趣天聽に達するや特旨を以て勳一等に陞叙、從四位を追賜せらる。

### ○本山彦一

熊本縣士族本山四郎作の長男として嘉永六年八月生る。慶應義塾に學び操觚界に入り時事新報記者、藤田組理事等を經て明治三十六年大阪毎日新聞の創立に與り、後其の社長に就任して鋭意之が經營に努め、大阪朝日新聞と共に世界的の大新聞を作り上げた。明治四十四年東京日日新聞を買收して毎日電報を之に併せ東西二大新聞の經營を完成した。斯くの如く吾が新聞界の恩人たるの他明治生命保險、南海鐵道各會社取締役を兼ね、關西實業界に盡すこと多く晩年また財團法人富民協會を創設し自ら理事長となり又文政審議會、臨時國語調査會各委員に推された。昭和三年御大典に際し勳二等に叙せられ、同五年貴族院議員に勅選せられ同七年十二月三十日歿す。享八十、同日從四位勳一等に陞叙せらる。

## ○島田孫市

文久二年五月五日大分縣下毛郡中津町に生る。幼にして藥種商の徒弟となつたが、偶々當時使用する藥瓶が悉く舶來品であるのを慨歎し、意を決して硝子製造業に志した。明治十一年五月上京して品川工作分局傳習生となり、英人スピートに就きて各種硝子の製法を習得した。同十六年大阪に於て日本硝子會社の創立さるに當り、聘せられて雇員となり、工場部建築を擔當し、引續き同社硝子製造の事業に從事した。後二十一年四月自ら一工場を大阪市北區老松町に設立して獨立營業を開始した。之れ島田硝子製造所の濫觴である。二十六年日本硝子會社を買收して其處へ工場を移轉し爾來十有餘年間苦心研究の結果無色透明硝子、彩色硝子、金色彩色硝子、板硝子等の製造に成功した。明治三十五年五月綠綬褒章を、大正十四年五月更に其の飾版を授けられ、昭和二年一月十九日長逝した。同年一月二十八日特旨を以て從六位を追賜せらる。

## ○關　一

明治六年九月二十六日東京にて生る。明治三十年より大正三年まで前後十七年間母校東京高等商業學校の教授となり、我大阪市と密接の關係を持つに至つたのは大正三年七月大阪市助役に



就任してより以後のことに屬する。即ち助役時代九ヶ年を經て大正十二年十一月大阪市長に就任し三選されて其の逝去に至るまで十一ヶ年前後を通じて大阪市に奉職すること二十一年間の久しきに及び、市政の各方面に亘つて該博なる學殖と高邁なる人格識見とを以て盡瘁せることは枚擧に遑がない。其の主要なる市政上の功績は次の如くである。

市域の擴張

學制統一と商科大學昇格

社會事業（全國第一の社會事業の完備の都市となした）

大阪電燈株式會社買收

大阪築港の完成

都市計畫事業の遂行

中央市場の完成

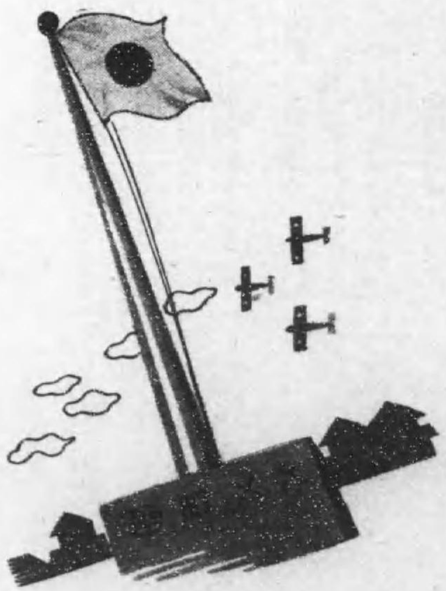
其の他大阪の商工業發展に盡す處少からず、昭和九年貴族院議員に勅選せられ、昭和十年一月二十六日幾多の功績を遺して逝去するや、同日特旨を以て從四位に叙せられ勳三等旭日中綬章を授けらる。

## 大阪市内年中行事案内

▽毎月＝子の日―大國神社、卯の日、初辰―住吉神社、廿一日―大師巡り、四天王寺參り
▽一月＝十日―今宮神社十日戎（九日宵戎、十一日残り福の三日間）、十四日―四天王寺の修二會（俗にドヤ〳〵といふ）、廿五日―天滿天神の初天神
▽三月＝十五日―堀江阿彌陀池和光寺、春の彼岸中に四天王寺彼岸會、廿五日―天滿天神の梅花祭
▽四月＝上の卯の日―住吉神社卯の日祭、八日―四天王寺花祭り
▽五月＝八日―堀江の阿彌陀池の誕生會（附近で植木市あり）
▽六月＝天王寺愛染開帳
▽七月＝市内の祭り月、主なるもの一日―愛染祭、九日―生國魂神社、十二日―土佐稲荷十四日―八阪神社、十五日―御津八幡神社、十六日―大江神社、十七日―御靈神社、十八日―高津神社、豊國神社、廿一日難波神社、廿二日―座摩神社、廿四日―陶器神社（此の祭りの前後に西横堀川西岸新一橋以北に陶器の造り人形あり頗る賑ふ）廿五日―天神祭（今事變前は此日午後四時頃、神輿天滿天神を出御、堂島川を舟行列で松島の御旅所へ渡御して夜半に還御、渡御道筋の沿岸頗る賑ひを呈した）、廿一日―住吉神社北祭（此夜堺大濱に盛大な魚の夜市あり）
▽八月＝一日―住吉神社南祭と靱永代濱住吉祭
▽九月＝春季皇靈祭を中に一週間、四天王寺彼岸會等。
▽十月＝十七日―住吉神社寶の市神事、廿五日―天滿宮流鏑神事



興亞大建設の
市民生活



## 戰時市民の歌

一、雲亂飛ぶ大陸の
　山河も搖ぐ戰鬪に
　正義一路のますらをが
　命を花と散すとき
　三百餘萬決然と
　起てり力の大市民

二、春幾たびか回るとも
　われらも長期建設に
　結ぶ祖國のつはものだ
　驕奢と虚榮をふるい棄て
　心を鐵と鎧ひつゝ
　征くぞ嵐の大針路

三、音すさまじく産業の
　大都の鼓動打つところ
　平を感謝を滾せて
　響の自治に睦合ふ
　うからやからの襷がけ
　今ぞ勤勞總動員

四、水饒なる難波津の
　誇は清きみをつくし
　きのふ白衣の勇士らを
　けふ出征の家々を
　訪ねて贈る感激に
　咲くぞ銃後の愛の花

五、あゝ錦城に陽はのぼる
　街も人も灼熱の
　意氣に燃えつゝ百年の
　大計樹つるこの朝
　興亞の鐘を撞き鳴す
　道は一つだ大市民

## 町會再認識の機運

本市三千町會は事變下に於ける、市民生活は國民精神總動員運動の實踐母體として、本市の如き大都市の自治行政の補充機關としての二大使命を達成するために、昭和十三年四月十七日榮えある自治制發布五十周年記念日にあたるこの日を記念として、全市一齊に結成されたのであつて、各町會では結成後直ちに活潑な活動に入り、遂に同年八月に至つて町會を中心に三百餘萬市民が脈搏つ愛國愛市の熱誠を傾けて戰ひ抜く戰時市民生活運動を起して今日に及んだのである。

この結成以前に於ける町內會は、單なる懇親をいみするものであり、或ひは商榮的なものであつて、あるひは趣味的に行はれたものであつて、僅かに事業を行ふ外に、春秋二季の遠足會、物見遊山などの懇親的行事に過ぎなかつたものが、戰時生活に新しい意味の町內會、政府の提唱せる、國民精神運動に呼應すべき町內會の結成の運びとなり町內會の會長は、單に會費を集めて春秋の懇親會を考へ出すやうな時代でなく、總て實踐を母體として規律統制ある町會の活躍は又めざましきも

のとなつた。

## 町會結成の目標

從來の町會から新しい町會へ向ふべき目標を示された

一、一ケ町若くは一丁目の地域によつて組織せられた團體であること

二、町會が相互に扶けあひ、一致團結して事に當る精神的團體であること

三、全町民の福利を增進し共存共榮を圖る團體であること

四、時局に善處し、又非常災害を防護する團體であること

五、市役所、區役所其他の官公署と市民との密接な連絡を果す團體であること

六、他の町會及び各種團體の事業に對して援助協力する團體であること

この目標のもとに町內會は戰時市民生活を强化することゝなつて一致團結せられた、市民生活は更に市民生活十則なるものを揭げ、町會の健實なる發展を圖る指導精神としたのである。それには時局の重大性に鑑み、愛國愛市の精神を基とし全居住者の共存共榮を目的とする公共的な團體であることを、全町內の人々に意識せしめ、町內で衆望ある人士は第一線に立つて、指導の任に當り、世話人を設けて、町內一體であることに努めた、町會のあらゆる部門に亘つて細心の注意を拂ひ一意改善に向つて來たのである。

## 町會の活動概況

昭和十三年四月十七日の自治制發布五十周年記念日を卜して全市三千町會が一齊に結成せられた一たび國難に際會するや一致協力、勇猛果敢、君國の爲には敢て死をも辭せざるわが國民は數次の國難を克服して、目覺ましい進步の跡を歷史の上に印してゐる。今後の事變は、わが帝國が躍進途上において當然直面すべきものであつて、わが國は擧國一致、正義日本に課せられたる崇高なる歷史的使命の貫徹に向かつて、日夜千辛萬苦をなめて勇戰奮鬪を續けてゐられる忠勇なる我が第一線の將兵に對して、市民を擧げて支援を行ふと共に深く時代の推移を注視し、各々其の分を盡すために、大阪市民の一人一人が國民精神總動員の實を示して、衣食住の全般に亘つて出來るだけの不自由を忍び、公私生活を簡素質素にし、各人の持つ人的、物的の力の總てを國家に捧げてこの大使命を成し遂げる爲の生活を營むことが缺くべからざる要件となつて、全市に亘る三千町會がその組織

された集團の力を以て「戰時市民生活運動」の名の下に、經濟思想戰强化の國策に從つて、同年八月十五日より華々しく運動の火蓋を切つて同年十一月十四日までを第一期と定め、次の三大綱領を目指して實施された。

生活刷新――生活の無駄排除　簡素生活　隣保生活强化

消費節約――物資の節約　廢品不用品の活用　貯蓄及献納の勵行

心身鍛錬――健康生活　體位向上　勤勞奉仕

この運動これは盡忠報國の赤誠に燃ゆる大阪市民のやみ難き聖戰への協力であつて、由來實踐を第一義とする大大阪市民の精神の發露に外ならぬのである、いはゞ戰時に於ける銃後市民生活の武裝化である。

その細目は、生活の無駄を排除し、簡素生活を樹立し、一方廢品の蒐集を行ふと共に、之が活用を圖り、隣保團結の力を强化し、他面銃後市民の精神を昂揚せしめる爲に、健康の增進、體位の向上、勤勞奉仕の實踐を提唱する等總て町會の自發的運動として、之を實施した。即ちその實施の方法としては講演會、研究會、講習會等が隨所に開かれ、決議、宣言、申合事項等によつて市民の意氣込は活潑となつた。

生活の刷新については、冠婚葬祭の式典は形式よりも精神を重んじて、改善せられた點は甚だ多く、儀禮祝賀の場合に於ける式服はモーニング、紋附等は着用せず蝶型の儀禮章によつて簡略にされ、又集會などの時間に關する觀念も漸次强化されて「大阪時間」といふ汚名も影をひそめた。

消費節約については衣食住を通じてあらゆる無駄を省き、餘力はすべて貯蓄に移し、廢品不用品は之を家庭より蒐集して、その賣却金は貯金或は國防献金としたが、七月七日の事變一週年の當日に於けるこの廢品の賣却代金は八萬圓餘あり、全町會の八月末の貯蓄額は八十五萬四千圓といふ大きな數字に上つた。そして買物の合理化、貯蓄の勵行、資源の愛護等についても各家庭に廣く、深く實施せられた。健康生活についてはラヂオ體操など早朝行事として盛に行はれ、或はハイキングに集團的運動によつて心身兩面に亘る訓練が續けられた。

勤勞奉仕については聖地橿原神宮御造營の建國奉仕隊に町會が參加して模範的な活躍が見られ、或は淀川、神崎川、大和川、附近堤防の草を刈つて軍馬の秣として當局に献納する、勤勞奉仕隊ありは休閑地を利用して町會の公園、運動場、菜花栽培園を自らの手で作つたり、おの〳〵土地の思ひ〳〵

の勤勞奉仕を競つて隣保團結の精神涵養の實を擧げた。斯くして一歩々々力强く堅實に其の歩を進め、時局町會の眞劍さを如實に示し、市民の時局認識と國民精神總動員の徹底を期したのである。

第二期戰時市民生活運動は、時恰も武漢攻略を一轉機として事變も新段階に入り、國策は一に新東亞建設と云ふ聖戰究極の目的に向つて進み、十二月一日より翌十四年五月末まで六ヶ月間の長期に亘つて、第二期運動が續けられた。

一、勤勞倍加――職場を守れ、時間を活かせ、擧つて貯蓄、進んで献納

二、生活刷新――生活を簡素に、物資を愛せ、銀へよ心身

三、隣保團結――護れ銃後、住み良き町内、揃つて奉仕

第二期運動の目標は、長期建設に處する市民生活の物心方面の强化擴充を圖り、全市民を擧げて國策遂行に協力し、同時に町會本然の使命たる隣保團結を强調することゝなつた、恰も年末年始に於ける町會では生活刷新の好機とばかり、家庭生活の總ゆる分野にわたつて刷新の斧が加へられた忘年會、新年會の遠慮、年賀狀、廻禮の差控へ慰問文の發送、さては正月の門松、注連飾を質素にして、その費用を慰問袋の調製傷病兵の慰問に當てる事など、各家庭に於て盛んに實施せられた。

こゝに於て大阪市では、市民が日常愛唱歌に託して、益々この運動を强調せんが爲め二月十六日、戰時市民の歌の公募を行ひ、集まつた珠玉篇七千五百十一篇中より入選歌を決定し、三月十八日、晝夜に亘り國民會館と中央公會堂に於て盛大なる發表會が開かれた。（當選歌詞は五八頁參照）

一方ラヂオに依り本運動の普及を圖るため、大阪中央放送局と提携して、三月十二日より四月末に至る間「戰時市民生活運動强調特輯放送」として、本運動を取材した各種の講演、講座、座談會演藝、等の豪華なるプログラムが組まれて日夜放送せられた。

第三期戰時市民生活運動は事變二周年記念日たる七月七日より、十二月末に亘る六ヶ月間之れを實施することゝなり、その實踐項目は現下時局に最も重要なる次の三大項目が選ばれた。

一、金の集中　二、貯蓄の倍加　三、物資の愛護

この期間中の運動目標は、軍備充實、生產力擴充等の重要國策を貫徹するため、金集中と物資愛護につとめ、一方生活を刷新し勤勞を倍加し貯蓄の增加に主力を注ぐことである。

公債債券の購入に力をつくし共同購入を行つたが僅二十有餘日にして、三百餘萬圓に達し、本市町會の力强さを如實に顯現し關係者を驚かせたのである。

第四期戰時市民生活運動に入るや悠久二千六百年の歴史に輝く新春の元旦より、六ヶ月間に亘り實施の第四期運動へと引きつがれて、いよ〳〵町會の面目を發輝せられたのである。

一、金の動員――金の賣却　貯金の倍加

二、物の活用――物資愛護　食糧品の尊重

三、力の集中――隣保團結　勤勞の倍加

であつて、これらの目標へ全市民は起つて敢然總力戰を開始し、殊に現下最も喫緊事たる金集中運動には、本市が全國に魁けて各町會に府知事より囑託の「金集中婦人勸奬員」一萬三千名を設けて眞摯な活動が續けられた。

以上述べて來たことは、大部分町會を通じて國策に協力する銃後强化の一大愛國運動であるが、町會の使命はこれに盡くることなく、庶民自治の本領たる隣保團結、相互扶助を行ふ分野もあるので、この方面にも町會は輝しき成果を擧げた。

軍事援護の助成にいたつては麗しき風景が描き出されること枚擧にいとまなく、前線の人々に感謝の誠をつくし、町内戰歿者に慰靈祭執行等に、又遺家族に對する感謝の慰問、慰安演藝會を開催あらゆる方面から銃後の隣人愛を遺憾なく發揮してゐる。

各町會では災害を防止するため種々の設備を設け手段を講じてゐる、高潮來に備へる水防隊に凱歌が擧つて水禍を免れたと云ふことや、防火隊によつて火事を未然に防いだことや、學童の通學安全を計るため町會の交通整理を引受け役員交替でこれに當り、感謝の的となつてゐるのもある。その外防空訓練の參加協力とか、輪番制にする夜警巡回とか、街角に救急箱を備へつけるとか、婦人部員により應急醫療講習會を開くとか、天災地變や不時の事故に對して町内一致協力し未然にその災禍を防止する企てが行渡つて來た。

更に町會では社會教化、情操教育の目的で敬老會、孝子節婦善行者の表彰、生花、茶、禮儀作法教授、その他放送局、新聞社、中央卸賣市場等の社會見學をなし、又日用品の共同購入、配給或ひは商工業者への融資その外種々の相談所の開設等相互扶助のために大いに活動してゐる。

こうした活躍は成人ばかりではない、婦人子供の活動も又旺んである、婦人も子供も全住民が一體となつて活動することが、本市町會の特異性であり、主婦達の會合や、小年少女の集ひを町會が側面から援助善導してゐるのであつて、「銃後の守りは婦人の手で」「次の日本僕等の日本」をモツ

トーに健氣な働きを續け感謝の的となつてゐる。

その活動範圍は主として神社參拜、神社佛閣や町内の清掃撒水、入退營出征者の歡送迎、慰問文、慰問品の發送、遺家族及傷病兵の慰問、榮養料理の講習、洗濯染物の實習、ラヂオ體操、ハイキング等への參加などあり、特に金集中、不用品の交換、廢品回收、國民貯蓄等、家庭婦人の活動も目覺ましく、町會振興上注目に値すべきものがある。

## 町會の歩みと將來

かくして大阪市の町會は、今事變を契機として、過去の單なる親睦から、社會的活動へと進展を見せ僅かの、短時日の間に斯くまで充實した眞摯な町内會が結成せられたことは、市民の時局認識は言ふまでなく、浪速より大阪への鄕土のもつ傳統の精神が、脈々として傳へられ、商工都市としての市民生活の上に躍如たるものがあることは、心強き限りであると云はねばならない。

國民精神總動員から、更に大政翼贊運動に轉ずるが、我大阪市民生活の上に意義深からしめるものがあり、町會制へ更に强化せられるものと思ふ。曩きに大阪市が率先して行はれた。町籍簿の作製に至つては、忽ちマッチ及び砂糖の配給に効を奏したのである、今後米や炭の配給に、社會施設の上に多大なる効果を見せるものとして、大阪三千町會の緊密ぶりを讃えないものはない、斯くして大阪市民は、都市の發展とともに、いよいよ、强化せられ、都市生活としての面目へと邁進してゐる。

## 戰時市民生活の第五期

**家庭の新體制運動**　大阪市が昭和十三年四月全市に町會を結成して以來、銃後强化の一大愛國運動として實施した戰時市民生活運動は第一期から第三期を經てさらに輝く紀元二千六百年の元旦から同年六月末までの第四期運動へと引繼がれ、金の動員、物の活用、力の集中の三項目を實踐、全市民擧つて敢然總力戰を展開したが、いまや新體制の三千五百町會の整備も成り、三百五十萬市民の間には大政翼贊、臣道實踐の機運が漲つてゐるので、この機をとらへて新體制的の第五期戰時市民生活運動を實施することになつてゐる。第五期は昭和十六年元旦から向う一ケ年間を實施期として實踐項目に「新體制の家庭生活計畫化」を取上げることに決定、長期戰と東亞共榮圏建設の國策に沿ふ三百五十萬の市民生活をこの際根本的に合理化することになり、七十萬世帯を打つて一丸とする大大阪隣組の協力により、商都大阪に適しいもつとも現實的な臣道實踐の一大銃後運動を展開してゐる。

## 天滿祭長歌

熊谷直好

國毎に、くにつ社あり、里ことに、さと祭あれど、津の國の、難波壯士か、あらかねの、土もくほめと、踏みとよみ、車ひきかへは、玉ほこの、道ゆき人は、行きかねて、立たよひぬ、大川に、集へる舟は、うけすゑん、水さへなくて、たきあくる、かゝりの影に、大空の、雲もこがれぬ、そも〳〵は、いかなる神そ、かしこきや、我菅原の、すかの實の、一本たちて、なる道の、なかの極みと、天の下、まうし給ひて、天の原、滿ちたる光、千代までに、かくそかゝやく、あふかさらめや

# 大阪商工總覽

## 大阪市歌

(一)高津の宮の昔より
代々の榮えを重ね來て
民のかまどに立つ烟
賑ひまさる大阪市

(二)難波の春の朝朗
生氣衢に漲りて
物皆な動く産業の
力ぞ强き大阪市

(三)東洋一の商工地
咲くや木の花魁けて
四方にかをりをおくるべき
務めぞ重き大阪市

# 總説

### 我が經濟の中心「大阪」

大阪は本邦經濟の首都であり、一口に云へば生産集散の都市である。大阪は既に豊臣秀吉の築城以來、西日本に於ける經濟の中心であつたが、德川時代に入り、更に貨物の集散、物價公定の一大中心地として活躍した、其の間に築かれた、いはゆる大阪商人の傳統が、今日商都繁榮の根底となつてゐる。加ふるに市内外に於ける交通機關の發達、河川による舟運の便、市營港による貿易の進展と近代的生産設備とは、煙都の大工業を躍進的に發展せしめ、從來單なる生産品の集散市場であつたものが、今や生産原料が商取引の半ばを占めることゝなつた、こゝに大阪の經濟的地位の優秀さが存してゐるのである。

單に計數上から見れば會社數よりするも、資本總額よりするも金融上の資金流動の數量より見る

も、何れも首都東京が全國の第一位なる地位を占めてゐるが、これは政治と經濟との接觸上、大會社の本據が東京に置かれてゐるものが多い關係から生じた現象であつて、純粋の經濟活動から云へば大阪は我國の中心點を爲してゐるのである。しかも近年に於ける大阪はその進展に拍車をかけて眞に目覺しいものがある。躍進産業日本の謳はるる大半こそ實に躍進大阪そのものゝ反映に他ならぬと云つても過言ではあるまい。

近年に於ける世界の經濟思潮の轉換は列國の産業政策に、貿易政策に劃期的の變化を齎らした、即ち自由經濟より國家主義經濟へ、國際協調經濟よりブロック經濟への移行は、産業日本の上に決して惠まれたるものではなかつた。たとへば列國の邦品防壓手段の激化の如き、坦々たる海外進出の路は、忽ちにして屈折を極めたる茨の路と化したのであつたが、道險なれば愈よ强く、よく支障を排し反つて躍進日本の素晴らしさを克ち得たるものは實に大阪の活動そのものに他ならなかつたのであつた。幸にも國内事情はこれまた大阪を大ならしめるに役立つた、即ち近年に於ける軍需工業の旺盛は全國的にその恩惠を及ぼしたとは云へ最も活動の中心となつたものは大阪である。

## 工業生産は五年前の二倍

かくして躍進大阪の勇ましき姿は、最近の日本産業の象徴として目ざましき進軍を續けつゝあるのである。工場數に於て八千數百を算し、二十數萬の從業員、十數倍の資本を有する大阪の工業は金屬、機械、器具等の重工業を筆頭に紡績事業より雜貨に至るまで年産額逐年增加の一途を辿りつゝあり、大阪商工會議所調査にかゝる昭和十四年中に於ける大阪市内各種工業生産高（職工五人以上常時使用工場分）では實に總額二十四億四千三百萬圓で、これを昭和九年の十一億九千萬圓に比すれば僅々五ヶ年間に我が大阪の工業生産額は倍加してをり、また、第一次歐洲大戰直後の大正八年に比すれば實に×倍半の多きに當る驚異的巨額を示し、日本に冠たる生産都市の面目を躍如ならしめてゐる、これ全く逐年殷盛を極むる軍需關係工業を主因とする當市の旺盛なる生産力を雄辯に物語るものであるが、尙之れに含まれざる軍需關係生産額の如きも殊に多額に上るものと推測され、從つて實際に於ては前記生産額よりも遙かなる巨額に達してゐることを併せ考ふる時、まことに隔世の感なきを得ないものがある。

從來日本の經濟的發展が纖維工業を推進力とした如く、大阪の産業は特に綿業を中心とした。然しこの情勢は近年顯著な變化を遂げつゝある。例へば昭和十四年中の前記大阪市内工業生産額の中

工業諸機械及び銅鐵製品が首位を占め、これに次いで精錬及び金屬製品、化學工業製品、紡績工業製品の順位である。斯くの如く最近に於ける重工業並に化學工業の躍進は極めて著しきものがあり、從前壓倒的優位を占めた纖維工業品の地位は遙かに低下するに至つた。今次支那事變勃發以來經濟統制の强化により、右の傾向が更に顯著となつてゐることはいふ迄もない。また最近に於てこれら大工場は續々と建設せられ、長期建設を目ざす市民の覺悟は國家總動員法の發動と相俟つて、各工場とも最大の能率をあげ、生產力擴充の國策線に邁進しつゝあることは大に意を强うするものである。

## 共榮圈貿易の重要據點

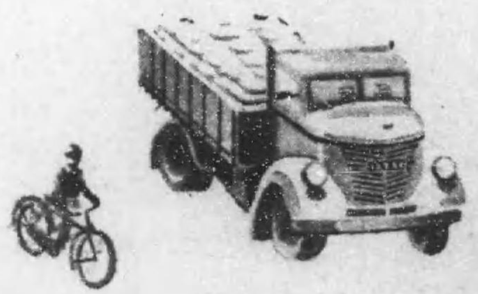
更にこれを貿易上より見れば近年の躍進はまさに驚くべきものがある。貿易港としての大阪が神戸横濱に及ばなかつたのは今日ではすでに過去のものとなつてゐる。こゝ數年來の躍進は速度的に伸長して昭和十四年に於て輸出十億三千四百萬圓、輸入六億一千百萬圓、合計貿易額實に十六億四千五百萬圓に達してゐる。物資の一大集散地である產業大阪を背景とする大阪港の貿易額が常に噸數に於て入超、價格に於て出超といふ定型を保つてゐるところに工業の港としての特色を現はしてゐるのであるが、明治三十六年以來一億數千萬圓の巨費を投じて營々築造擴張を續けつゝある、此の大阪港が市營であることは大阪の大なる誇りの一つである。この事業の規模大なること、また經濟、文化方面への貢獻の偉大さは大阪城築城と共に、大阪に於ける二大事業であると云つてもよいであらう。現在五ヶ所の棧橋には一千噸以上二萬噸までの汽船が三十七隻も同時に繫留することが出來る、この築港の完成は商工都大阪の發展に更に大きな拍車をかけたもので、今後の進展こそ實に測るべからざるものがある。しかも大阪の貿易港としてのこの進展こそ躍進日本の中樞を爲す新市場への血のにじむ努力の結晶の表現に他ならぬのである。

斯く大阪が貿易に優位を占めつゝあるのは、他方その地理的位置によるところ亦尠しとしない。即ち西日本の經濟的中心として西日本に對する優位はいふまでもないが、東京、横濱がたゞアメリカに對するのに、わが大阪は遠く歐洲のみならず、わが國生產品の最大市場たる滿支、南洋及び印度を近くに擁してゐる。即ち我國の中樞的產業都市として獨特の地位を占める大阪の貿易は實に對滿支貿易を中心として發展したもので、傳統的に我國の大陸進出に於ける重大據點としての役割を果して來たのである。大阪港の昭和十三年度に於ける對支貿易額は輸出一億三千三百萬圓、輸入三千九百萬圓で、我國對支貿易總額の中、輸出に於て四二・五％輸入に於て二三・九％を占めてゐる。

而して從來の對支輸出は綿製品を大宗とし其他纖維製品並に各種雜貨を主としたが、近年機械類その他重工業品並に化學工業品の擡頭が著しく、支那事變以來特にその傾向が強い。これは一面前述の如き大阪產業の質的變化を反映せるものであり、他面支那に於ける粗工業の勃興を物語るものである。今後の大陸建設は我國の全國力を擧げて當るべき重大問題であるが、久しき傳統と豐富な實力を擁する大阪の產業が依然として中心的役割を演ずべき使命を擔ふことは何人も疑ひ得ないところであらう。尙こゝに最も注目すべきは、大阪を中心とする近畿大工業地帶の必要とする原料物資が、何れもその附近に仰ぐものでないため之れが供給には商業的活動の協力を得なければ成りたゝない一事である。これ實に對外貿易から大阪港を切り離し考へる事の出來ぬ所以であり、將來日滿支經濟ブロック結成後に於ける近畿の工業は、益々商工一體の實を擧げて行くものと解せられ、其處にも大阪商人の活躍に俟つところ大なるものあるを特記するものである。

躍進大阪の姿こそとりも直さず躍進日本の姿である。世界の大勢は今後も必ずしも日本の產業にとつて樂觀すべきものではないであらう。しかしながら吾等は生產都市大阪のいかなる障害をも突破してますます健全に進展してゆく力を信じて已まないものである。

# 商業總覽



升の市鹽屋長次が月見かな　許六

大阪がやしなふ花の都かな　李由

# 商都の趨勢

東京が我國の政治的中心都市たるに對して、大阪は日本の商工業の中樞都市にして、謂はゞ我が國家經濟の心臟的存在たることは云ふ迄もない事である。結論から云へば、大阪の歴史は我國の商工業發達史でもあると云へやう。元來、大阪は地理的關係から見ても商業都市として當然發達すべく諸種の條件に惠まれてゐたのであるが、近年に於ける交通通信の異常なる發達によつて、商都大阪と對内地、外地、大陸諸地方との地理的また時間的の間隔は著しく短縮され、殊に最近に於ける航空設備、無線通信の完成は益々これに拍車をかけ、我が大阪が興亞經濟心臟都市としての形態は整備されその將來は益々洋々たるものがある。

さて、歴史が示す如く、大阪の商業殷盛は遠く上代に遡るのであるが、大阪現在の發展を齎らした基はと云へば約四百年の昔豊大閤が大阪を我國海外發展の根據地と見極め、此處に雄大なる築城を成し、一面國内政治の中心地たらしめると同地に、一方堺、伏見の商人をして、地の利を得た大

阪にどし〳〵移住せしめ、こゝを根城として盛に内外交易に從事せしめたに始まると云へやう。斯くて大阪の經濟都市としての基礎的素地が固められ、德川時代に入つてからも、幕府は大阪城代を置いて淀川の治水を行ひ、運河を開鑿し、以て交通の利便、物資集散の便益を計り併せて水災火災の防衛に非常な努力を拂つた。さらに當時の幕府爲政者は商取引に關する基本的な諸制度を定め商人をして之を格守せしめたのであるが、これによつて大阪人は商人としての根本的な訓練が實施され、こゝに大阪及大阪人は商都及商人としての内容外觀が整へられたのである。斯くて明治維新當時に於ける未曾有の混亂に際しても大阪の商業界は特有の根强さを以て見事に時艱を突破し得たのみならず、爾來時勢の急激な變遷推移によく順應し、大阪の經濟機構も年と共に益々整備擴充されつゝ今日の世界的商工都市としての繁榮が齎らされたのである。

## 取引所

曾て、大阪には全國の市場相場を左右した四つの取引所があつた。大阪株式取引所、大阪堂島米穀取引所、大阪三品取引所、大阪砂糖取引所が之である。賣る手、買ふ手の忙しく華かなフラツシュの波と共に、千兩、萬兩の市が刻々に立ち、全世界の政治、經濟事業をこゝに映じ國力國勢を記錄したのであつたが、この商都の華と云はれた取引所も近時支那事變の進行に伴ふ統制經濟遂行の犧牲となり、大阪株式取引所を除き他の三取引所は全部閉鎖されて終つた。

### 大阪株式取引所

歐米諸國の文物制度移植の盛んに行はれた明治の初期明治十一年八月その企圖の一つとして株式取引所條令に基き創立開業せられたもので東京株式取引所と共に我國證券取引所の双璧として指導的立場にある。現在、大阪株式取引所の資本金は四千五百萬圓、東區北濱二丁目に堂々たる白堊建築を構え、昔變らぬ繁盛を誇つてゐる。昭和十二年支那事變勃發による戰時尨大豫算の編成以來、物價の上騰、生産力擴充の爲めの軍需關係株の活況等、財界の異常な膨脹は勢ひ株式取引所に未曾有の景潮を齎らし、昭和十二年に於ける當取引所株式出來高實に一億二千二百萬株を示した。

## 卸賣市場

### 大阪市中央卸賣市場

大大阪の台所を賄ふ中央卸賣市場は毎早朝五時頃その殷盛と雜踏の最高潮に達する。足の踏み場も無い鮮魚蔬菜の山は、內地はもとより遠く北海道、朝鮮、臺灣、支那、滿洲等より此處に集貨され此處から再び全市の生鮮食料品商に配給され、軈て市民の食膳に運ばれるのである。謂はゞ中央卸賣市場は三百萬市民の台所の元締であり、穀倉であり、市民食糧のダムでもある。

大阪にはもと、四十幾ヶ所の卸賣市場があつたが市民日常食料品の價格調節を計るべき機關の設置が必要となり、天滿、雜喉場、木津等各地に散在してゐた十二の主要市場を廢し、これを中央卸賣市場に集中し、中央卸賣市場法に則とり、昭和六年十一月十一日の早曉を期して誕生したのが現在の大阪市中央卸賣市場であつて、殘餘の市場は市周圍部にありて自らその機能を別とするところからそのまゝ存置し、夫々の諸地區に生產される生鮮食料品の集荷機關として繼續營業することゝなつた。而して、木津及天滿の兩市場は中央卸賣市場の開業と同時に、夫々中央卸賣市場配給所と變更され、主として仲買人市場の役割を持ち、中央市場に集中した生鮮食料品を市內に配送する機關となつた。

市場內には大阪魚株式會社、大阪淡水魚貝株式會社、大阪海產物株式會社、大阪食鳥株式會社、大阪青果株式會社、大阪漬物株式會社、大阪穀物株式會社、及び鷄卵卸賣人五名が營業してゐて、仲買人は卸賣人より仕入れ、之を小賣商、買出人等に販賣するものでこの仲買人の數は同市場及び各配給所を合して約二千人あり、又、立賣人は各々一定の場所にて自己の生產品を一日一定の量を販賣する近郊生產者にして每日平均三百人の立賣人が參集營業してゐる。

又同中央卸賣市場內には之等多數業者の便宜のため、中央郵便局分室始め住友、三和兩銀行の支店、運送業者、冷藏倉庫業者其のほか車置場、荷集所、卽席天ぷら屋、壽司屋に至るまで賑やかに開店してゐる。

前記した如く當中央卸賣市場はたゞに大大阪の台所を賄ふ元締たるのみならず、こゝに集貨される各種食料物資は汎く全國及び外地より運搬されるものであるから當市場に於ける取引の消長、市價の高低は、たゞに大阪市民の台所に對して直接重大な關聯を持つのみならず、全國食料品の市價需給狀況に重大な影響を及ぼすのである。殊に現時局下に於ける國民食糧の圓滑なる配給及びその價格の適正が要望せらるゝ際、當中央卸賣市場の國民經濟に寄與する所愈々大でなければならない。

## 小賣市場

大正七年當時第一次歐洲大戰による我國經濟界の大戰ブーム時代、市民日常生活必需品の需給圓滑を計り、一般購買層の利便に供する目的を以て、大阪市が境川外三ヶ所に公設小賣市場を試驗的に開設した。時恰も米の偏在の爲め全國的に所謂「米騒動」が相次いで勃發し經濟界騒然たる時、この公設小賣市場はよくその機能を發揮し、時宜に適した物資配給機關として非常なる好成績を收めた。これが今日五十餘ヶ所に存在する公設私設小賣市場の最初にして、又今日全國各都市に普及した公私設小賣市場の濫觴である。

右の如く大阪市に於ける小賣市場數は合計二一七にして、その中公設市場五十三を數へ、その數に於ても、その賣上高に於ても全國第一位にあり、昭和十三年大阪市内公設小賣市場總賣上高は二千四百二十九萬八千餘圓に上つてゐる。

## 大阪に於ける商店

大阪市に於ける商店々舗の數は約十萬と稱せられ、その中卸賣商及び海外との取引を行ふ貿易商はその約一割と見られ、卸小賣兼營業者も亦一割見當にて、殘り約八割卽ち八萬は小賣商といふ勘定である。大阪市の調査に依れば昭和十三年七月末現在に於ける物品販賣店舗の數は八萬七千餘、平均七・一世帯につき一店舗の割合となつてゐる。



## 卸賣商

大阪の卸賣商は古くより同一區域内に同種商品を取扱ふ卸賣商が密集してゐることが多い、例へば本町附近の呉服問屋、南久寶寺町の雜貨小間物商、谷町の洋服、服地、松屋町、御藏跡に於ける玩具、菓子屋街、道修町の藥種商等はその代表的なものとして有名なものである。これは一面卸賣商相互間の種々な連絡協調に非常な利便であり、一面又、仕入者側にとつても問屋訪問、商品選擇等に便益が與へられる譯で、これは他都市に餘り見られぬ特色の一つである。

元來大阪に於ける卸賣商は一面卸問屋たると同時に他面生産業者たる場合非常に多く、家内工業的手工業乃至は簡易なる機械操作による小規模工業を兼營、その製産品を取扱ふ卸賣業者の數は非常な多數に上る。或は自己の店舗内に或は店舗とは別に職場又は工場を設け、或はその有する資本力の支配による他工場と連繫を保つ等々その規模形態は種々雜多であるが、その製産と卸賣兼營の

經營は販賣價格の上に需要者側の仕入希望應諾の上に種々の便益多く、この特長の伸暢は結局是等製造卸問屋をして、たゞに國內市場への物品供給に止まらず、汎く海外への輸出に非常な躍進を遂げしむるに至つた所以である。

近時、支那事變の勃發に伴ふ軍需充足の必要はやむなく平和諸工業品の製造減退を餘儀なくし、原材料の不足及びその配給の不圓滑、並に勞働力の軍需吸收による枯渇など戰時經濟進行過程に於ける諸種の惡條件は大阪に於ける平和工業乃至輸出工業方面にも多大の影響を與へ、卸商方面への打擊亦當然である。併し乍ら一面に於ては軍需殷盛による一般購買力の急增による物價の上昇は製品市價の採算を有利ならしめ、又、他面軍需資材輸入確保の手段としての輸出貿易の振興は長期戰下益々その重要性を增すところから輸出產業に對する原材料の配給は優先的に得らるゝ事情よりして、國內民需產業より輸出產業に轉換するもの益々その多きを加へられつゝある。斯くて、一面戰時統制經濟の進行と、輸出の振興が益々高度化强化されんとし、一面後述するが如く(貿易總覽參照)圓域輸出の老大化とその調整と、第三國輸出の發展に絡まる諸問題の錯綜に謂はゞ大阪に於ける商品界、商業界殊に卸し貿易業界は一種の混亂時代にあり、しかも時勢の趨くまゝに輸出の發展への太い一線を描きつゝ飛躍伸展の整備を爲しつゝあると云ふべきか。

## 小賣商

小賣商は統計上中層階級以下の小市民多く在住する港區に最も多く、北區、住吉區、東成區、此花區、東區其の他の順になつてゐるが大體に於てその分布狀態は人口の數に比例してゐる。また、南區、浪速區等には大歡樂街ある關係上全區恰も大規模な小賣商店街となつてゐて、また、統計上東、西淀川區に小賣店の少いのは兩區共工場地帶となつてゐる事情に起因する。

近時、時局に鑑み所謂統制經濟の發展と共に勢ひ從前の自由主義的經濟機構は漸次衰退の一路を進み、物資の配給部門たる小賣商側に於ても漸く統制經濟の色彩が濃厚となりつゝある。斯かる情勢は一面に於て商業組合の强化發達を促し、商業組合の活動は各小賣營業の經營內容に或る程度の制肘を加えるに至つてゐる。また政府の物資配給統制は小賣商の數、取扱商品、販賣價格等の上にも相當廣汎圍に亘る法制力を及ぼすに至り、かゝる情勢の推移は當然小賣商への一種の壓迫となつて現はれ、この結果變則的な需給の梗塞が時々隨所に見られるに至つた。斯くて一時は物資の偏在、不當價格の橫行、不正取引の暗躍が當局の非常なる抑制努力にも拘らず行はれ物資の配給前線たる

小賣商店界また非常なる混亂時代に臨んだ。謂はゞ時勢に則とる統制主義的需給法則の强行と、これに掉し乍らも、ともすればこれに逆行し舊來の自由主義的經濟法則を維持せんとする潛在的商人意識乃至經營との摩擦が齎らす一種の過度的混亂であつた。

百貨店は大阪に於ては大丸、そごう、高島屋、三越、阪急、大鐵、大軌及び松坂屋の八店の多數に上り、何れも渝らぬ繁榮を見せてゐる。或るものは交通上の要地に構え、或るものは市の中心繁華地帶に位し、夫々の特徴設備を以て大規模綜合小賣店としてそれぞれの活動を續けてゐる。曾て百貨店の簇出時代に於て從來の小賣商はその經營を脅かすものとして執拗なる怨嗟反對を行つたのであるが、元より綜合小賣店としてのデパートシステムと專門品小賣店との立場經營目標は自ら異る所にして其後に於ける各自經營の合理化、顧客分野の純化は從來の双方の對立抗爭を漸次緩和するに至り、又現時財界膨脹の影響を受けて、デパートも專門店も近年異常なる賣上の增加を見せつゝあり、一方百貨店は事變の進行と共に大陸建設の一線に立ち、その大陸進出はいよ〳〵本格的に行はれつゝあつて、その巨大資本による小賣業の第一線的使命は愈々果敢に遂行されつゝある。

## 集散物資

內外各地より大阪に集まる物貨は船舶、國鐵、私鐵、自動車等あらゆる運輸機關により四通八達の交通網により運搬されて來る。これらの貨物は鐵道によるものは梅田、天王寺、湊町、市場等の各貨物驛に、船舶によるものは築港、安治川、北港、木津川、尻無川、中央市場、各大川荷揚所にまた東は名古屋、岐阜、西は岡山、廣島邊りまでに及び近郊各府縣に通ずる國道、府縣道、產業道路等の完成により輕便快速なるトラック輸送は日に月に頻繁活潑となりつゝある。これらの諸ルートによる集散物貨の數量は、時局產業の異常殷賑と共に近年非常な增加を示し、昭和十二年に於ける大阪市出入貨物は四千三百四十萬噸に達し、昭和八年に比し、實に四割八分の激增を見せてゐる。この中、海上運送による貨物は出貨八百九十三萬噸、入貨二千百九十四萬噸にして、合計三千八十七萬噸を示し昭和八年に比べて五割八分の飛躍的膨脹を遂げ、又鐵道貨物は出貨六百九十三萬噸入貨五百六十萬噸、合計千二百五十三萬噸に及ぶ。而してこれら海陸による出入貨物の價額は出貨五十四億三千六百餘萬圓、入貨五十二億四千三百餘萬圓、合計實に百十億に垂んとする尨大な數字を示してゐる。

## 倉庫

大阪港附近を始め、堂島川畔、田蓑橋附近から西へ中央市場の對岸にかけて或は土藏式の、或は

近代的鐵筋コンクリートの堂々たる大倉庫がドツシリと立ち並んでゐる風景は亦榮える商都大阪の顔の一つである。大阪市には杉村、東神、住友、三菱、澁澤、東洋、西濱、富島組、大阪、堀川、天滿等の大倉庫が船車の發着場、河岸、貨物驛附近等を中心に各所貨物集散地に散在し、昭和十三年に於ける之れら主要倉庫の入庫個數は約二千七百萬個、この價額八億五千六百餘萬圓、出庫個數亦二千七百萬個、この價額八億二千九百餘萬圓に達した。

## 會　社

昭和十二年末現在大阪に於ける會社の數は總計九千七百三社にして、この會社資本金總額四十七億二千百二十四萬圓、六大都市中東京に次ぐ第二位を占めてゐる。我國商工業の中樞都市たる大阪がその會社數に於て東京の次位にあるは近年一般企業の設立經營が多分に政治的意義を有ち、中央との連絡折衝の便宜上その本社を東京に置く必要から斯かる現象を生じたのであつて、各會社の經營上の本據及びその活力的財源は殆ど大阪に在る支店の營業成績如何に懸つてゐると云つても差支ない。

これを會社組織別に見るに總合計一萬余のうち、合資會社が最も多く合名會社及び株式會社は略同數にして、また資本金額に就て比較すれば株式會社斷然他を拔きんじて最高位に在り、合資會社及び合名會社は遙かに少額となつてゐる。

又之を業種別に見るに、商業會社五、〇七九社、この拂込資本金十四億六千二百餘萬圓筆頭にして、工業會社の四、一〇一社之に次ぎその拂込資本金十六億二千六百餘萬圓となつて居る。運輸業鑛業、農業等右に續くのであるがその會社數及び拂込資本金額は前二者に比して遙かに少い。

更に之等諸會社を資本金額に依つて類別すれば資本金五千萬圓以上のもの十二社、五千萬圓未滿のもの八十六社、一千萬圓未滿のもの五百七十九社、一百萬圓未滿が二千百九十七社、十萬圓未滿のもの四千百五十六社、又一萬圓未滿の小會社は二千六百七十三社となつてゐて、全體から見て資本金一百萬圓以下の中小商工業會社が總數の絕對過半數を占めてゐる。（何れも昭和十二年末現在）

## 金　融

### 銀　行

明治九年本邦最古の三井銀行が大阪に分店を開業して以來六十有餘年、現在（昭和十二年末）大阪

市内に於ける營業銀行は本店八行、支店二三〇行、合計二三八行の多數に及ぶ。即ち之を銀行種類別に見れば特殊銀行七行、普通銀行本店五行、支店一七八行、貯蓄銀行本店三行、支店四五行となり、資本狀態を見れば本店銀行資本金總額二億二千二十萬圓、拂込資本金一億六千二百七萬五千圓諸積立金一億七百八萬圓に上る。

支那事變の發生と共に戰時經濟體制の樹立、進行は當然軍需品製造工業の異常なる發展を伴ひ、更に生產力擴充の國策に推進する諸企業の企畫經營は未曾有の活況を呈し、是等諸產業の殷盛は勢ひ一般經濟界に近年稀なる好景氣を釀成し、これら銀行の預金及び貸出は共に膨脹を示した。更に時局に鑑み、一面惡性インフレーションの發生を防止し、一面時局必要資金に對する需給の圓滑を期する國民貯蓄總動員の高唱は銀行業績の好調に一層の拍車をかけられてゐる。

## 信託

大阪市内に於ける信託會社の數は昭和十二年現在本店六、支店四計十社にして、その資本金總額九千二百萬圓、拂込資本金總額二千八百萬圓、諸積立金一千八百五萬六千圓である。又、同年末現在、信託金額は總計九億八千百八十三萬二千圓にしてその中金錢信託最も多く總額の八割二分、七億九千百六萬五千圓を示し、有價證券信託之に次ぎ總額の一割七分、一億七千百二十五萬六千圓となつてゐる。又總信託口數計九萬三百七十一口の中金錢信託は八萬六千百三口を占め全體の九割五分に當る。

前年末に比較すれば有價證券信託及び金錢債券の信託は顯著な增加を見せてゐるが、金錢信託は僅かに五%の增加に過ぎず、而かも收益の契約元本に繰入れられる自然增加を考慮に入れるときは實質的にはむしろ若干の減少となつてゐるものと見られる。すなはち事變發生後に於ける政府の低金利政策强化に伴ひ、金錢信託本來の面目たる收益配當に關する實績主義は實際上これを貫徹することが不可能となり從來の利益配當が一律に三分八厘なりしを長期（五年以上）を三分八厘、短期（二年以上五年）を三分五厘と區分し、短期二割引下を行ひ、一方稅制改革の聲は長期を警戒して短期に向はしめ、その結果郵便貯金等の激增せるにも拘らず金錢信託は前記の如く甚だ振はざる成績を示すに至つた。

## 保險

大阪市に於ける保險會社數は生命保險三十六社、徵兵保險四社、火災保險四十六社（外に外國保

險會社二十八社）傷害保險十四社を始め特種なものとして機關汽鑵保險一社、盜難保險五社、信用保險四社、自働車保險十三社、硝子保險三社、航空保險一社、合計百五十五社の多數に上る。保險はその性質上豫想せらるべき各種の危險に對する保證及び賠償を契約するものであるが社會活動の非常に旺盛なると同時に諸種の偶發的危險の起り易き産業都大阪では他都市に見られぬ多數多種類の保險會社が活動してゐる。殊に現戰時體制の强化に伴ふ各種事業の急速な發展と、一方多數壯丁の動員の爲め保險業界は著しき發展を遂げ特に生命、傷害、徴兵の各保險は昭和十二年中に於ける新規契約三億と云ふ好成績を擧げ同年末に於ける總契約高實に十五億圓を突破するの好調にあつた。

而して、これら保險會社の有する潜在的資金の動員は今時局に於ける一般金融界に非常な實力を示すことゝなり、これによつて金融界の異常梗塞を緩和するに大なる役割を占め、時局産業資金の調達に尨大な公債消化の上に目醒ましい活躍を續けてゐる。

## 其他の金融諸機關

### 郵便貯金

一般勤勞階級及び小市民の零細貯蓄を吸收する郵便貯金は事變の影響を受けた殷賑産業を中心とする經濟界の好況と、他面、尨大なる戰時公債の消化とインフレ排除を目的とする貯蓄奬勵運動の徹底によつて、昭和十二年當市二六五局の取扱ふ郵便貯金預入金は急激な增加を示し、總口數八百八十三萬七千四百三十三口、この總額一億五千二百八十八萬一千圓に達し、その中新規預入人員六十三萬一千五百十一人の多數に上つてゐる。拂戻高は口數三百七十萬三千五十二口、金額一億三千三百六十一萬三千圓にして、年末現在高二百五十二萬五百三十一人、一億八千四百六十七萬六千圓にして、前年末に比し、一千八百六萬九千圓の增加となつてゐる。

### 無盡業

中小商工業者及び一般庶民階級に對する簡易少額金融と、その零細貯蓄利殖を目的とする營業無盡は相互扶助、善隣共存共榮に則る我國獨特の金融機關にして、大正四年無盡業法が施行せられて以來、大藏大臣の監督の下に堅實な發展を遂げて來た。大阪には大阪無盡株式會社他十二社（本店十一社、支店二社）を算し、その資本金（昭和十二年末現在）總額百二十七萬圓、拂込資本金五十九萬六千圓、諸積立金五十二萬六千圓となつてゐる。

# 問屋街と小賣店街

商都大阪は傳統の老舗を誇る問屋街もあれば、繁昌をつゞける小賣の商店街もある、其深い軒と狹い町幅であつた問屋街もなくなつた、小賣の商店街も卸賣の問屋街も年々歳々都市の發展につれてこれらの店構へも舊態はなくなり、金錢登錄機の鍵の音と、タイプライターのキイの音がひつきりなく聞えて、問屋街を走る貨物自動車の往き來に浪速商人の意氣と努力を見せてゐる。小賣商店街と問屋街とを書いて、大阪へ見物に來られたり、仕入に來た人々への案内をして見よう。

## 商店街

今日一般に商店街と云つてゐるのは小賣の商店の集まつた街を商店街と云つてゐるから、單に商店街として書いてゐることは小賣商店ばかりの街であることを承知されたい。さて今日の商店街はどうか、商店法が發令されて十六年から午後九時以後は營業が出來なくなつた。近く商店街法と云ふ法律も出來るさうである。統制經濟時代となつて、商店街に大きいショックを受けるものがあるが、大店の商店街はそんなことでは驚かない、自由經濟時代の舊衣を脱ぎ捨てゝ新時代に即して、各商店街の發達に精進してゐる。商業組合まで完全に出來て着々と街の美觀と經營の改革に成功しつゝあるところもあるかと思ふと、市の發達に呼應して街の要求につれて整備される。商店街が次々に作られてゆく。大阪の有名商店街を順次書いて大阪の繁榮を語りたいと思ふ。

### 戎橋から心齋橋

戎橋筋と心齋橋筋とをつなぐ一聯の商店街は、大阪一であるばかりでなく、日本的に知られて有名なる商店街である。この延々十町近き商店街を歩いてゐると、これが眞のショッピングセンターとしての冠たることを感ずる。

### 戎橋筋

戎橋筋は南海難波驛から吐き出される一日十數萬の人々、交通信號が青に變ると、それら人の流れは必ず戎橋筋へ流れてゆく。またこの難波驛前から東へは南海通りとして千日前への映畫見物の

人の買物を待つてゐる、一昨年の暮からこの南海通に更に一軒寄席が興行するやうになつてから、又賑ひが變つて來た、南海通りのことは此の位にしてもとの戎橋筋へ戻る。これから心齋橋筋邊は觀光ルートの方へ譲つて、こゝでは主なる商店について語つてみよう、書きもらした向きも多からうが店舗案内ではないから街の見物に都合のよいやうに書いてゆく。

南地の演舞場がなくなつた跡は三階建の商店街を作り出してゐる、總て阪急百貨店や阪急系統の店舗がならんでゐる、これも最近作られた異色である。天扇壽しと云ふ一本十錢の安値なものが賣出された、そのすしはなか〳〵評判で待たねば買へないほどで常に人山を築いてゐる。この頃は諸物價の騰貴で十錢と云ふすばらしい安値では賣るわけにはゆかない。又大阪で一番よく賣れると云ふ煙草屋もある。少しゆくと、美味なうどんを食べさす店がある、昔は大阪にうどんやが多く、そばはそれに次いだものだが此頃は一寸逆でそばやの方が多くなつてから、うどんを主とした大阪らしい店は大阪から無くなりつゝあることも、大阪の土着のものにとつて殘り惜しいやうな氣がする大阪にうどんは尠くなつてゆくが戎橋筋の「梅ヶ枝」と云ふうどん屋などは、大阪人として自慢したい大阪の味であると云ひたい。

どうも戎橋筋と云ふところは間口何間と云ふ大きい店がないが、ともかく店なみがそろつてゐる値頃の呉服屋がある、あまり高價なものもないが氣輕に買物が出來るのも、この戎橋筋である。大阪名物の昆布屋が二軒ある、フールツパラーもある、こゝの店は果物屋を兼營してゐるので、新鮮なものである、とも角戎橋筋は大阪らしい雰圍氣があふれてゐる、日本晝夜銀行と云ふ特種な銀行があるが、これなども、夜が忙しいところと云ふことが察することが出來る。

魚の大阪として、魚の都を代表する海魚のすき燒として古くから丸万の鯛のすきや鮮魚のすきがとても有名である。年輩の大阪人にとつて、何んだか、昔からあるものを、今に保存されてゐる樣な氣がするのである、次に大阪の名物としての橋屋と云ふ菓子舗から賣り出されてゐる「へそ饅頭」などは浪華情緒を語るものである。

こゝ迄歩いて來ると、戎橋詰である、一日の交通量が十萬人近くと云はれ、東へ行けば道頓堀の芝居街である（このことは見學案内「慰安街」の項を見られよ）

## 心齋橋筋

戎橋北詰から約四丁餘長堀川の心齋橋を渡り順慶町の角までをさして云ふのである、それから先

は問屋街である。心齋橋の商店の主なる店は地所も家も自分のもので商賣をしてゐるので落ちついた處がどこかにある、こうした商店を中心にして心齋橋筋は發展をしてゐる。他の商店街と異つて、各地から集まつて來て造り出した商店街ではなく、舊家を中心にして、追々と發達して來た心齋橋の如きは他に餘り例を見ない。

日曜祭日や土曜などは晝から夜にかけて人出は夥しい、毎年春秋の彼岸を中心にして、この商店街は季節的の變化のあるショウウインドを訴求されるのである。これからの心齋橋筋は、どうなつて行くか、商賣上心齋橋の地理的關係が益々よくなつて來る、御堂筋線は戎橋心齋橋を通じて六ケ所の市營バスの停留場と、地下鐵の驛が難波と心齋橋の二つある、その外路面電車の便利さを加ふればこれ程便利な商店街はなからう。

地下鐵の開通と同時に、まさしく心齋橋筋の繁榮が地域的に區分せられたが、大丸、そごうの二大百貨店と各專門店との間に對立的時代から相互協調時代に入り、大阪心齋橋としての特異性を見せんとしてゐる。今後はどうなるか、つい西のメンストリートである御堂筋の將來を考へて行くにはまだまだ未完成の姿であるから、御堂筋との對象の必要はない。

抑も心齋橋は他の都市の商店街と較べると、發達の歴史が古い。千日前道頓堀は近くにあり、自然これらの歡樂場を見物した人も流れて來る、都會人の心理として只無爲にこの筋を歩いてゐる一つの散歩道として扱はれる向きがある、そんなことからして、賣るばかりの心齋橋筋ではなく商品を見せる心齋橋時代となりつゝあり、現に鐘紡、日本毛織、森永製菓、明治製菓、東京電氣等のサービスステーションや陳列所が出來てゐる。そして、製造家自ら販賣戦に立つてゐる。又京阪電車が宣傳所を設けて、この雜踏から郊外への客を得ようとしてゐる。そうして心齋橋筋の傳統と、新しい企劃とか、とけあつて現代の商店街を作り將來への歩調をなしてゐる。

心齋橋筋の專門店はどうかと云ふと、銘仙だけを賣つてゐる三ツ寺筋の角の「ちゝぶや」などは一寸形變りといつてよい。時どき地方の人から聞くことだが、どうも心齋橋の店などは、そう人が這入つてゐるのを見かけない、どこの店でも番頭さんや店の人が、手をあけて、あれで商賣になつてゆくのですかと云はれるが、專門店の顧客は百貨店のお客とは異なつて比較的見に這入る人が尠ない、必要あつて買物に來る關係で、表の道路の延長の感がない、そこに專門店の良さがあり、殊に心齋橋筋などでは傳統の誇りをもつてゐる。化粧品のをぐらやは、昔からぴんつけ屋として有名

であり、今日は近代化粧品と共に御客を招いてゐるが、店構へが古き姿の面影をどこかに傳へてゐる。同じく泉勘は元來が「おしろいや」で壺おしろいとして、壺入白粉の賣出しで有名な店である。茶舗の川口軒は主人の俳句が散歩者の頭に殘るものである。泉吉の陶器は我國の名陶を集めてゐる。小大丸白井呉服店は依然として昔の居構へのまゝで土藏作りの軒は明治の頃を思ひ出さす、この店は營業は晝間と宵の口だけで、商店法で店を九時に閉店するなどは問題のない店である。

履物の店として、てんぐ履物店がある、良い履物が賣れることに於ては、まづ大阪では、賣上げと共に一二を爭へる店である。雜貨のトイシンやキンシ堂にしても、帽子のカクマツや、トラヤ・チエーンにしても、洋傘ショールの門阪屋、ウサギヤ、今井、玉屋等にしても何れも專門店としての特異性を好んで買ひにゆくのであるから、百貨店のお客心理とは大分相違してゐる。

キムラ縮緬店其の他の呉服店はいづれも各店各樣の氣分があり、主人の心構が見えてゐる。

心齋橋筋の店については、玄かん香の寶飾店やシマダ鞄店などの話もして行きたいが、店の話はこの邊で打ち切つて全體から見た結論とも云ふべきことを書いて次の商店街に移りたいのである。

この心齋橋筋は、戎橋北詰から順慶町までの一筋であつたが、この殷賑はたゞ南北だけの通りでは止まらない、やがてどちらかへ伸びなければならない時が來た。新規の商店が心齋橋筋への進出を必要とされて來た。心齋橋筋の商店の主なる地域は店が借家でなく地も店も我がもので、商賣をしてゆくのに屈托のない人が多い關係で、そう易々と店舗を得ることが出來ない、どこかを得たいと考へてゐた所へ、周防町と云ふ、心齋橋筋の中間の東西の筋が道路擴張して、心齋橋筋に十字路が出來た、御堂筋からも堺筋からも自由に自動車が乘りつけられると云ふ便利が、この周防町へ新しく商店街を產んだ。これらの店は心齋橋筋と異つた店構へである、賣つてゐるものも、專門店らしいもので、一寸ウインドを、のぞいただけでも若い人を喜ばす現代的なものを賣つてゐる、喫茶店も上等なものも必要になつて來た。

百貨店と對立した心齋橋筋が、相互協力となつて今また周防町商店街と十字路となり、其處に新しい雰圍氣を作り出さんとしてゐる。大丸、そごうから北、地下鐵の心齋橋驛の乘降にはどうなるか、心齋橋筋の繁閑を區分けしてゐるやうに見えるが、實際に於て店の進むべきところを進み、ます〳〵商店街心齋橋の誇りを見せてゐる。

× × × × ×

この心齋橋を中心にして大大阪の商店街は、其處此處にもある。こゝで大阪商店街の主なるものを總括的に書いてゆきたい。

## 平野町

こゝは市電京町堀から下車して東へ、京町橋東詰から堺筋まで稱されるのであるが、今日御堂筋の角に大阪瓦斯のビルデングが出來たことと、御堂筋が出來て、町が半途で切られたのとで、舊の平野町の風格はなくなつた。ともかく昔は夜店の繁昌した所で、一六三八の日に夜店が出た。夜店と土着の商店とが、今で云ふうまくタイアツプが出來て北船場の問屋街の店の人が夜店を歩いたものである。この平野町の淋れたのも、以前淀屋橋筋商店街があつてそれと結ばれてゐたので大きい力があつたが、今では御堂筋と一諸になつてしまつたのと、御堂筋と云ふ特別な氣分が出來たので劃然と區分けされてしまつたからだが、やはり平野町は大阪らしい、大阪の人を相手にしてゐる商店街だけに純な大阪人の好むものを賣つてゐるのであるが、以前とは大ぶんに變つて、ガスビル附近だけが料理屋があつたりしてこの一角の繁昌を見せてゐる。



## 天神橋筋

明治時代の名物になつてゐた、アーチのある天神橋は、スマートな現代型の橋に架け替えられ橋幅も廣くなつてから、天神橋筋の繁昌も著しく變つた。其の以前は天滿宮附近が繁榮の中心であつたが、今日では、京阪電車が天神橋筋六丁目へ起點を作つてから、繁榮は北へ北へ移つた。今日では寧ろ天滿宮のある、二丁目三丁目より、六丁目附近の方が繁昌してゐるやうであるが、この天神橋筋は北は長柄橋の詰までゝあるから、この附近の人は十丁目筋と云つてゐる。兎も角天神橋筋は一丁目から六丁目までは商店街として、商品があらゆる部門に分れてゐる。北には京阪電車のターミナルデパートがあり、大阪の商店街を知つて置くに必ず擧ぐべきところである。この街の變つてゐるところは、商店街にはさまつて映畫の常設館の點在してゐるところなどである。

## 九條通と千代花通

西大阪の繁榮の中心である。千代花通は千代崎橋と花園橋との間の歡樂街である、この通りは商店と云ふよりも歡樂街に近いから此項から省くとして、九條通り商店街を見る必要がある、こゝは西は安治川まで一直線に通じた店舗がならんでゐる。九條通りの最大は井筒屋百貨店で、西大阪を代表する店構へである。商業組合が出來て、通りの繁

榮に店が協力してゐる。こゝのお客は心齋橋筋とは異つて消費方面の人ばかりでなく、生産方面の人も多く買物に來てゐるので、他の商店街から見て、安價なものが喜ばれる、こゝも町會の申し合せで軒の看板が統一せられてゐる、西大阪の繁榮を知るに一番よいところである。

### 玉造日の出通

玉造の市電の終點から南へ這入ると商店街がある、この方面の人をもつて顧客としてゐる、お客は遠く大阪東部の人々をもつてゐて、東大阪の代表的なところで、各店がかつちりとスクラムを組んで近時著しく發展して來た。

### 今里商店街

玉造と共にこの方面で覇を爭つてゐる今里商店街は、つい十數年前から急に繁榮したところで、まだ〳〵これから伸びるところである。

### 松屋町筋

古い云ひつたへを持つた商店街である、その昔八軒家に三十石と云ふ京大阪を行き戻りした船が着いた頃は、松屋町と云へば、考へ方によつては心齋橋筋や堺筋以上であつたが、世の中が變つて梅田へ大阪驛が出來て交通がそちらの方へ移つてから、全く昔日の繁榮を失つてゐたのが、最近十三間幅のたんたんたる廣路が完成したので、新しく芽ふく所があつて、天神橋南詰から貿易館のある內本町附近まで新しい型の商店街が作り出されてゐる。

今後更にどう伸びてゆくかは、大阪觀光の人々に期待せられてもよいところである、元來松屋町南部の末吉橋附近は問屋街であるから、別に項を新にして述べることにする。

### 福島淨正橋筋

淨正橋とは今は名のみのこるだけで、堂島川に添つてあつた川があつたいまはうめ立てられてゐる、この通りは新淀川の十三大橋へ出る道で、伊丹石橋池田と北攝の邑々との交通の要路であつて、今で云ふ產業道路であらう。こゝは以前は阪神電車西成線、東海道線と三つの踏切があつて、隨分街の繁榮を禍して來たところであるが、今日では阪神が地下にもぐり、東海道線が高架になつたので商店街としての面目を一新した譯である。

× × × × ×

こうして大阪の商店街を述べてゆくと大阪で商店街として稱し得るものを集めて大小百八十幾つの街があるが、實際に商店街として型をなし相當の繁榮を持ちつゞけてゐる。新世界や飛田の花街などの商店街は歡樂街について語る方が順序だから其の項に讓つて、最後に大阪の商店街はどう動いてゐるかについて述べて見る必要がある。

都市の發展はひとところには靜止してゐないで市の周圍部へのびてゆくが市の部分的には寂れて

ゆく、それも心齋橋筋とか九條天神橋のやうに歡樂地帶に隣接するとか、抜き難き傳統を持つところはその弊をこうむらないが、所によつては商店街の盛衰をはつきり見せられることがある。現に市の端々に小さい商店街が出來ては、榮える、もうつと向ふに又人家が殖える、そこで商店街が又出來る、と、今迄の商店街が淋れてしまふと云つた具合で大阪商店街は絶えず市の發展と平衡してゐる、一二の例は十三（新淀川北岸）市岡、住吉區の田邊方面に其の例が多いのである、小賣商店街はこの邊にして置いて、次に問屋街に移つてゆこう。

## 問屋街

産業都としての大阪で生産せられた商品はどうして配給せられてゐるか、その役割をもつてゐるものは卽ち問屋である、それらの問屋が我が國内は勿論滿洲支那の大陸を始め海外へも輸出して、我國の國力增進に寄與して、日本商品の飛躍に大なる力を大阪の問屋は盡してゐる。どこの街でもそうだが大阪は古くから、商品別に問屋街が出來てゐる。昔は御堂筋は人形町で五月人形や雛人形などを賣つてゐて大阪の人は必ず御堂筋へ人形を買ひに行つたもので、人形買ひの有樣を面白く描いた「人形買ひ」と云ふ大阪落語を聞くとよく當時のことを知ることが出來る。こんな風に菓子は松屋町であり、下駄も御堂筋と云つた具合に一とところに問屋が集まつてゐた。これから主なる問屋街について書いてゆく。

### 道修町

は云はずと知れた藥種問屋の集りである、田邊五平商店、鹽野義、小西儀助藤澤友吉、武田長兵衛など藥種商の舊家がある、いづれも日本の藥業界を背負て立つた商店で今世上で有名藥品として其の顯著なる効果をもつてゐる藥品は殆んど道修町から發賣せられてゐると云つてもよい。昔は伏見町は洋反物問屋が多かつたが、今は道修町の藥店も一つ北の伏見町まで店がある。

### 西横堀

こゝは土佐堀川に面した大川町から道頓堀までの間の川をさして云ふのであるが、この川を中にして西側は瀨戸物町と云つて四ツ橋までのあいだに瀨戸物の問屋が軒をならべてゐる、誰やらの紀行文に、小さい盃から、一抱もあるやうな水壺まで巧みに積まれてある、あの店へ石を投げ込んでも一寸した投げ方では倒れないであらうと書いてあつたそれを見て瀨戸物町と云ふところは大阪人にはこゝに浪速の頃の語り草が今に殘されてゐるやうに

思はれてならない。坐摩神社境内にある陶器神社の夏祭りに、こゝの町で七月二十三日二十四日には、陶器の作り物をするので名高いのである。この川の東側は材木屋が多く木挽きが表で大きい木を挽いてゐるのがよく見られる、又この町を歩いてゐると木の香のぷんと匂ふのも一寸よいものである。それよりも灘や堺の醸造家の大阪支店はそのほとんどが西横堀にある、東側には金露、白鶴都菊、大關、世界長等があり、西側には菊正宗、泉正宗、山星、櫻正宗等の商店があつて、こゝはともかく瀬戸物あり材木がある一寸取合せの趣味多い問屋街である。

## 西長堀

は材木問屋がならんでゐる、材木の市もたつ、西長堀川へ材木を浮べてゐる橋の袂で仲仕が唄面白く材木を曳き揚げてゐる、それとても最近都市の發展で却つて商賣に不便になつて西長堀からぼち〳〵と大正區小林町へ移つてゆくものもあるが、まだ〳〵河岸には材木を澤山浮べて春先には岸の柳に雨煙る日などはとても情緒あふるゝものである。

## 南久寶寺町

こゝは化粧品と小間物と袋物の問屋がある、朝日堂、角倉商店等大代理店があつて地方からの仕入に來る人が、往來してゐる、こゝも狹い町幅であつたのが都市計劃で八間道路となつて見かへすやうに變つてゐる。

## 南久太郎町

三品取引所がある關係で太物問屋と綿糸問屋が多いが、支那事變の間は綿糸綿花の輸入統制から今暫くは一時取引所も休んでゐるので閑散な街である、やがて來る日を待ちかまへてゐる。

## 井池筋

一寸わかり難いが北船場から南船場にかけての心齋橋筋の一筋東の筋であるこゝは家具と箪笥と商店の商品棚の店があつて、主として自家製品を賣つてゐる井池で買物をすることは良いものが買へるので、婚禮の季節になると、娘をつれた親子連れが嫁入道具を買ひに來てゐるのが見受けられるのである。

## 南堀江橋通

井池と同じやうに箪笥、長持、水屋、其他洋風の家具の製造販賣をする家が多い、もと〳〵橋通には建具屋が多かつた。よいものは大阪で作られるが、大量で作られるものは紀伊方面で作られて大阪へ送つて來るのである。

## 北部心齋橋筋

心齋橋を渡つて北へ順慶町からは博勞町と過ぎて行くと問屋街となる、主なるものは雜貨屋が多く帽子問屋、メリヤス製品や毛糸製品等の問屋が多い、殊に南本町邊から、蜂メリヤスの中川商店の附近を中心にして一番多いのである。

## 御藏跡町

南區日本橋三丁目から東へ下寺町へ出る道を行くと下駄屋と駄菓子の問屋街がある、こゝは松屋町から道路擴張によつて御藏跡町へ移つて來た、又下駄の問屋は御堂筋の博勞町附近に集まつてゐたものが、其大部分が御藏跡町に集り新しくこれらの專門店の集まつた、問屋街を作り出したのである、これで昔から大阪俚謠にある「寺町は坊さん、松屋町は菓子屋」と云ふ言葉も影は薄くなつた譯である。

## 松屋町 末吉橋附近

もと〳〵松屋町は菓子製造の店が多かつたが、菓子を仕入に來て、菓子ともつとも緣の多い玩具類の問屋も又多く出來たが、先年の道路擴張で菓子問屋が御藏跡町へ其大部分が移つた、それは駄菓子の製造は益々地價も騰り其の外の雜用も增して行くので家賃や諸掛の安い所でないと算盤が持てないので、引移つた爲め今日の松屋町は玩具や、有名製菓會社の製造のものゝ問屋だけが殘るやうになつたので、松屋町の雰圍氣が變つてしまつた。

## 谷町筋

こゝは羅紗の問屋が多く北部に集まつてゐる、又中間は三丁目四丁目は、既製品の洋服屋が多く、ずつと南の六丁目附近には、機械工具と云つた、專門店が集まつてゐる。

## 立賣堀通

谷町と同じやうに機械工具と鐵、金屬品の問屋街をなしてゐる、こゝへ來ればどんな精密機械でも一般の工具でも總て各部門のものが揃つてゐる。

## 上福島附近

は家內工業のメリヤス製造工場が多く、三四臺のメリヤス製造機械を据えて主婦が中心となり數人の女工を相手にメリヤスを織つてゐたが、それがだんだんと發達して來て、この附近は大阪のメリヤスを仕入れるのに最もよいところとなり、製造經費が低いので、値の安い物が買へると云ふわけで近郊農村から多く仕入れに來てゐる。

これで大阪の主だつた問屋街を廻つて來たが、其の外に、九條方面には船具の專門店が集まつてゐるところもある、商業の一型式として、同一業者が一區域に集ると云ふ風が古き大阪の商業を作り出して來たので、そして品種別によつて地域的に發展をして來たのである。

天王寺　一尙閑人

朝あめや木の芽の上の天王寺
野田村に蜆あへけり藤の頃　鬼貫

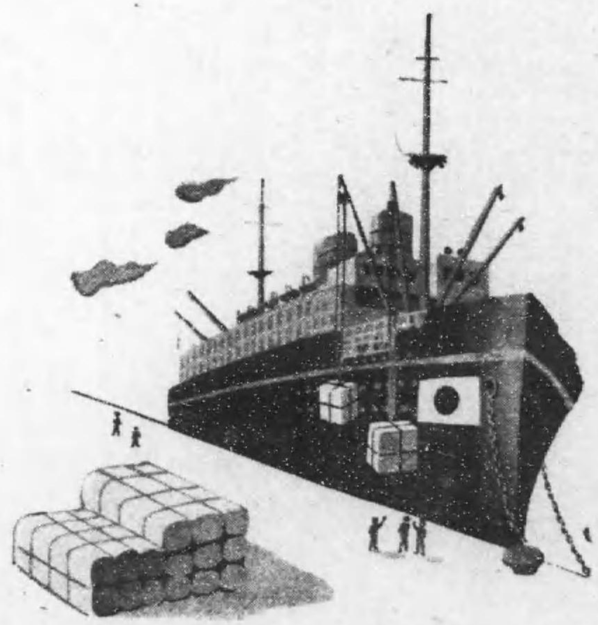
毎歳十月廿日には、誓文拂ひとて商人は蛭子の御神を祭りて、中にも呉服店は年中の手なれし反物をはじめ、小きれをつなぎ、戎ぎれと名づけ値引きして商ふ。買ひ人もあらそひ、我一にもとむる。高らい橋通り、島之内、堂島、天満、うら門筋船場、渡邊筋、佐野屋橋筋其他諸所に多し。此日時雨の降りければ、

よしあしをつなぐ小きれに時雨して染めたもあればそめぬのもあり

（陰山梅好、狂歌畵本浪化のむめ）



# 貿易總覽



天津雁送れ船路を難波まで　隣甫

類船や京江戸大阪三日の月　松意

# 大阪の貿易

大阪の貿易港としての歴史は横濱、長崎等に比して非常に新らしいのであるが、産業都大阪の有つ實力は大阪港の貿易をして急速な發展を遂げしめた。今日の大阪港は、神戸、横濱と並んで本邦に於ける三大貿易港の一として全世界より重要視せられるに至つた。昭和十四年大阪港の貿易總額は十六億四千五百餘萬圓にして、本邦海外貿易總額六十四億九千四百餘萬圓に對し、二割五分强を占め、而かもその中、輸入六億一千百九萬圓に對し、輸出は十億三千四百三十五萬圓を示し、差引輸出超過額四億二千三百二十六萬圓と云ふ尨大な數字を示し、これを昭和八年の輸出四億六千三百五十二萬圓輸入四億四千百六十九萬圓に比すれば輸出入共に正に飛躍的な增加を見せてゐる。

**大阪港累年貿易額**（單位圓）

| | 輸出金額 | 輸入金額 | 輸出超過額 |
|---|---|---|---|
| 昭和八年 | 四六三、五三九、三二 | 四四一、六九一、五七二 | 一、八三七、六四四 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 〃　十二年 | 八五三、一〇四、八六四 | 八三五、一八二、九六〇 | 一七六、九二一、九〇四 | |
| 〃　十三年 | 七九五、三二八、六四〇 | 五一八、〇四五、九四八 | 二七七、二四四、二五二 | |
| 〃　十四年 | 一、〇三四、三五〇、八五 | 六二一、〇八六、四三七 | 四三三、二六四、四四八 | |

右の表に示せる如く、本邦對外貿易に於て近年稀なる記錄的輸入超過を示した昭和十二年に於てすら、大阪港は約一千八百萬圓の出超を示した、大阪港は正に本邦に於ける典型的出超港であると云へるのであつて、東亞新體制の完成に邁進する本邦の源泉的經濟資力を賄ふべき大阪港の使命と重要性は今後益々加重せられる事であらう。

前記の如く大阪は巨大な生產都であつてその繁榮は商業に始まり工業によつて育成されて來たのであつて、横濱、神戸等の如く純然たる港都ではない。横濱、神戸、長崎等は往古純粹に貿易港として指定せられ夫々の地に所謂外人居留地を設置し、此處に多數の外人商館が店舗を構え、外人との商取引を開始したのであつて、謂はばこれらの諸港市は之等居留外國人の爲めに開き之等外人商館によつて發展した港であると云へるが、大阪港は前記の港都とは全く異り、大阪が有つ經濟力の必要から生れ、その貿易の繁榮は自力的積極的な本質をもつてゐる。斯かる大阪港の特質は同時に大阪港をして純然たる物資出入港たらしめ、更に隣接せる神戸港をして物資出入に關する限り、全くの大阪港の補助港たるの觀を呈するに至らしめた。卽ち現在、神戸港に出入する貨物の大部分は大阪より供給され或は大阪に吸收されるのであつて、されば大阪の貿易は大阪港出入のみを以て判ずる事は出來ない、神戸港を經由するものを併せ考へなければならないと云ふ結果になる。

## 輸出

大阪港昭和十四年に於ける主なる仕向國別貿易を見るに、その筆頭は所謂圓ブロックと云はれる關東州、滿洲國、及支那向輸出にして、六億八千百三十四萬九千圓に上り、總額の六割五分を占めてゐる。卽ち滿洲國の建設進行と共に、尨大なる建設資材生產設備等の供給を必要とし、一方支那事變は着々進展して北支、中支、南支各地に於ける戰後再建設工作は益々之に要する諸資材の入手を需め、一方戰後の支那民衆に對する生活必需品の供給及び占領地區に進出發展する邦人の增加に伴ふ物資需要の增加等、軍需資材のみならず、戰後工作に必要なる諸物資の需要增加が右の如き尨大なる圓域輸出となつたのである。而して、この尨大なる圓域輸出の結果は、內地に於ける必死の生產擴充策の遂行にも拘らず、內需物資の不足、第三國向輸出資材の逼迫等、困難なる問題を惹起

し、且又、支那法幣操作による支那經由第三國向輸出の不當利潤追求等好ましからざる事象發生し終に昭和十四年末期に至りこれら圓域地方向輸出の調整を斷行するに至つた。

圓域輸出に亞ぐ大阪港輸出の主要相手國は、英領印度（九千六百八十一萬圓）蘭領印度（七千八百七十七萬三千圓）にして、イラン（千四百萬圓）、北米合衆國（千二百萬圓）、ケンヤ、ウガンダ、タンガニーカ（千百萬圓）佛領モロツコ（千百萬圓）イラク（一千萬圓）、濠洲（一千萬圓）等の順である。右の如く大阪港輸出品の大部分はアジヤ諸國、南洋、印度地方に殆ど仕向けられ、北米、南米、歐洲等への輸出は比較的小額である。

**大阪港洲別輸出額**（昭和十四年、單位圓）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 亞細亞洲 | 九二九、六五六、一五一 | 歐羅巴洲 | 一三、九七一、八五五 |
| 北アメリカ洲 | 一二、五七四、四七八 | 中央アメリカ洲 | 六、二三三、六九一 |
| 南アメリカ洲 | 一七、七二三、四一三 | 阿弗利加洲 | 四一、八一七、三一〇 |
| 大洋洲 | 一二、三六三、九八七 | | |

次に大阪港輸出品の主なるものを擧ぐれば、大要左記の如くにして、中でも本邦輸出品中最も主要部分を占める纖維工業品を始め、鐵製品、罐罎詰食料品、紙類、硝子及同製品、機械及同部分品等の輸出は斷然他港を壓し、大阪に於ける工業製品の海外發展を如實に物語つてゐる。左に大阪港主要輸出品を掲げる。

**大阪港主要輸出品**（昭和十四年）

イ、綿織糸　本邦紡績工業の中心地たる大阪港の輸出は五千二百六十餘萬圓にして、本邦綿織糸總輸出七千百九萬圓の約七割四分を占め、神戸の九百五十餘萬圓、横濱の七百三十餘萬圓に比すれば、綿業大阪の一班が窺はれる。

ロ、綿織物（生地、晒、其他）　綿織物の本邦總輸出額四億三百九十四萬圓の中、大阪は其の五割餘、二億一千二百萬圓を輸出し、神戸港の一億四千九百八十二萬圓、横濱港の六百九十六萬圓を壓倒してゐる。

ハ、人絹織物　大阪港の輸出額四千八十七萬圓にして、神戸の六千九百一萬圓に亞ぐが、本邦總輸出額一億三千七百三十五萬圓に對し大阪はその約三割を輸出してゐる。

ニ、メリヤス製品

本邦總輸出　四千二十三萬圓　大阪港輸出　八百二十六萬圓

ホ、帽子及帽體

本邦總輸出　千四百三十二萬圓　大阪港輸出　二百三十九萬圓

ヘ、毛織物

本邦總總出　五千百八十五萬一千圓　大阪港輸出　千八百二十八萬三千圓

神戸港輸出　二千五百六十萬九千圓

ト、毛絲

本邦總輸出　千八百六十萬八千圓　大阪港輸出　七百十七萬二千圓

神戸港輸出　九百八十七萬圓

チ、罐詰食料品

本邦總輸出　一億三千二百萬九千圓　大阪港輸出　九百七十四萬四千圓

食料品工業は纖維工業、機械工業、金屬工業と共に大阪に於ける最重要なる工業の一つであるが前記せる如く、大阪に於ける食料品工産額（昭和十二年）九千六百六十萬圓に對し、（年度は異るが）昭和十四年大阪罐詰食料品輸出額九百七十餘萬圓に上る事は、大阪に於ける輸出食料品工業の地位が、大體認識されるであらう。

リ、紙類

本邦總輸出　七千七百九十四萬六千圓　大阪港輸出　二千六百七十三萬四千圓

ヌ、硝子及同製品

本邦總輸出　二千七百五萬五千圓　大阪港輸出　千二百三十八萬八千圓

ル、木材

本邦總輸出　一億二千八百六十四萬七千圓　大阪港輸出　三千六百九十九萬七千圓

横濱港輸出　六千三百二十四萬五千圓

ヲ、ブラツシユ

本邦總輸出　五百十六萬七千圓　大阪港輸出　百七十四萬八千圓

ワ、ランプ及同部分品

本邦總輸出　千七百七十四萬五千圓　大阪港輸出　五百三十四萬九千圓

カ、機械類及同部分品

本邦總輸出　二億九百二十萬六千圓　大阪港輸出　八千百六十五萬六千圓

ヨ、絶縁電線

本邦總輸出　二千五百八十萬五千圓　大阪港輸出　千三百六十三萬九千圓

タ、自轉車及部分品

本邦總輸出　二千三十萬五千圓　大阪港輸出　千二百七十二萬一千圓

レ、玩具類

本邦總輸出　二千二百二萬圓　大阪港輸出　百二十四萬四千圓

神戸港輸出　五百四十六萬四千圓　横濱港輸出　千二百二十一萬四千圓

## 輸入

大阪港昭和十四年度輸入額は六億一千百八萬六千圓にして、本邦輸入總額二十九億一千七百六十六萬六千圓に對し、約二割九分に當り横濱、神戸に亞ぎ第三位にある。これを洲別に見れば輸入に於ては、輸出と異り、筆頭は北亞米利加洲にしてその金額二億七千百餘萬圓、次は亞細亞洲にして、二億三千六百二十八萬圓、以下歐羅巴洲、阿弗利加洲、南亞米利加洲、太洋洲、中央亞米利加洲等の順である。

**大阪港洲別輸入額**（昭和十四年、單位圓）

| | |
|---|---|
| 亞細亞洲 | 二三六、二八五、二七四圓 |
| 歐羅巴洲 | 三六、三一〇、四四六 |
| 北亞米利加洲 | 二七一、四二一、三五三 |
| 中央亞米利加洲 | 一、一七一、六二五 |
| 南亞米利加洲 | 二五、五四七、五〇五 |
| 阿弗利加洲 | 二八、二〇六、五八三 |
| 大洋洲 | 一二、一四三、六五一 |

又、之を國別に見れば、最大輸入相手國は、北米合衆國にして、二億三千五百萬圓を示し、支那の九千二百萬圓、滿洲國の五千百萬圓、加奈陀の四千五百萬圓、英領印度の三千七百萬圓等の順である。

輸入品の主なるものは、左表に見る如く、綿花、羊毛、皮革、豆類、油糟、木材等の工業原料品が大部分を占めてゐるが、近年に於ける本邦の輸入統制の強化により、不要不急品、乃至は奢侈品と見られる種類の商品は殆ど全く輸入禁止の形となり、政府の物動計畫によつて優先輸入の行はれる軍需資材、生産力擴充資材の外は、輸出原料品をリンク制其他の方法によつて、輸入を許可されることとなつてゐるのみであつて、而かもかゝる種類の商品にして內地需用に流用せらるゝ恐れあるところから嚴重な輸入品配給取締規則によつて取締を受けることとなり、派生的な諸問題の錯綜は往々輸入原料品の配給入手に支障を來すの狀態にある。斯かる形勢は本邦に於ける戰時統制經濟の一翼として己むを得ざる所であるが、一時的の現象とは云へ、現時體制の繼續する限り、輸入統制の緩和は望み得ないであらうし、內需商品の不足偏在のみならず輸出品製造原料品の入手亦優先配給施設の擴充にも拘らず相當窮屈となりつゝある。而して、今次歐洲大戰は近代戰の特質として深刻果敢な經濟封鎖戰が行はれる結果交戰各國及び屬領植民地は軍需資料及び各種原料品を確保する爲め諸種の輸出統制手段を實施するに至り、斯かる情勢の本邦輸入貿易に及ぼす影響は相當重大なるものあり、よつて是に對處する爲め非交戰資源國例へば中南米、南洋各國との間に諸種の貿易協定の締結を行ひ、必要原料資材の分散入手手段を執るに至つた。

**大阪港主要輸入品**（昭和十四年）

| 類 | | | |
|---|---|---|---|
| イ、豆類 | 本邦總輸入 | 一億二千三百五十七萬圓 | 大阪港輸入　三百二十二萬九千圓 |
| ロ、採油用原料 | 本邦總輸入 | 三千百九十八萬二千圓 | 大阪港輸入　九百七十四萬五千圓 |
| ハ、皮類 | 本邦總輸入 | 三千五十九萬三千圓 | 大阪港輸入　千三百五十三萬四千圓 |
| ニ、苛性曹達、曹達灰、及び天然曹達 | 日本總輸入 | 二百二十四萬六千圓 | 大阪港輸入　百三十九萬圓 |
| ホ、實綿及繰綿 | 日本總輸入 | 四億六千二百萬七千圓 | 大阪港輸入　一億四千九百四十三萬五千圓 |
| ヘ、麻類及其他、植物纖維 | | | |

日本總輸入　三千八百二十六萬六千圓　大阪港輸入　千百二十三萬二千圓
神戸港輸入　千七百一萬二千圓

ト、羊　毛

日本總輸入　七千二百八十九萬圓　大阪港輸入　千四百十九萬五千圓
神戸港輸入　千四百五十九萬七千圓　横濱港輸入　千三百四十三萬六千圓

チ、燐　礦　石

日本總輸入　二千五百四十一萬二千圓　大阪港輸入　五百七十萬九千圓
横濱港輸入　九百六十萬二千圓

リ、木　材

日本總輸入　三千二百三十二萬六千圓　大阪港輸入　一千十五萬三千圓

ヌ、油　糖

日本總輸入　一億四百六十三萬九千圓
大阪港輸入　四百四十一萬三千圓
横濱港輸入　三千二十二萬五千圓

## 現行本邦輸出入リンク制商品

| 輸出品 | 輸入原料品 |
|---|---|
| 石鹸 | 牛脂・香料 |
| 刷子 | 豚毛、メキシコフアイバー、縞黑檀、牛骨 |
| 毛製品 | 羊毛 |
| フエルト朝及朝體 | ノイル、ロツクス、毛ボロ、反毛 |
| 和紙 | マニラ麻 |
| 綿製品 | 棉花 |
| 人絹絲布、人絹製品、メリヤス | パルプ |
| 皮革製品 | 牛及水牛革、馬革、羊革 |
| ステープルフアイバー製品 | パルプ |

## 特殊リンク制商品

ビール、硬化油、砒酸鉛、青化ソーダ、苛性曹達、ソーダ灰、炭化石灰、燐寸、鉛丹、亞鉛華、筆記用インキ、白亞鉛、ペイント、寫眞用印畫紙、セメント、硝子板、寫眞用乾板、帶鐵、可鍛鑄鐵製鐵管繼手銅板、黃銅板、蓄電池、セロハン紙、寫眞用フイルム、過燐酸石灰

同年（明治三十年）十月十七日神嘗祭の佳辰を卜して、築港起工式を天保山舊砲臺内に擧行し小松宮彰仁親王殿下御臨場あらせられて令旨を賜ひ、且手づから基石（三尺六方の花崗石）を防波堤頭に沈下し給ふ、其の令旨及び基石の御銘は左の如し。（大阪府全志より）

令　旨

國の軍備は獨り兵員の夥多軍器の充實のみを以て滿足すべきにあらず、其運用を敏活にする機關之と相待て發達するに非ざれば其威力を發揚するに足らざるなり、曩に大阪築港の議起るや、用兵上一日も緩うす可からざる事業と認め、幕僚に命じ其計畫に參與せしめたり、今や其規畫整頓し茲に起工式を擧ぐるに會す、彰仁の懌ぶ所なり、然れども業は起すに安く成るに難し、諸子夫れ奮勵從事し、以て有終の美を濟さんことを勉めよ。

明治三十年十月十七日

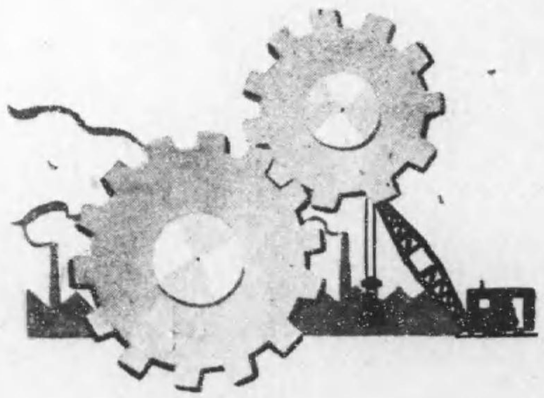
參謀總長　陸軍大將大勳位功二級　彰仁親王

大阪築港基石

維明治三十年丁酉十月十七日行大阪築港起工之式予親臨之沈基石而期其成功矣

參謀總長　陸軍大將大勳位功二級　彰仁親王

# 工業總覽



高津

遠仰聖明仁德朝
高臺歌頌祝豐穰
炊煙不斷千年後
十萬人家一百橋

篠崎訥堂

# 工業都の概觀

商業の都大阪は又本邦に於ける工業の中心都市であり、同時に世界的に有數の工業都市でもある。昭和十二年に於ける大阪市の工業生産額は實に十二億二千五百七十餘萬圓に上り、我國全工産總額百六十四億八千六百萬圓の一三・五%を占めてゐる。昭和十三年以後の數字は未だ正確には不明であるが支那事變の進行と共に着々戰時體制の整備されて來た本邦工産額殊に軍需生産の中心地と目される工都大阪の工産膨張は恐らく驚異的な飛躍を示してゐる事であらう。

滿洲事變直後たる昭和九年に於ける工場全生産額は前年に比し一八・八%の增加率を示したるがそれ以後は累年その生産額增加率は遞減を續け昭和十一年の如きはその前年に比し、僅かに三%の增加を示したに過ぎなかつた。然るに今次支那事變の勃發せる昭和十二年に至り、この狀勢は一變して、實に四二・四%と云ふ急激な增加率を示した。卽ち近年に於ける急速なる生産額の增加は一に、事變に伴ふ軍需を中心とする時局工業生産の增加に依ると云ふ事が出來る。而して、前年に見

る如くこの工産額の増加は五人以上の職工を有する工場の生産額の増加と全くその軌を同じうし、之に反して、五人以下の職工を有する工場の生産額は逆に減少を續け昭和十二年の如きは五%餘の大幅減少率を見せてゐる。斯かる現象は如何なる事情に依るものであるか、時局に鑑み大要左の如き事柄が考へられる。乃ち、

一、時局殷賑産業には五人以上の職工を使用する工場多く

一、五人以下の職工を有つ工場に於ても時局により好影響を受けたものは工場設備の改善擴張を行ひ、職工の増員を行つたこと。

三、また、時局と關係無き工業方面に於ても、一般に舊來の封建的小規模工業より漸次合理化された近代的工業經營に移行せんとし、小規模工場の廢合整理が行はれつゝあること。

等諸種の理由が擧げられるであらう。

次に大阪に於ける工場を各種事業別に、職工五人以上及五人未滿に分類表示すれば左の如くにして、全工場數、五二、三六三工場の中、その八〇・一%を占める四一、九六一工場は五人未滿の職工の從業する小規模工場であつて、その主なるものは食料品工業、製材及木製品工業等である。之に反して、金屬工業、機械器具工業、等に於ては五人以上の職工を使用する工場比較的多數を示し大體に於て、五人未滿の工場は平和工業乃至輕工業に多く、大規模工場は機械器具工業、金屬工業等時局産業方面に高率であると云ひ得る。更に同表に示す如く職工百人以上を有する大工場に就て見れば、機械器具、金屬、化學工業等に於て斷然多く、輕工業に於ては僅かに紡織工業が稍多數を示すのみである。

總體的に見て大阪の工業は所謂中小工業に屬するもの大部分を占め、少數の職工を使役する小規模小設備工場が最も多數にして、その中には古く德川時代に開始せられた長い歴史を持つものもあり、又これらの中には卸問屋業者の兼營によるものが非常な多數に上り、所謂製造問屋として、諸雜品の製造加工と卸商或は輸出を行つてゐるのであるが、斯かる大阪工業の特質は一面近代工業としての本質に缺くる所あるも、一面に於ては商品原價の著しい低減を得る便益ありて、現今内外各市場に大阪雜貨の地位を獲得するに至つた要因の一つはこゝにあると云ふ事が出來る。

乍然、前記した如く、昭和十二年に於ける異常なる工産額の増加は、一に多數職工を擁する重工業、化學工業方面に於ける軍需時局生産に於て行はれ、一方平和産業と目される輕工業方面に於て

は寧ろ生産額の減少をさへ示してゐる。即ち時局の推移は尨大なる軍需物資の製産を必要とし、機械、金屬化學等の諸工業方面は直ちにこの時局的殷盛を遂げたるも一面に於てこれら時局工業の繁忙に影響されて、勞働力の滔々たる時局産業への移動、從つて、平和工業に於ける勞働力の涸渇、原料材料品の軍需優先供給等が行はれ、跛行的殷盛は或種平和工業の犧牲に於て行はれた事は已むを得ない事情であつた。

而して、支那事變の目醒ましき進展は、愈々長期建設の段階に入り、戰爭と建設の同時遂行は異常なる物の供給と消耗を必要とする。我大阪より滿支に輸送さるゝ軍需、宣撫及び建設資材の量は益々增大し、工産都大阪の實力動員は愈々その度を高められつゝある。而かも、輸出振興は事變完遂にとつて片翼の役割を有つところから大阪に於ける輸出品製造工業の重要性は亦益々加重せられつゝある。即ち一方に於ては大陸再建設の大業に邁進すると共に、一方に於ては外貨獲得の爲めに重大な役割を果しつゝある。我大阪商品の海外市場に於ける勢力は既に周知の事實であるが、第一次歐洲大戰を第一機會とし、昭和初期に於ける世界恐慌を第二の機會とし、我大阪製品は全世界に普ねくその優良廉價を以て見事な大進軍を遂げたのであるが、中でも綿糸布、人絹糸布、メリヤス布帛製品、陶磁器、琺瑯鐵器、硝子製品、セルロイド製品、護謨製品、罐詰食料品、帽子、皮革製品、玩具等に於て素晴らしい伸展を見た。各國はこの我優良廉價品の滔々たる進出に狼狽して、或は關税障壁を設け、或は輸入制限、爲替管理、等あらゆる手段方法を講じて防遏に努め、自國製造工業の保護に努力を爲したが、南洋、阿弗利加、印度、南米等文化低く、土民購買力の低き諸市場に於ては廉價なる邦品の輸入は寧ろ必須なるものと認めらるゝに至つた。併し乍ら或種の大阪輸出品は廉價なれども歐米製品に對抗すべき高級優秀なる品質に缺くものあり、或は輸出業者の市場爭奪、低廉品の價格競爭等の結果稍もすれば我が正常なる輸出の振興を阻害する如きことあり、輓近これが匡正が叫ばれ、品質の向上輸出品の高級化が着々進行せんとした折柄、支那事變の突發を見ゝて、事變の長期化は我産業分野の大變革を來し、時局産業の輸出工業吸收、輸出品資材原料配給の窮屈化等を惹き起し、我輸出品の向上高級化に一頓挫を來したが、事變の處理的段階に入ると共に輸出振興の緊要なるに鑑み輸出品原材料の配給に關する諸施設の擴充が行はれ、一方第二次歐洲大戰の勃發本格化を機に我大阪の輸出工業は第三次世界市場制覇が期待せられてゐる。

# 新興代用品工業の興隆

支那事變の完遂は近代戰爭の特質として、尨大なる軍需の獲得と消耗を必要とする。然るに軍需資源のみならず、輸出品製造原料或は我々民需に供せらるべき日常生活用品の原材料にして、我國内に產出せらるゝものは極めて小部分にして、その大部分は海外諸國よりの輸入に依存してゐるのは資源國ならざる本邦としては已むを得ない所である。一方この尨大なる物資輸入に伴ふ國際收支の調整は國家經濟の維持の上に絕對必須なるは言ふ迄も無い所である。此處に於て、一方に於ては增加の一途を辿る軍需を充足せしめ、國防の完璧を期し、他方國民生活の要求をも或程度之を滿たし、以て事變の完全なる遂行を期する爲めには我々民需に供せらるべき物品の製產原料の入手を軍需資材の供給を減塞せしめる事無く、而かも海外輸入に依存の要無きものに求めなければならない。事變發生後急激なる發展を遂げた所謂代用品工業は斯かる崇高なる國家國民の要求より生まれたものである。



また、戰爭は大なる破壞を行ふと同時に他面、偉大なる建設をも行ふ。武器、軍器、軍事施設、都市等に對する凄慘なる破碎と是に伴ふ防衛の必要から更に戰爭の遂行に伴ふ國民生活の不便不足を補ふべき國民總力的努力は必然生產の擴大强化と共に質的量的に大なる進步發展を遂げる。斯くて戰鬪に必要なる種々の新しい兵器の發明及び製產の膨脹と共に、一般生活必需品の製產に於ても革命的な變改が行はれる。今日我々日常生活に關係深きステープル・ファイバーは綿、羊毛に代替して登場した最も代表的なものと云ふ事が出來る。主要代用品即ち現在我々の日常生活用品中現時局下に國策的な發展を見た所謂代用品を列擧すれば大體左の如くである。

| 品名 | 代用品 |
|---|---|
| 金屬 | 陶磁器、硝子、合成樹脂、セメント、セルロイド、エタニットパイプ、ヒューム管、木材製品 |
| ゴム | 再生ゴム、代用ゴム、合成ゴム |
| 皮革 | 擬革、鮫革、鯨革等 |
| 纖維 | ステープルファイバー、大豆カゼイン羊毛、グラスファイバー、ナイロン醋酸纖維、マオラン等 |
| 燃料 | 人造石油、ベンゾール、カーバイト、無水アルコール |

其他にも多種多數の代用品あることであるが、右に掲げたものは現今時局の脚光を浴びて急速な發達を見つゝあるものにして、その中ステープル・フアイバーを除く昨年度(昭和十四年)の總生産額は約一億六千餘萬圓に上ると推算せられる。その主なるものゝ金額を擧ぐれば

一、再生ゴム　千九百萬圓
一、合成ゴム　二百八十萬圓
一、擬革　六百三十萬圓
一、金屬代用品　九千九百萬圓

(内譯)　硝子製品　百萬圓、セメント　五千五百五十萬圓、陶磁器　二百五十萬圓、合成樹脂　二千五百二十萬圓、セルロイド　千五百萬圓等

元來本邦に於いて用ひらるゝ一時的間に合せを意味する如き代用品なる語はその使用に際して輕薄侮蔑的な觀念を以て接しめる習慣を植え付け、右の如き量的質的發達を遂げた大規模生産及びこれらの製品の崇高なる使命と生立ちより觀じて甚だ不相應なる語にして、之等の物品、並に之が生産に精進を盡した科學と企業に對する冒瀆であると云はねばならない。

## 本邦主要代用品工業の概況

### 一、金屬代用品としての陶磁器

陶磁器は金屬類殊に鐵に比し、非常に脆く、急熱急冷に耐え難く彈力性乏しき等の缺點有るも、酸に耐え、保溫力强く、更にその製品價格の低廉、原料の豊富なる等の特徴條件の下に金屬代用として、頗る廣範圍に亘り利用せられつゝある。先づ家庭用品としては、瓦斯コンロ、電氣コンロ、家庭用ロストル、十能、火起し、郵便受、スプーン、灰ナラシ、襖引手、吸入器、ストーヴ等、服飾品としては、徽章、釦等、工業用品としては、紡績用セパレーター、精米機排出口等にも使用せられ居る。之等の普通陶磁器の他に彈力性と急冷急熱に耐えるマグネシヤ陶器、合成樹脂を浸透せしめた强力陶磁器等の特殊品も夫々の用途を以て金屬に代用せられつゝある。

### 二、金屬代用品としての硝子

硝子はその原料たる硅砂、及び硼砂等海外よりの輸入に仰ぐ部分もあり、又その壞れ易き性質上金屬代用として活用し得べき範圍は甚だ狹いのであるが、最近現れた「强化ガラス」の如きはハ

ンマーを以て叩いても割れず、破碎された場合にも細かく飛散せず人體に負傷を與える事が少い等の特質ありて自動車、飛行機等の窓張りに用ひられその他の金屬代用にも種々研究されつゝある。また「硝子スキ鍋」は硅酸を多く含む耐熱ガラスを以て製せられ、攝氏六〇〇度の高熱に耐え、急冷急熱にも強く、腐蝕する事無く、鐵鍋に比し、煮が早い特徴がある。

**三、金屬代用としてのセルロイド**

セルロイド原料たる樟腦は本邦特産にして資源頗る豊富であり、代用品工業として又輸出産業としてのセルロイド工業は時局下非常に重要な役割を占めてゐる。

セルロイドは引火し易く、臭氣を持つ缺點があるが、彈力性、耐水性強く、輕くて、成型加工亦容易なる特長ありて、その活用範圍は極めて廣い。金屬代用としても、石鹸箱、手提湯籠、洗濯ハサミ、蚊張ツリ手、コンパス、スタンプ臺、筆洗、留鋲、鉛筆のキャップ、足袋コハゼ、油差自動車ハンドル、醫療用具、衛生器具を始め建築用の諸品にも汎く利用されて來た。

**四、金屬代用としての合成樹脂**

合成樹脂は硬度相當高く、酸に強く、耐磨耗、電氣絶縁等の特性あり、その活用途によつては金屬に優る性能を有し、近年これが金屬代用品としての著しい發展は正に劃期的なものがある。

イ、石炭酸樹脂（ベークライト）は電氣器具の絶縁材料として廣く用ひられる他、建築用品、家具用品、食器、に適し、機械部分品、靜音齒車、ボタンバックル等の服飾品にも利用されて居る。

ロ、尿素樹脂は食器、盆其他日用品に、

ハ、カゼイン角質物は、洋服ボタン、ナイフの柄、其他文房具類に汎く使用される。

**五、合成ゴム**

第七十五議會に於て成立を見た有機合成事業法が第一目標とする所は、合成ゴム工業の育成確立を期するにあつて、當局の方針によれば向五年間に於て合成ゴムの工業化を完成せんとするものである。斯くの如く本邦では漸く工業化に着手した許りの合成ゴムは、歐米に於ては既に迅くに工業化を完成し、着々好成績を擧げてゐる。

**イ、ブタヂエン系合成ゴム**

是は一九三一年獨逸のイー・ゲーがブタヂエン系合成ゴムの中間試驗に成功し、一九三六年生産を開始した。天然ゴムと殆ど同様の性質を有し、更に、耐油、耐熱、耐寒、耐老化、耐磨耗

等、天然ゴムに優る優秀なものにして、自動車タイヤー、油類輸送管、耐油耐熱パツキング、高壓電線被覆材料、飛行機用ガソリンタンク、汽車蒸氣ホース、化學用タンク、氣球の内張等廣汎且つ重要な用途に供せられてゐる。

**ロ、クロロプレン系合成ゴム**

耐水性、彈力性共に稍弱く電氣絶緣性も低いのが缺點であるが、耐油ゴムホース、耐油パツキング等に盛んに使用されてゐる。

**ハ、ソヴプレン系合成ゴム**

ソヴイエツトに於て製産される合成ゴムにして、アメリカのクロロプレンと同じ系統のものである。

**二、屑ゴム再生**

右の合成ゴムの他に亞麻仁油、桐油等より取る油ゴムもあるが、天然ゴムの持つ特性は却々得られず、そこで屑ゴムを再生せしめた所謂再生ゴムが最も有力な代用ゴムとなる。

世界一のゴム消費國と云はれるアメリカではその一ヶ年の需要高約二十萬トンの中この再生ゴム(主として自動車の古タイヤより再生する)は天然ゴムの約三割を供給してゐると云はれる。

本邦に於ても去る大正十四年當時天然ゴムの市價騰貴に際し、始めて再生ゴム工業が開始され今事變に於て急速に發展し、最近では生ゴム輸入量の一割七分程度の生産を行つてゐる。再生ゴムはタイヤ、チューブ等の廢物屑ゴムを粉碎し、加熱してその中に含まれてゐる綿纖維、硫化物、眞鑄屑、鐵粉等の雜物を除き原料ゴムに再生させるので、製法としては苛性ソーダを使用するアルカリ法及び鑛物又は植物油を使用するオイル油とがある。現在の處これら再生ゴムは獨立した原料として製品を製造し得るまでには到らず、生ゴムに混入して製作を爲すのであつて、その混合率は自轉車タイヤ五〇%、ゴムホース三三%、運動具二〇%、自轉車チューブ一五%、自動車チューブ五%見當である。再生ゴムを混入して得た製品の品質は生ゴム製品に比し彈力性、抗張力、伸張力等に於て幾分見劣りのするは已むを得ない所である。

## 六、牛皮代用としての鮫皮

本邦に於ける鮫捕獲量は一ヶ年約四十萬尾、一尾より得る皮は平均四、五坪(一坪は一尺角)として鮫皮年産百八十萬坪と見得る。鮫皮は牛皮に比し、(一)組成が粗なる事、(二)縱に強いが横

の方向には弱く、(三)利用面積が狹少なる等の缺點あるも、輕くて、防水性に富み、保溫力に富む外、亀裂の生じない點では牛皮に優り、水濡乾燥後に於ても硬化しない等の特質があり、現在靴の甲皮、手提カバン、ガマロ、ハンドバツク等に盛に代用されてゐる。

主要製產會社は共立水產工業會社、日本水產皮革會社。

## 七、牛皮代用としての鯨皮

鯨皮の利用は本邦が世界に先じ明治末期より研究を開始し、昭和十三年には立派に工業化が完成された。本邦鯨皮工業は共立水產工業會社（各捕鯨會社の共同出資）に於て、殆ど獨占的に行はれ、目下主として軍需用品の製出を行つてゐるが、鯨皮は捕鯨日本にとつて最も有望なる代用皮革としてその今後の活躍が期待される。鯨皮は脂肪分多く、その脫脂が甚だ困難なる缺點、及び本邦捕鯨の三分の一は南氷洋に於て行はれる關係上輸送に時日を要し、皮が古くなる點等の不便あるも、その抗張力强く、靴底革の使用に適し、牛皮代用品としては水產皮革中最も優秀なるものである。殊にその利用面積は頗る廣く鯨一頭分は實に牛五十頭に匹敵すると云はれる。

## 八、擬革

擬革製造工業の歷史は本邦に於ては既に相當古く海外市場向に可成りの輸出も行はれてゐる。

現在本邦に於ける擬革は

(一) レザークロース　硝化綿を用ひたるもの
(二) ラバークロース　ゴムを塗裝したもの
(三) オイルクロース　油性塗料を用ひたるもの
(四) ブツククロース　澱粉糊を塗つたもの

等があり、下地に用ひる布又は紙は、綿布、麻布、絹紬、ハトロン紙、和紙、ラシヤ紙、等が多く使用されてゐるが、人絹布、スフ布の利用に就ても研究されてゐる。

柴島

涼みけり一夜を千代の松が鼻　梅風
題井宇橋
いざよひや四つの橋まはる間より　秋崖

望暗浪華城外煙
簾葭偃雨水潺湲
舟程十里人何處
蓑笠唯看百丈牽

香川桐處



# 大阪見學案內

鶏なくやたゞの日詣る天王寺　蟻兄

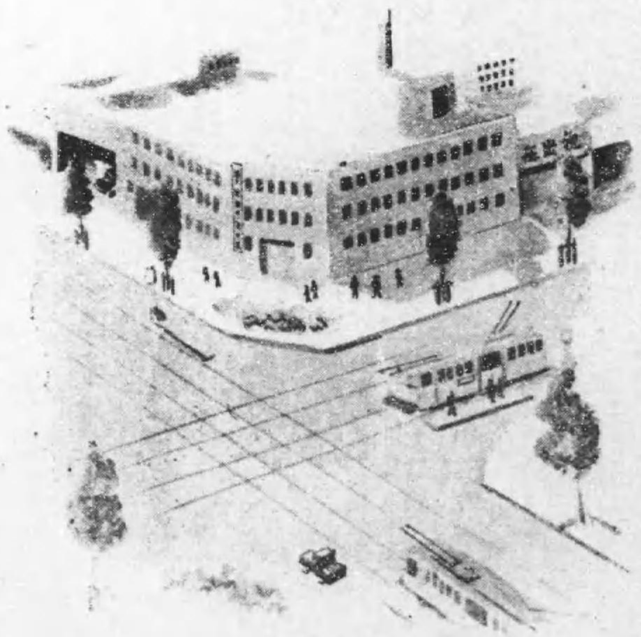
ひきあけや水鶏のなかの茶臼山　其樂

日本橋より一目十景

宮と寺町に帆柱山小舟芝居いろ里宿屋米市　梅好

難波津の月見臺なり天滿橋　井竹女

# 名所・舊蹟



咲くやこの花、浪花津の水の都と謳はるゝ大大阪の活動を、つぶさに見學されるに便利の爲め、非常時局でいまは休止されてゐる陸上の遊覽バスのコースと川を走つた觀光艇「水都」のコースによつて案内する方が、見學の上にも何かと順序がよいと思ふ。しかし大阪へ見學に來られた方々は、國策の線に添つて、電車を利用せられることである、出來得るなればコツ〳〵歩けるだけ歩いて、街の人に道を尋ねたり、地圖で大阪の名所、舊蹟を求めて歩くことは、大阪をよく知ることゝ、商業人は大阪の事情に精通することゝなり、旅行者は古い大阪を知り新しい大阪を見るに最も賢明な方法であることを附言して置く。では案内子が、テク〳〵歩いて見たり市電を利用して陸上に或は川沿ひに御案内することゝし、先づ大阪驛を起點として陸上からはじめる。

# 梅田から大江橋

## 大阪驛（市電—大阪驛前）

大阪驛は發展に次ぐに發展を以てし間斷なく膨れる一方で、明治四年にはじめて「ステンショ」が出來、陸蒸汽がポツポと走つた時分は附近一帶が田圃で、夏の夜などは螢狩りに興じたほどの閑靜さであつた。それも暫くして明治二十五年に、ついぃ此の間まであつた煉瓦建の停車場ができて「あんな大きなもん拵らへてどないしやはるつもりやろ」と當時の市民を驚かせたものだが、それも東の間、現在は日に十數萬に上る乘降客を吞吐し急激な環境の膨脹ぶりを錯綜して流石の大都市の玄關口がせまくるしく、亂雜極まるものとなつた。

そこで從來の機構ではとても扱ひ切れないとあつて地域は十六萬七千餘坪に擴大し、三千萬圓の工費を投じて東洋一を誇るホテルづきの大停車場にする豫定であつたが、支那事變の影響から鐵材その他の制限で完成は少しおくれるらしいが、昭和十五年七月戰時下工藝の美を誇る國産新興材料

で出來上つた新築大阪驛（一階）の絢爛さ、豪華中央コンコースによつて全驛舍完成の姿を御想像願ひたい。一寸その設計を覗いて見ると斯うだ。

**東洋一を誇る新大阪驛**　地下一階、地上五階で中央には高さ百尺の大ドーム（圓屋根）が聳え總面積は五千三百平方米、驛舍の地階、一、二、三階の西半分が驛用で、東半分と四、五階の全部はホテルとなり、驛正面は南向きホテル玄關は阪急寄りの東南向きとなる。地下には浴場、理髮室と、豪華壯大な廣間、待合室、出札口、それから特筆すべきはホテルと一般用の食料品大檢査場とあることだ。また驛の北側の梅田貨物驛から南側の大阪驛前にかけて阪神、阪急、京阪の三電鐵、地下鐵と地上歩道に通じる大コンコース（廣場）が出來上る。そのコンコースの兩側には商店、ガイド、郵便局が立ち並んでゐるといふからちよつと歐米にも數少い豪華なもの。地下廣場から高架フオームへ出るには階段丹に改札口が幾つも設けられ、旅客は切符を切つて貰つて此處からエレベーターで上りさへすれば獨りで自分の乘る電車や列車が判る。また此の地下廣場は通り抜け自由だから驛の裏（北區大深町）から驛前（北區梅田町）にかけて素晴しい散歩道となるわけ。だから此の地下街が出來ると、今までのやうに命がけで驛前廣場を横斷するものがなくなつて、地上の電車、バス、タクシーはスムーズに走れることだろう。もぐら案内はこれ位にして今度は地上へ出ることにしやう。

驛舍は大たい東海道、城東、西成の五條のプラツトホームを持つ大阪驛と、ホテルに二分されることは前に述べた通りだが、西側には一般旅客と離れて貴賓室が設けられる。ずつと驛を東へ從斷して東南のホテルにゆくと、ホテルの北隣には六十五坪の豪華なグリルがあつて、地下で嚴重な檢査を經た新鮮な材料を以て和洋の凝つた料理をたべさし旅客をなぐさめるといふ。どうだす、大阪は玄關からして食倒れでおまつしやろ。尙驛舍の中央玄關の間には三百米。そこへ入ると、上り下り合せて出札口三十八ケ所で（地下室も）、一日五萬枚の切符を捌くといふ。驛の正面を一歩南側へ出ると幅五十間の廣場（西側は緑地帶）があり、その廣場から放射線狀になつてビル街が眼に映る。主なものをあげると驛西側には六階建の大阪中央郵便局があり、正面には八階建の阪神ビル東側には第一生命ビルと現在通りの八階建阪急ビルがある。驛ホテル、簡單に說明すると、大體のホテルの料金は列車の寢臺を標準に定めたもので客室數二百四十四といふから東京ホテルと肩を並べる。客室は全部防音裝置だから窓からホームを見下して、急行列車が白煙濛々と地響たてゝ入つてきてもサイレントだから苦にはならない。宿泊料はバスなしで一人三圓五十錢―四圓▽バスつき一人四圓―五圓▽旅の恥は何とやらのアベツク二人室八圓―九圓。チツプは勘定の一割になるだろうとのことだ。

こと新しく云ふまでもなく大阪驛は大阪市交通運輸上の要點で、東へ西へ日本を貫く大動脈たる

國鐵東海道線と、西成、城東兩線の始發點となつてをり現在の驛舍では中央、東北の三乘降口が設けられてゐる。隣接して阪神、阪急の二郊外電鐵（將來は京阪電鐵もこゝまで乘入れてくる）の起點を控へ、地下鐵の梅田驛があり、更に都市計畫道路である御堂筋線、梅田十三線、梅田九條線なども此處に集中してゐるだけに、高架ホームを出でゝ驛頭に立てば、市電、バス、タクシー等眼まぐるしく往きかひ殷賑を極めるところまさに本市の大玄關である。

**梅田貨物驛**（市電—阪神西口）

一日平均にして發送五千噸、到着四千噸、合計九千噸に上る貨物を呑吐して東洋第一と稱せられる梅田貨物驛は大阪驛の西北に隣してゐる。昭和三年完成の現在の設備では到底近頃の貨物激增に應じ切れないため、四百萬圓の巨費を投じ三ヶ年繼續の大擴張工事が計畫されてをり、完成後は現在の二倍近く年々四百萬噸の貨物を捌く巨大な貨物驛となり、商都大阪の發展に充分對應できることゝなる。尙ほ構内には**大阪鐵道局**がある。

**大阪中央郵便局**（市電—阪神西口）

大阪驛の西隣りに聳立する白堊の高層建築がそれである。内部設備の完成するまで、一部窓口事務は渡邊橋畔の舊局舍で取扱つてゐる。大阪中央郵便局の歷史は頗る古く、明治四年に北區淀屋橋の一角に設けられた「驛遞司大阪郵便役所」の後身として同十年に開局されたもので、もとより大阪郵便局の草分けである。郵便函、切手賣捌所も當時は僅か七ヶ所に過ぎなかつたが、大阪の發展と市民の通信力の增大によつて遞信事務は年々擴大する一方で、また凡ゆる點で市民に深い親しみを持たれてゐる。

**阪急電車と百貨店**（市電—阪神阪急前）

大阪驛の東隣に八層樓の大ビルディングが聳えてゐるのが阪急ビルで、こゝに當代の傑物小林一三氏の傘下に成長した阪急電車と阪急百貨店（一階が乘場で二階以上が百貨店）がある。阪急電車は明治四十三年に開通——池田、箕面、寶塚など北攝の都邑を手始めに、西の宮、六甲、神戸と沿線を擴大し住宅地帶を殖やして日々數萬餘の通勤者を運んでゐる。（沿線案内は別項「郊外電車」參照）

**阪急百貨店**は他の六大百貨店と對立し其の沿線顧客をバツクに斬新獨自の經營振りによつて發展し累年增築してゐるが、それでも午後のラツシユアワー、日曜、祭日など終日店内は人の波にもまれ落ちついて買物も出來ぬほど繁昌してゐる。食ひ意地の張つた話だが、こゝの食堂では毎日三萬

の客を迎へ、一と時は五千人前のランチ、千五百人前のライスカレー、千八百人前のお壽司、一萬三千杯のコーヒを賣つたといふのだから其の景氣が伺ひ知られやう。

さらに阪急では、このビルディングの東側、市電と阪急北野線にはさまれた三角地帶に二つの大きな建物を持ち、東寶系の演劇などを上演する北野劇場と、同じく映畫の梅田映畫劇場、地階には梅田地下劇場とニュース映畫の梅田小劇場があり、地下名物食堂街があるかと思ふと地上には喫茶とグリルの梅田會館があるなど百貨店とともに此處にも阪急式多角經營の特徴を遺憾なく發揮し宛ら一つの娯樂街をかたち造つてゐる。

**阪神電車梅田驛**（市電—阪神阪急前）

省線大阪驛を挾んで東に阪急、南に阪神があり、文字通り鼎立のかたちだ。この阪神電車は明治三十二年の開通で、日本最初の都市連絡郊外電車といふ輝かしい社歴を持つてゐるが、嫁入の聞合せじやなし、家柄なんか聞いて電車に乘る客はない、要はスピーディで、コンフオタブルで何よりも沿線に用の多いところが勝を占める。ところで阪神は、その沿線に尼崎、西宮、芦屋、御影、神戸など歴とした都邑を串刺しに繋いでゐるから、通勤者だけでも毎日數萬人を運んでゐる。現在の地下驛は昭和十四年三月に移轉されたばかりで東西に出入口がありまた地下道によつて地下鐵と大阪驛に聯絡してゐる。なほ地下階待合所にはステージが設けられ絶えずレコード音樂で旅客を慰めまた豪華な地下百貨店を形づくつて居り、阪神マートなどがあつて頗る餘裕しやく〳〵たるところを見せてゐる。然し地上では一階が出來た許りで未完成であるが、近く阪急ビルと向ひ合せて大きなビルが建てられ、そこに阪神百貨店が新設される計畫であつたが、新體制下どうやら貸事務所にされるやうである。

**地下鐵梅田驛**（市電—阪神阪急前）

車輛の快適、停留場の豪勢なので知られてゐる大阪の地下鐵は昭和五年四月に着工し現在は大阪驛下から御堂筋の地下を難波に至り大國町を經て天王寺（阿部野橋）まで七キロの間が開通してゐる。チカテツと簡單に片附けるが、本當に袴を着せた名稱は大阪市高速電氣鐵道と云ひ、大阪市營で、起點を市の北端東淀川區南方町とし、南方から梅田までは高架線、そこで地下へドロン〳〵をきめ現に營業中の大國町——阿部野橋を經て厄除觀音で名高い我孫子町に至る線と、大國町から別れて堺市七道町に至る線が豫定されてゐる。初めは阿部野橋——我孫子間、大國町——七道間は高

架線にする筈であつたところ、事變による資材の統制から種々研究された結果、地下鐵工事として劃期的な無鐵筋アーチ型のコンクリート・トンネルに變更され實現を急がれてゐるが、この新工法に依つて總延長約八キロの土地買收費が不要となり一萬二千噸約三百萬圓の鐵筋代が助かるといふから大きい。ところで地下鐵梅田驛は最新設備を誇る豪華驛で東洋一と稱せられ目覺むる許りの大プラットホームが地下に展開してゐる。この地下鐵に乘れば梅田――阿部野橋間八キロを十四分でスツ飛ばして了ふ。

今こゝでは地上の殷賑を見るために、再び路面へ出て御堂筋を南下することにしやう。

## 御堂筋

大阪の表玄關である大阪驛、阪急、阪神の三大交通ブロックと南玄關である南海難波驛とを繫いで御堂筋がある。幅員二十四間で、歩道、緩行車道、高速車道に別れ、昭和十二年五月に竣工式を擧げた大阪市内交通の大動脈で路面にはバス（梅田から淀屋橋までは市電）地下には先に述べた市營の地下鐵が走つてゐる。阪急前から御堂筋を南下すると約三丁ほどで梅田新道交叉點に至る。

## 露の天神（市電―梅田新道）

菅原道眞と少彦名命をまつる鄕社。その昔、筑紫へ流謫されやうといふ菅原道眞公、恐らくあまり威勢はよくなかつたらう、例の烏帽子狩衣の姿でしよんぼり立ちどまり「露と散る涙は袖に朽ちにけり都のことを思ひ出づれば」などとセンチになつてゐられた、その跡を偲んで建立されたのが「露の天神」だつた。ところが元祿十六年四月二十三日、お初と德兵衛がこの境内で情死したのを當時のジヤーナリスト近松門左衛門が早速と材料にして「曾根崎心中」の名作をものした。それ以來この神社は「お初天神」とも呼ばれるやうになつた。阪急前から歩いて南へ五分とかゝらぬ梅田新道交叉點の東北角にあるのがそれだ。

## 梅田新道交叉點

だが、天神様のセンチメンタルもお初つあんのローマンスも今は想像も出來ないほど繁華な街になつてしまつた。露の天神の隣りには第一生命の南歐に見るバンガロー風の建物東南隅には共同ビルが聳え（地階には喫茶店と銘酒場がある）又そこから一丁ばかり東に白堊の宇治電ビルが高く姿を見せてゐる（このビルの喫茶店には大阪一の電氣蓄音機が設備されてゐる）西南角には太平ビル